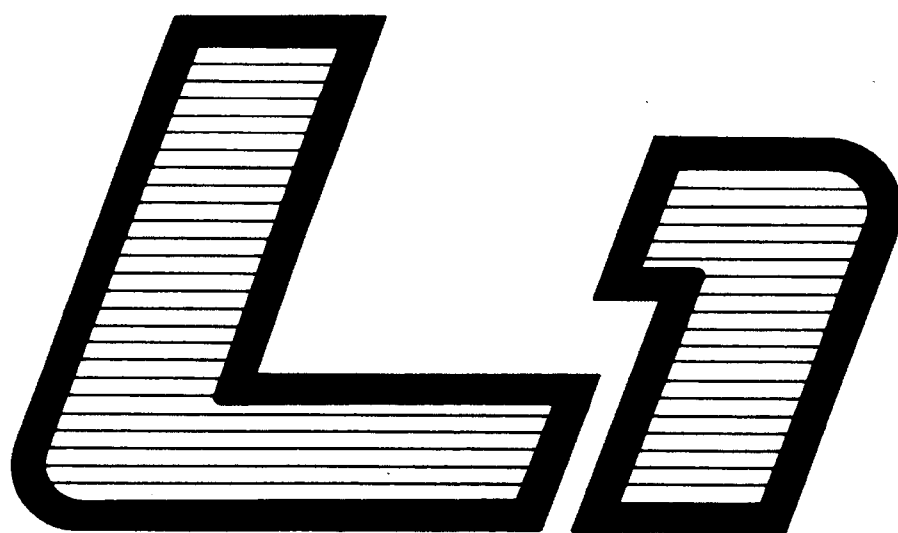
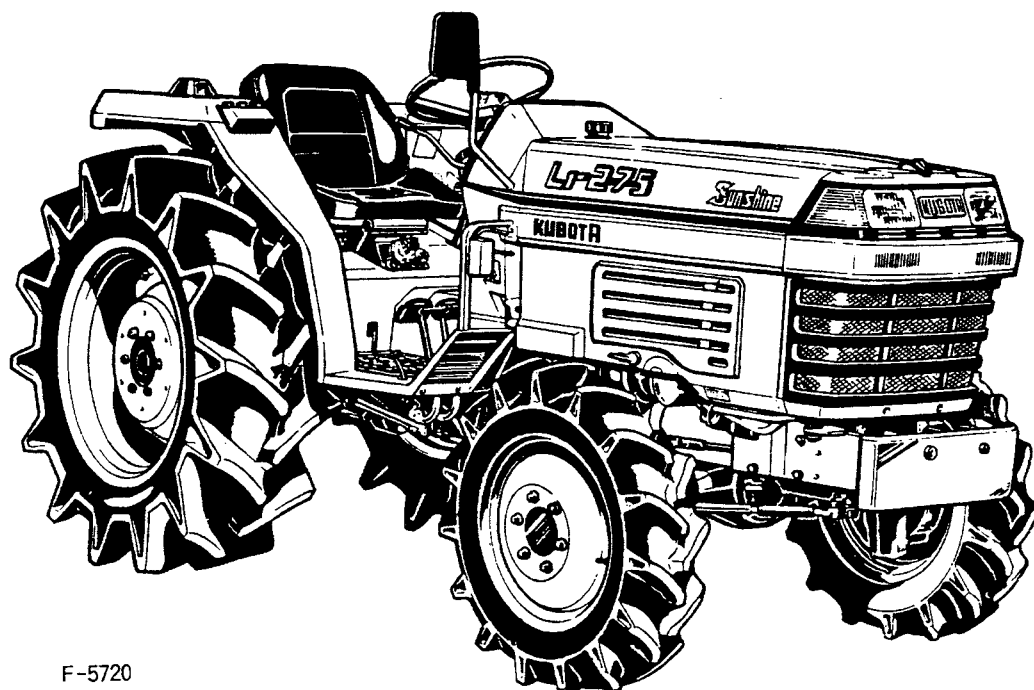


クボタトラクタ

取扱説明書



195
215
235
255
275
295
315
325



F-5720

ご使用前に必ずお読みください

Kubota

トラクタ 安全五憲章

- 1・道路を走行するときは、
ブレーキペダルを連結します。
- 2・農道を走行するときは、
スピードを落とし路肩に注意します。
- 3・ほ場へ出入りするときは、
スピードを落としあぜに直角に走行します。
- 4・トラクタや作業機を点検調整するときは、
必ずエンジンを止め、油圧ロックをします。
- 5・補助者と共同作業を行なうときは、
合図をし安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は、安全五憲章のとおりですが、これ以外にも本文の中で **安全ポイント** として説明のつどとり上げております。

更に、安全のポイントを抜粋した **安全注意ポスタ**・**納入品安全説明書** を別冊にして添付しておりますので、よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございます。
しました。

この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買いあげの製品がいつまでもすぐれた性能を発揮するようこの冊子をご活用ください。また、お読みになった後必ず大切に保存し、わからないことがあったとき取出してお読みください。

なお、製品の仕様変更などにより、お買いあげの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

また、この取扱説明書は仕様の異なった次の製品を合せて表示していますので、お買いあげの製品の仕様をお確めのうえ、おまちがいのないようお願いいたします。

- 大きさ別によって……「195仕様」「215仕様」「235仕様」「255仕様」
「275仕様」「295仕様」「315仕様」「325仕様」
- 駆動方式によって……「2WD(二輪駆動)仕様」
「4WD(四輪駆動)仕様」
- クラッチ方式によって……「シングルクラッチ仕様」
「ダブルクラッチ仕様」
- パワーステアリング付き……「S仕様」
- モンローマチック付き……「M仕様」
- モンローマチックオート付き……「MA仕様」
- 耕深レーダ付き……「MAE仕様」
- 倍速ターン付き……「B仕様」
- ノンクラッチトランスミッション付き(F)……「GST仕様」
- 逆転PTO付き……「X仕様」
- レインガードキャビン付き……「W仕様」

説明はL-275を基本とし、L-275と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。

目次

サービスと保証について.....	1
------------------	---

小型・大型特殊自動車としての取扱い.....	2
------------------------	---

装置の知識について.....	3
----------------	---

スイッチとメータの取扱い.....	3
運転装置の取扱い.....	6
作業機昇降装置の取扱い.....	14
モンローマチック【M仕様】・ モンローマチックオート【MA仕様】の取扱い.....	16
耕深レーダ【MAE仕様】の取扱い.....	21
三点リンク装置の取扱い.....	23

上手な運転のしかた.....	25
----------------	----

エンジンの始動.....	25
エンジンの停止.....	26
ならし運転.....	27
暖機運転.....	27
発進・走行.....	27
停車.....	29
旋回.....	29
坂道での運転.....	29
ほ場への出入り時の注意.....	30
トラックへの積込み積降ろし.....	30
公道走行中の注意.....	30
パワーステアリングの取扱い上の注意.....	31
輪距の調整.....	32

作業前の点検について(仕業点検).....	35
-----------------------	----

点検箇所.....	35
点検のしかた.....	35

トラクタの簡単な手入れと処置.....	38
---------------------	----

定期点検箇所一覧表.....	38
給油(水)一覧表.....	39
燃料.....	40
空気抜き.....	40
各部への給油と交換.....	41
各フィルタの交換及び洗浄.....	44
冷却水の交換.....	44
エアークリーナエレメントの交換.....	46
バッテリー液の点検と補給.....	46
ウィンドウォッシャー液の補給【W仕様】.....	47
パイプ類の点検.....	47
グリースの注入.....	47
ブレーキの調整.....	48
クラッチの調整.....	49
ファンベルトの調整.....	49
ステアリングハンドルの調整.....	49
倍速ロッドの調整【B仕様】.....	49
トーインの点検調整.....	50
前車軸支持部ガタの点検調整.....	50
クラッチハウジングの水抜き.....	50
電気配線の点検, ヒューズの交換.....	51
長期格納時の手入れ.....	52
エンジンの不調と処置.....	53

付 表.....	54
----------	----

主要諸元.....	54
標準付属品.....	57
推奨オイル・グリース一覧表.....	58
主な消耗部品一覧表.....	59
アタッチメント一覧表.....	60
インプルメント一覧表.....	63
配線図.....	65
型式検査(国検)成績表.....	71

作業ごとの一般的な調整要領.....	82
--------------------	----

サービスと保証について

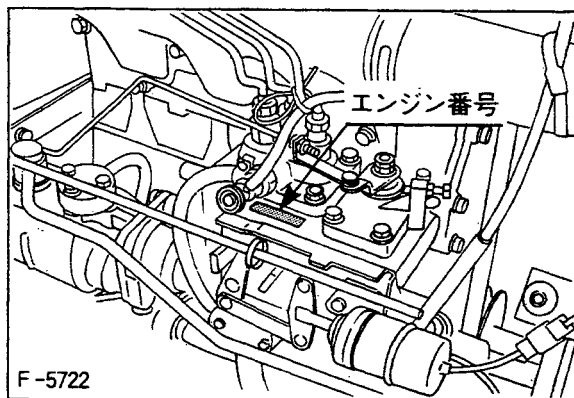
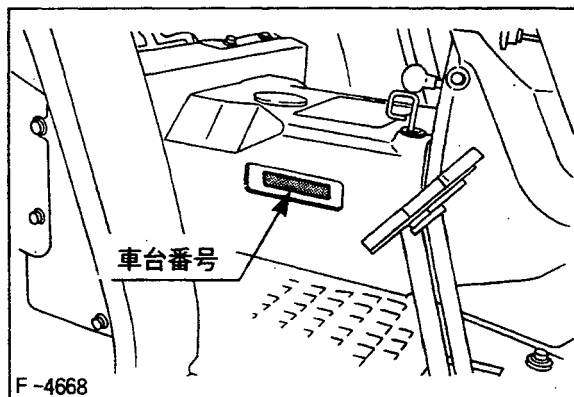
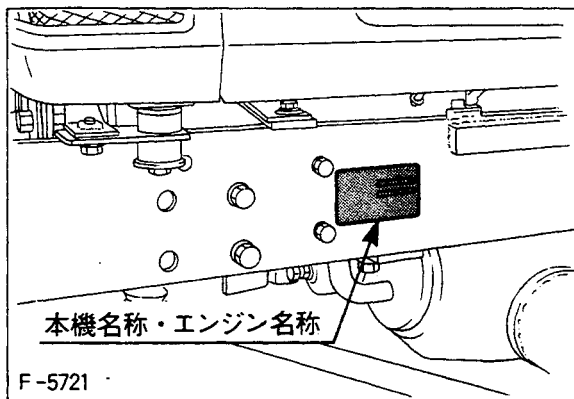
この製品には、サービスブックが添付してあります。
詳しくはサービスブックを御覧ください。

なお、御使用中の故障や御不審な点及びサービスに関する御用命は、お買いあげいただいた販売店・農協又は当社内燃機器支店に、それぞれ「御相談窓口」を設けておりますのでお気軽に御相談ください。

その際 (1)本機名称と車台番号

(2)エンジン名称とエンジン番号

を合せて御連絡ください。



農機型式名	安全鑑定適合番号
クボタ L ₁ -195D	1301001
クボタ L ₁ -215D	1301002
クボタ L ₁ -235D	1301003
クボタ L ₁ -255D	1301004
クボタ L ₁ -255DF	1301005
クボタ L ₁ -275D	1301006
クボタ L ₁ -295D	1301007
クボタ L ₁ -315D	1301008

農機型式名	型式検査(国検)合格番号
クボタ L ₁ -255D	88023
クボタ L ₁ -275D	88024
クボタ L ₁ -295D	88025
クボタ L ₁ -315D	88026
クボタ L ₁ -325D	88027
クボタ SF20 (安全キャブ及び安全フレーム)	88016
クボタ SF24 (安全キャブ及び安全フレーム)	88017
クボタ SF26M (安全キャブ及び安全フレーム)	88018
クボタ SF28M (安全キャブ及び安全フレーム)	88019
クボタ SF325 (安全キャブ及び安全フレーム)	88028

●検査成績表は、71～80ページを御覧ください。

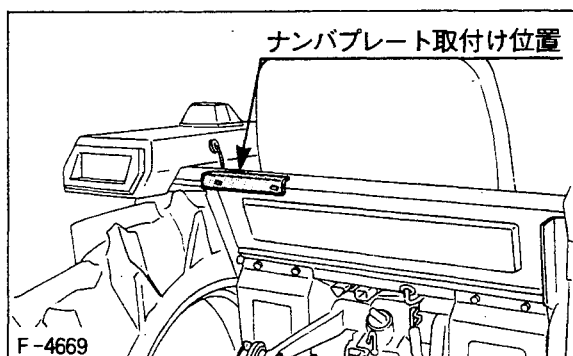
小型・大型特殊自動車としての取扱い

小型特殊自動車について

■届出

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は、市町村条例により、その取得を市町村役所に届出、ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

(手続きは市町村により多少異なりますので詳細は、販売店・農協に御相談ください。)



■運転免許

公道走行時は、小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■自動車保険のお勧め

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されることをお勧めします。

■小型特殊自動車とは

車体の大きさ	全 長	4.70m以下
	全 幅	1.70m以下
	全 高	2.00m以下
最 高 速 度		15km/時以下
原 動 機 の 総 排 気 量		1500cc以下

上記の条件を満足する構造を有する自動車で、このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので、次のようなことには特に御留意ください。

- (1)認定を受けたエンジン以外は、搭載して運行することはできません。
- (2)認定時の構造を変更(大径車輪やドッキングローダなどを装着)した状態では、運行することはできません。
- (3)エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印がはずされたと認められる場合は、一切の保証は致しません。

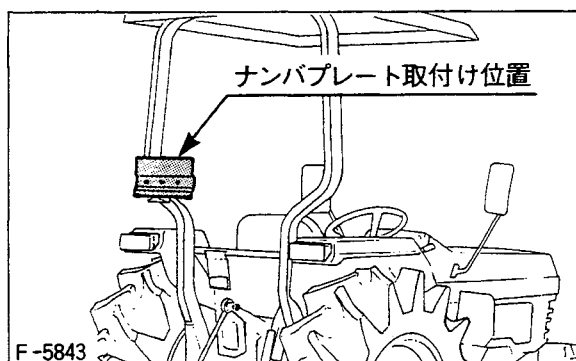
大型特殊自動車について

【L1-325仕様】

L1-325仕様は、大型特殊自動車として認可されておりますから、次の手続きが必要です。

■登録

大型特殊自動車として登録申請し、ナンバープレートの交付及び封印の取付けを受けなければなりません。



■自動車保険

大型特殊自動車の運行には、自動車損害賠償責任保険が必要です。

■運転免許

公道を走行する場合は、必ず大型特殊自動車の運転免許証と自動車検査証を所持してください。

■整備

このトラクタを運転する場合、1日1回運転の前に点検をしなければなりません。

また、6カ月ごとに点検整備することが必要です。なおくわしいことは、お買いあげいただきました販売店・農協におたずねください。

■車検

自動車検査証の有効期間は2年間です。有効期限が切れるまでに車検を受けなければなりません。

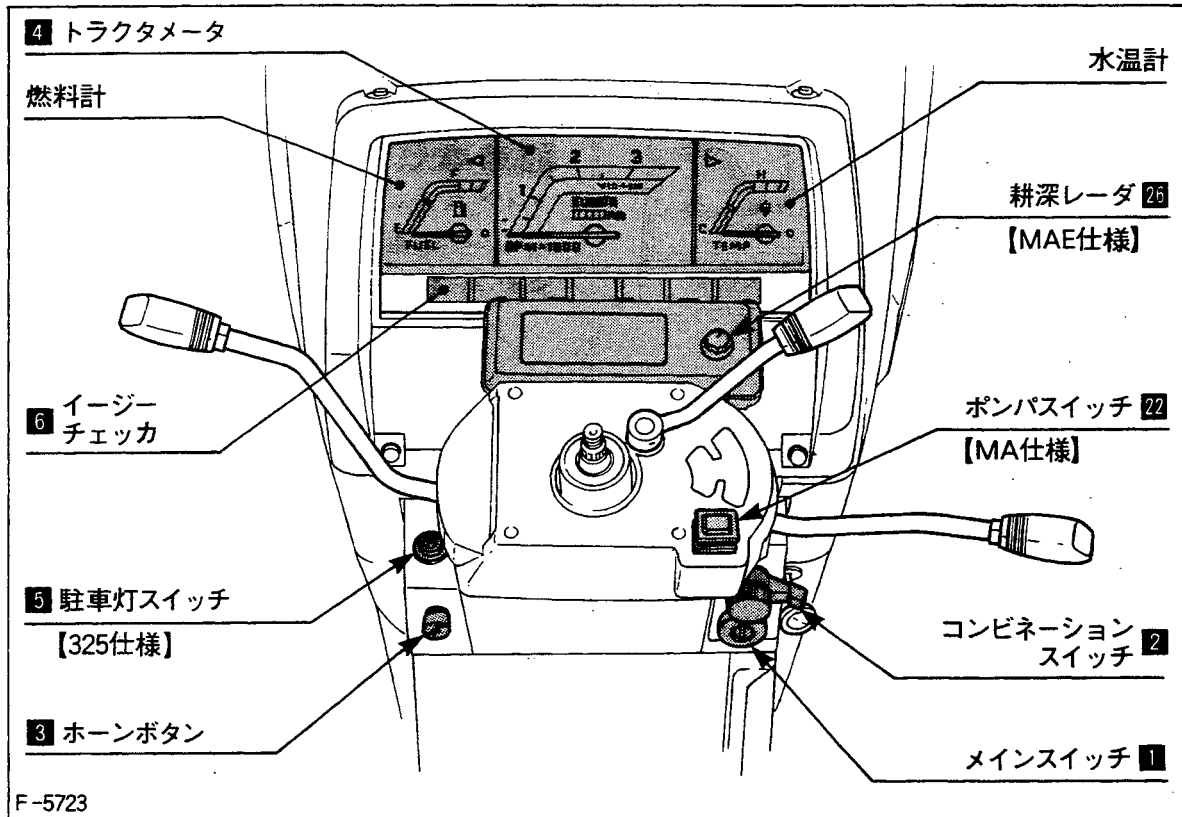
■輪距

公道走行は、必ず指定の輪距で走行してください。指定輪距は下表のとおりです。この輪距どおりでない場合は「道路運送車両の保安基準」違反になり、道路を走行することができません。

	形 式	タイヤの呼び	輪距(mm)
前輪	L1-325	8-16 4PR	1190
後輪		13.6-24 4PR	1175

装置の知識について

スイッチとメータの取扱い

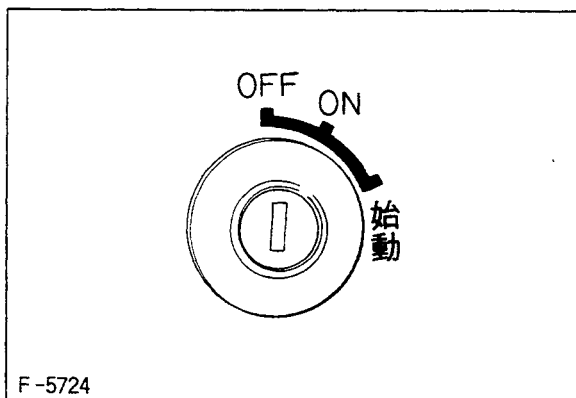


1 メインスイッチ

OFF ……エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置。

ON ……エンジン回転中の位置。

始動 ……クラッチペダルをいっぱい踏込んで、エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に「ON」に戻ります。



2 コンビネーションスイッチ

◆ライティングスイッチ

≡D ……ヘッドランプ上向き照射位置。

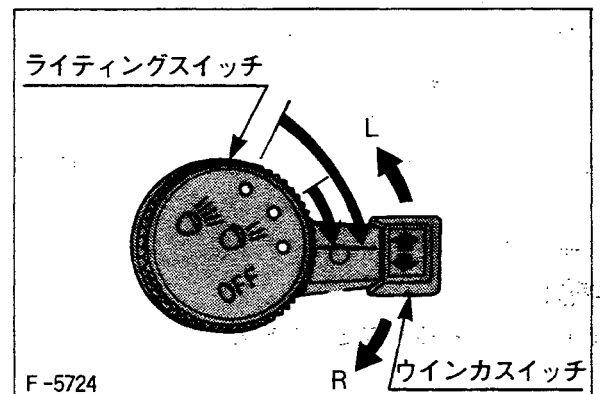
≡D ……ヘッドランプ下向き照射位置。

OFF ……ヘッドランプ消灯位置。

◆ウインカスイッチ

L方向に操作すると左ウインカが点滅します。

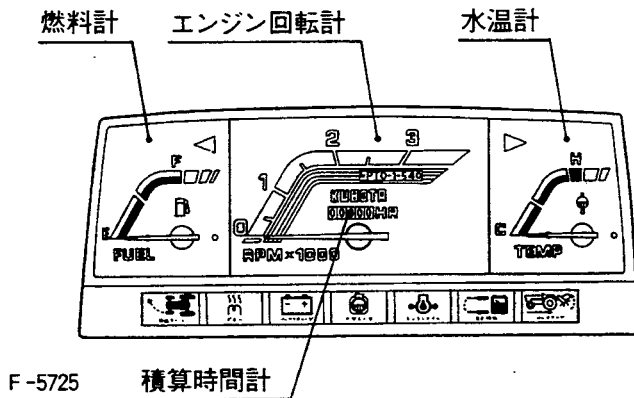
R方向に操作すると右ウインカが点滅します。



3 ホーンボタン

メインスイッチを「ON」の位置にし、ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

4 トラクタメータ



◆積算時間計

エンジンを定格回転で使用した場合の時間を示します。

白わく内の数字を6倍すると「分」単位的时间となります。〔例〕0170(1)……170時間6分

◆エンジン回転計

1分間のエンジン回転数を示します。

◆燃料計

メインスイッチ「ON」「OFF」に関係なく、燃料タンク内の残量を示します。

注意

- Eに近づいたら早めに燃料を補給してください。からにすると燃料系統に空気が入るので、空気抜きが必要です。

◆水温計

メインスイッチが「ON」のとき冷却水温を示します。メインスイッチが「ON」以外では、指針は「C」より下の位置にあります。

指針がレッドゾーンを示すときは、

- (1)冷却水の有無・漏れ。
- (2)ファンベルトのゆるみ。
- (3)防虫網及びラジエータに、泥やゴミが付着していないか。

点検してください。

注意

- エンジンを必ず停止して行なってください。

◆オーバヒートしたときの処置

オーバヒートしたときは、

- ①作業を中止し、
- ②エンジン回転を一旦アイドリング(約5分間)にしてから、
- ③エンジンを停止して、点検してください。

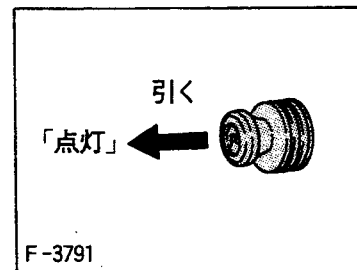
【L-325仕様】

5 駐車灯スイッチ

メインスイッチを「OFF」にしてスイッチを

引く……駐車灯が点灯します。

押す……駐車灯が消灯します。



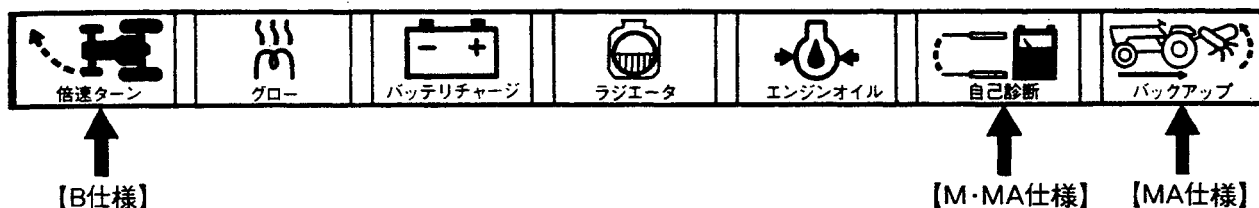
■バックランプ

シャトルレバーを「後進」の位置に入れると、バックランプが点灯します。

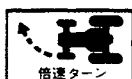
■ブレーキランプ

ブレーキランプ左右を連結金具で連結し、ブレーキペダルを踏むと、ブレーキランプが点灯します。

6 イージーチェック



F-5726



倍速ターンランプ(倍速ターン表示灯)

【B仕様】

倍速ターンに変速すると点灯します。



グローランプ

メインスイッチを「ON」にすると点灯し、燃焼室内の予熱が完了すると消灯します。



バッテリチャージランプ

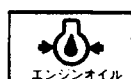
(バッテリ充電警告灯)

エンジン回転中、充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
メインスイッチを「ON」にすると点灯し、始動すると消灯します。



ラジエータランプ(冷却水量警告灯)

冷却水の残量がリザーブタンクのLOW LEVEL以下になったとき点灯します。
メインスイッチを「ON」にすると点灯し、始動すると消灯します。



エンジンオイルランプ

(エンジンオイル油圧警告灯)

エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。メインスイッチを「ON」にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。点灯したままのときは、エンジンオイル量を点検してください。



自己診断ランプ【M・MA仕様】

電子部品の診断時に使用します。
メインスイッチを「ON」にすると一回点滅します。



バックアップランプ【MA仕様】

スイッチボックスのバックアップスイッチを「ON」にすると点灯します。

◆チャージランプについて

エンジン回転中、充電系統が異常のとき、ラジエータランプとバッテリチャージランプの2つのランプが点灯し、警告します。

注意

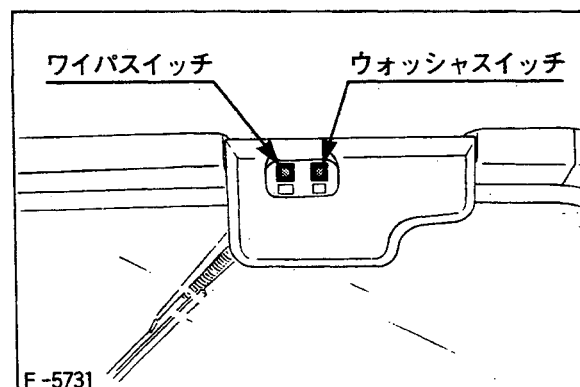
- イージーチェックのみで日常点検は済ませず、点検は確実に行ってください。

(35ページ「仕業点検」参照)

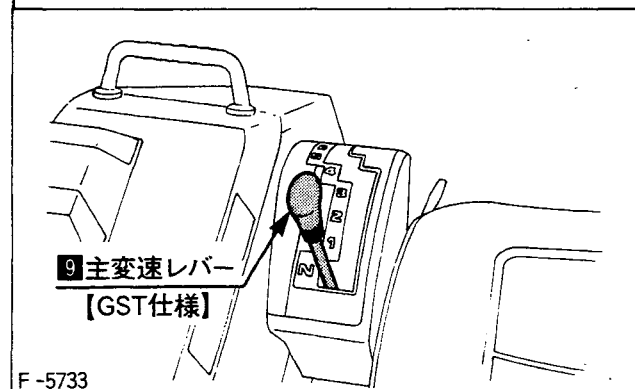
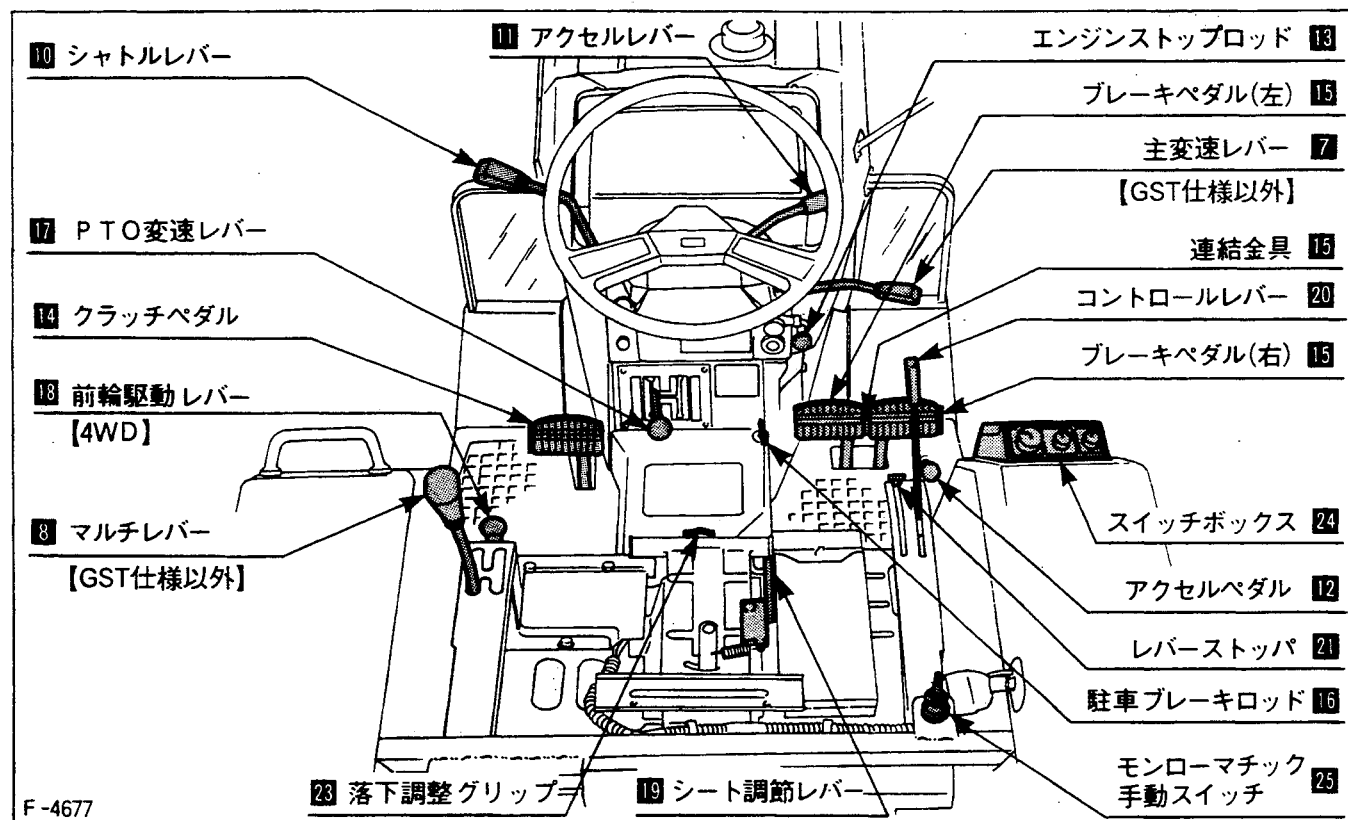
■ワイパスイッチとウォッシャスイッチ【W仕様】

ワイパスイッチを押すとワイパが作動します。再度押すとワイパが停止します。

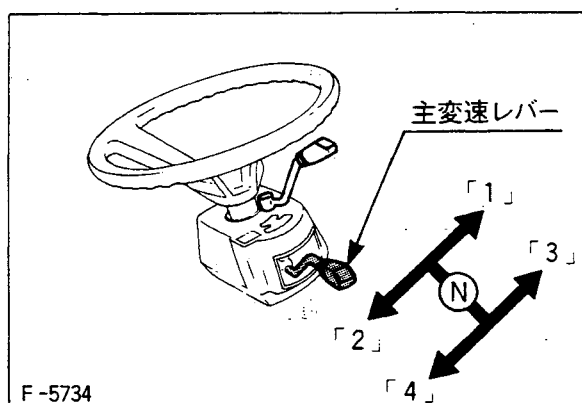
ウォッシャスイッチを押すとウォッシャ液が噴射します。



運転装置の取扱い



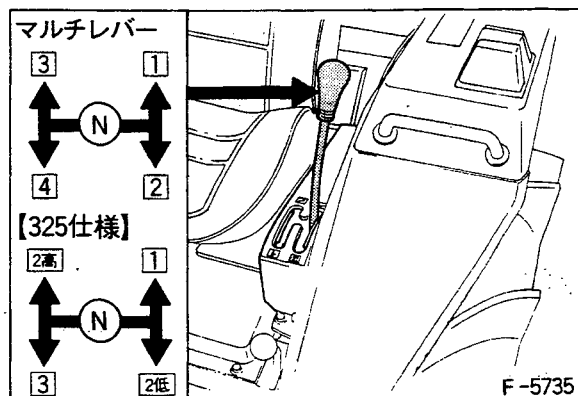
7主変速レバー【GST仕様以外】



■8 マルチレバー【GST仕様以外】

主変速レバーと操作を組合せることにより、前進16段・後進16段の車速が得られます。

マルチレバーの1・2(2低)速はクリープ速度になります。



(運転席側から見た状態)

注意

- (1) マルチレバー操作時、レバー操作が重くなる場合があります。そのときは、クラッチペダルを踏み直し、再度マルチレバーを操作してください。
- (2) また、クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは、いったん主変速レバー又はシャトルレバーを「N」(中立)にしてから操作してください。

L-325仕様では細かい作業速度を得るため、マルチレバーに「2高」「2低」位置を設けています。次のような変速を行なうと、高能率作業が行なえます。

- 「2高」速で作業中に少し車速を下げたいとき
マルチレバーを「2高」から「2低」にすると、車速が約20%ダウンします。
- 「2低」速で作業中に少し車速を上げたいとき
マルチレバーを「2低」から「2高」にすると、車速が約20%アップします。

主変速レバー		1速	2速	3速	4速
マルチ レバー	2高	1.5	2.0	3.2	4.7
	2低	1.2	1.7	2.7	3.9

◆超低速度〔マルチレバー1・2速(クリープ速度)〕の使い方

超低速度(クリープ速度)は、使用と取扱いを誤ると故障の原因になります。

次のことに注意の上御使用ください。

(1)使用できる作業

- ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
- ロータリ耕うんで、ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
- プランタによる移植作業。
- 農業用トレンチャによる作業(農業用に限る)。
- 車への積込み、積降ろし。

(2)使用できない作業(故障の原因になります)

- 湿田での沈没状態からの脱出作業。
- けん引・トレーラ作業。
- フロントローダ作業。
- フロントブレード作業(除雪作業)。
- 土木作業。
- ほ場への出入り。

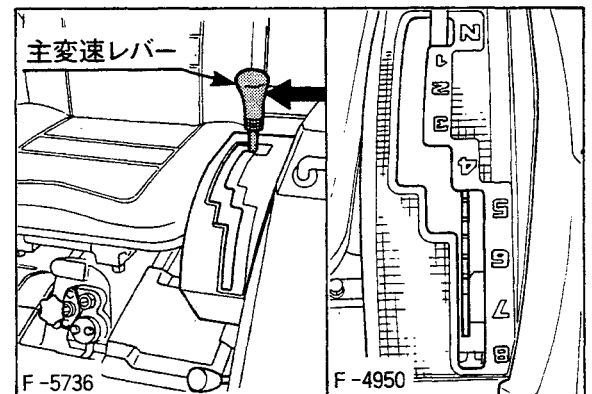
(3)超低速度(クリープ速度)を使用するときは、必ず次のことを守ってください。

- 変速は、クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
- 発進は、駐車ブレーキを必ず外してから行なってください。
- 停止は、クラッチを必ず切ってからブレーキをかけてください。

(超低速度(クリープ速度)では車軸の回転力が大変強くなるので、ブレーキペダルだけを強く踏んでもブレーキはききません。故障の原因になります。)

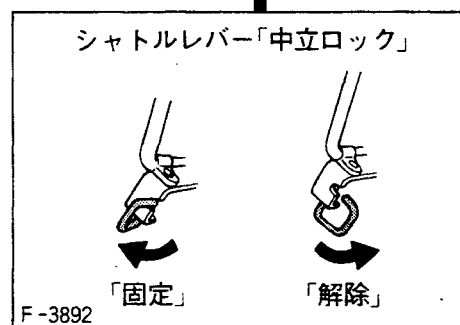
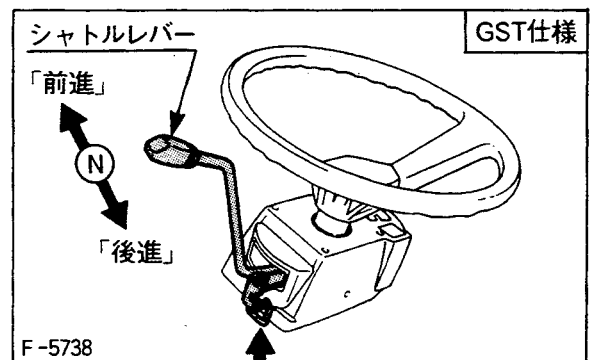
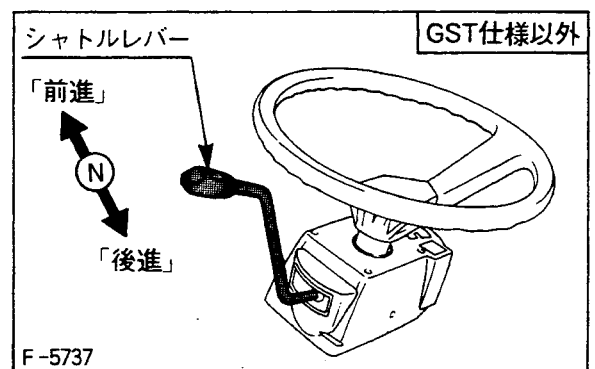
9 主変速レバー【GST仕様】

1本のレバー操作で、前進8段・後進8段の車速が得られます。



10 シャトルレバー

レバーを前に押して「前進」、手前(後)に引いて「後進」です。

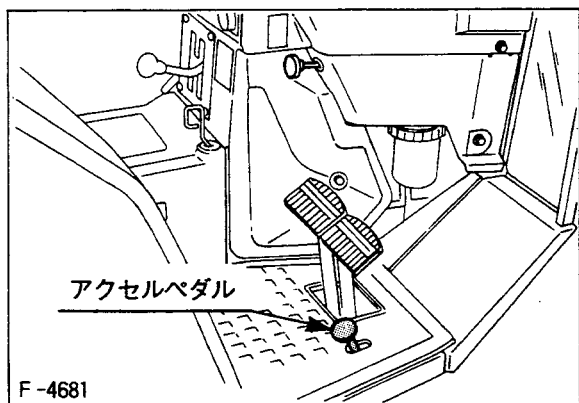
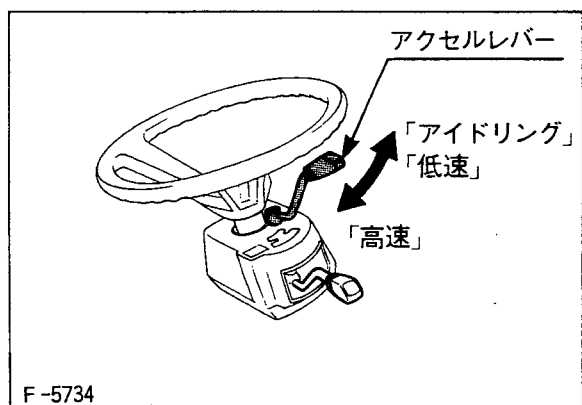


注意

- 停車する場合は必ずシャトルレバーを「N」(中立)にし、中立ロックをかけてください。【GST仕様】

11 12 アクセルレバーと アクセルペダル

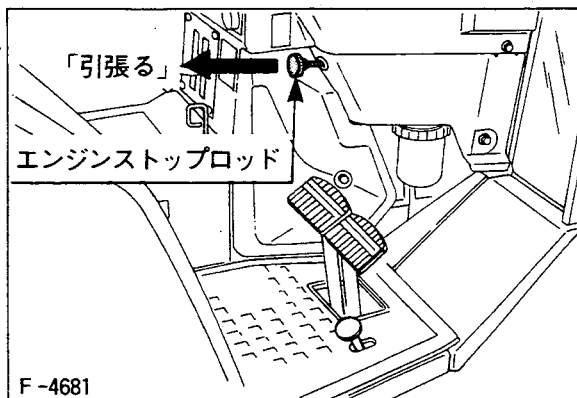
アクセルレバー……主に農作業時に使用する。
 アクセルペダル……主に道路走行時に使用する。
 アクセルペダルは、アクセルレバーと連動しており、
 ペダルを踏込む……………エンジン回転が上がる。
 ペダルから足を離す……………アイドリング状態。



13 エンジンストップロッド

メインスイッチを「OFF」にすると、エンジンが自動的に「停止」します。

万一停止しないときは、エンジンストップロッドをいっぱい「引張る」と、エンジンが「停止」します。



注意

- エンジンストップロッドは、エンジンが完全に停止した後、元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップロッドを引いた状態では、エンジンは始動しません。

14 クラッチペダル

クラッチは、エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。

◆シングルクラッチ仕様

ペダルを踏込む……………クラッチが切れる。

ペダルから足を離す……………クラッチがつながる。

◆ダブルクラッチ仕様

ペダルを1段階踏込む……………走行クラッチが切れる。

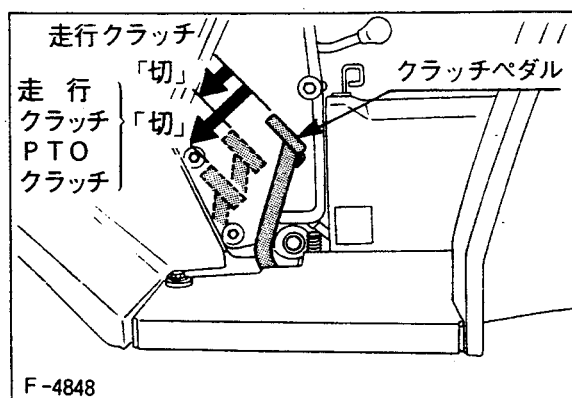
(PTOクラッチはつながったまま)

ペダルを2段階踏込む

……………走行クラッチ・PTOクラッチ共切れる。

ペダルから足を離す

……………PTOクラッチ、走行クラッチの順につながる。

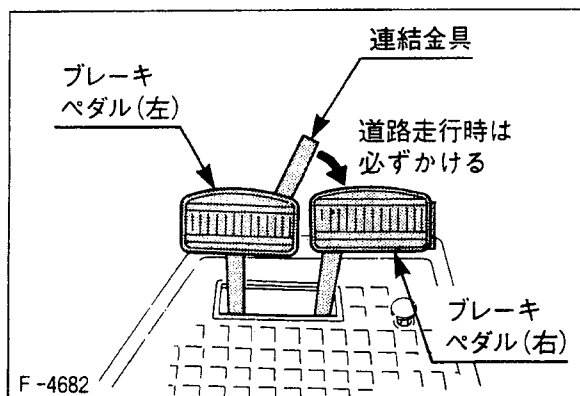


15 ブレーキペダル

ブレーキは、強制的に機体を停止させる装置で、一般車両と異なり、左右それぞれ独立しており、後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。

連結金具をかけた状態………道路走行時。

連結金具を外した状態………農作業時。



安全ポイント

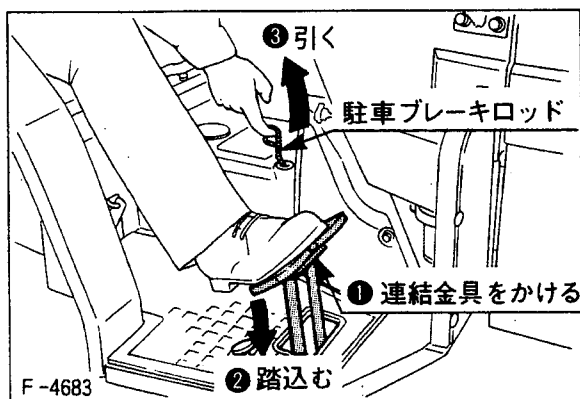
- 道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は、ブレーキペダルの左右を連結金具で、必ず連結してください。

→ 納入品安全説明書14ページ参照

16 駐車ブレーキロッド

ブレーキペダルを左右連結して踏み込み、ロッドを引くと爪がみぞにかみ合い、駐車ブレーキがかかります。

外すときは、ペダルを踏込めば外れます。

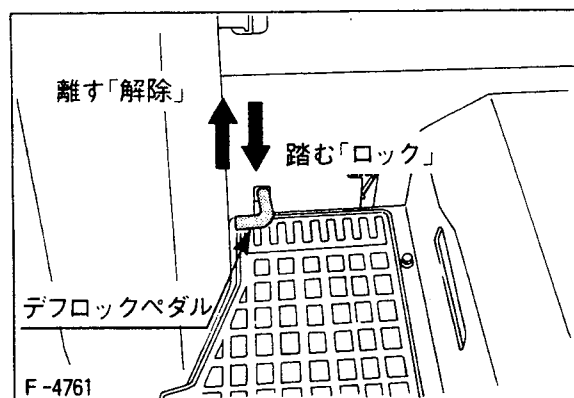


■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で、スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む………ロックされる。

ペダルから足を離す………自動的に外れる。



◆デフロックの使い方

デフロックは、下記のような場合には非常に役立ちますが、使用法を誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので、注意してください。

- (1)農場への出入りやフロントローダ作業時など、片車輪がスリップして直進できないとき。
- (2)農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み、スリップして走行がしにくくなったとき。
- (3)プラウ作業などけん引力を必要とする作業で、車輪がスリップしたとき。

注意

- (1)デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げってから行なってください。
- (2)抜けにくいときは、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
- (3)使用しないときは、足をペダルにのせないでください。

安全ポイント

- デフロックを入れたままで旋回すると非常に危険です。旋回の前に必ず外してください。

→ 納入品安全説明書12ページ参照

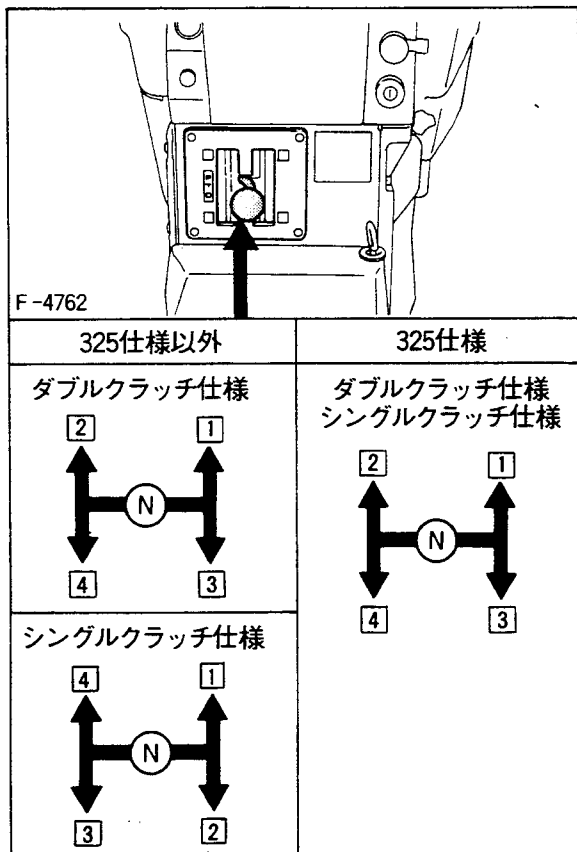
▶もし怠ると……

傷害事故を引起すことがあります。

17 PTO変速レバー

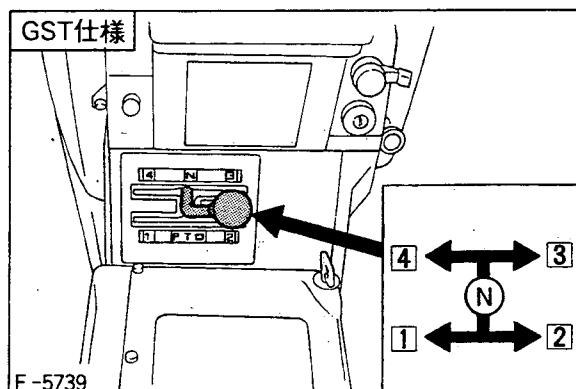
◆X仕様以外

PTO軸(動力取出し軸)の回転速度を、4段階に変速できます。



注意

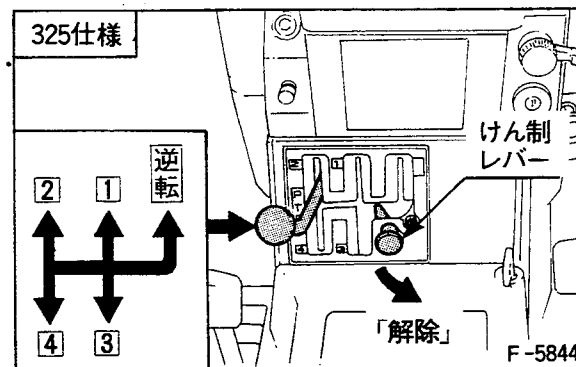
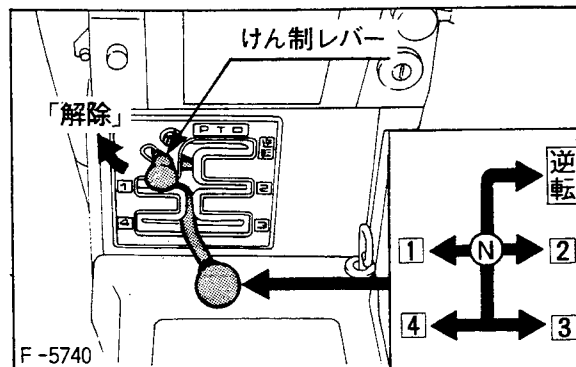
- 「1」「3」速のみダブルクラッチ用になっています。十分クラッチを踏込んで変速してください。



◆X仕様

PTO軸(動力取出し軸)の回転速度を、正転4段階逆転1段階に変速できます。

- (1)逆転に変速するときは、けん制レバーを解除方向に保持しながら変速してください。けん制レバーを解除しなければ、逆転に変速できません。
- (2)逆転から正転に変速するときは、けん制レバーは自動的に解除されます。



◆PTO「逆転」の使い方

(1)使用できる作業機

- インプラメント一覧表(63ページ参照)のロータリに限りません。

注意

- インプラメント一覧表に記載以外のロータリを使用すると、作業機の故障の原因になります。

(2)使用できる作業

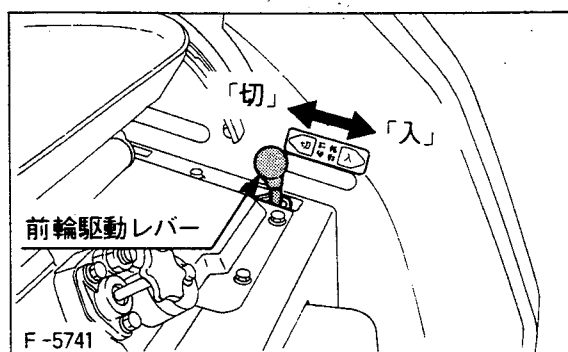
- 土寄せ作業
- 草やワラなどの巻きつきをほぐすとき

(3)使用できない作業

- 未耕地での耕うん作業
- ロータリの爪軸を逆に取付けて行なう耕うん作業

18 前輪駆動レバー【4WD】

前輪駆動の断続に使用するレバーで、クラッチペダルを踏み込み、
レバーを前に押す……前輪が駆動される。
レバーを後に引く……前輪駆動が切れる。



◆前輪駆動の使い方

前輪駆動は、次のような場合に使用してください。

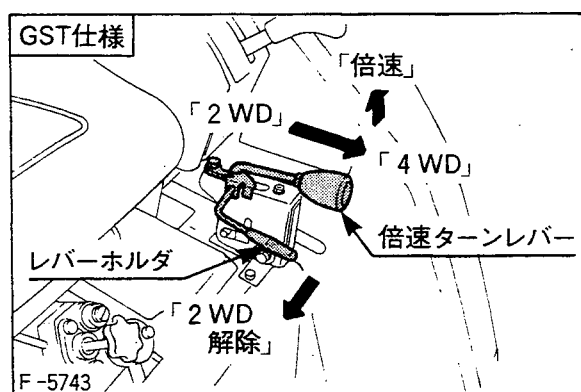
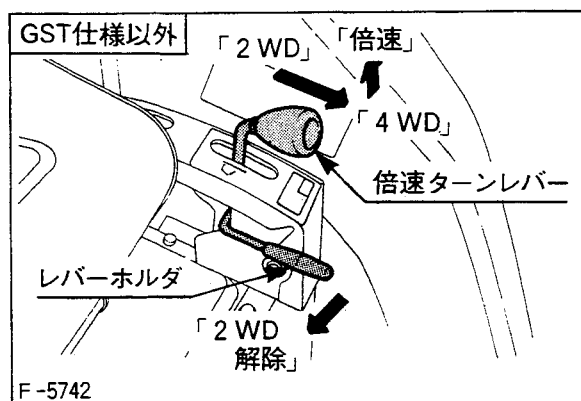
- (1) 傾斜地、湿田、トレーラ運搬作業などけん引力を必要とする場合。
- (2) 砂地で作業をする場合。
- (3) 固い農場で、ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

■倍速ターンレバー【B仕様】

前輪駆動の断続に使用するレバーで、レバーを後に引く……2輪駆動になり、自動的に保持されます。

レバーホルダを解除して、

- レバーを前に押す……4輪駆動
- 更に上に引上げる……倍速ターンが入る。



◆倍速ターンの使い方

倍速ターンは、畑、水田などのロータリ作業に役立ちますが、使用法を誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので、注意してください。

注意

- (1) 倍速ターンの「入」「切」は、前輪タイヤを直進の状態にしてから行なってください。
- (2) ロータ、トレーラなど前輪に重荷重がかかるときは、使わないでください。
- (3) ブラウなどの速度の速い作業には、使用しないでください。

安全ポイント

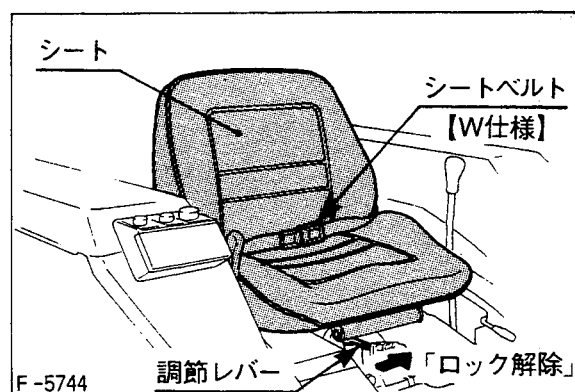
- 倍速ターンに入れたままでは場外を走行すると危険です。ほ場から出る前に倍速ターンレバーを4WD又は2WDに切換えてください。

▶もし怠ると……

傷害事故を引起すことがあります。

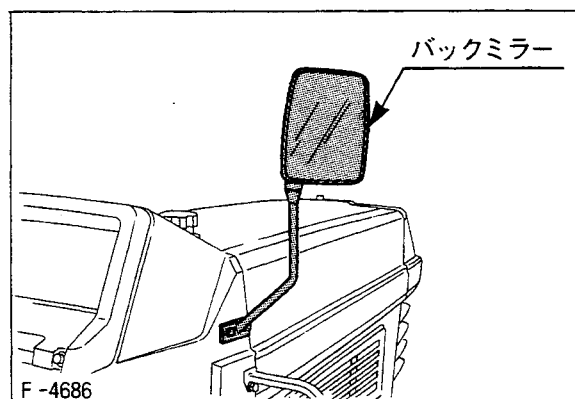
19 シート調節レバー

- (1) シート下の調節レバーを左側に引くと、前後4段階に調節できます。
- (2) 雨のときはシートを前に倒しておくと、ぬれる心配がありません。
- (3) W仕様のみシートベルトは標準装備です。



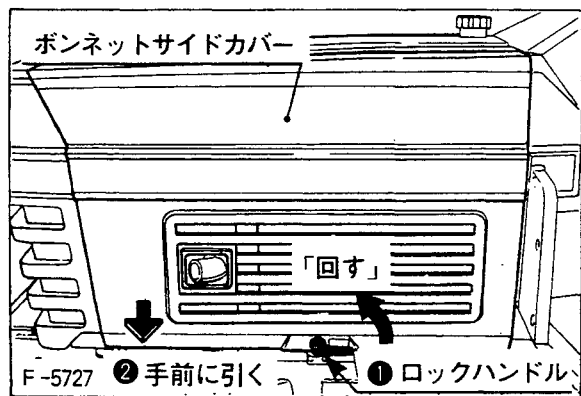
■バックミラー

後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。



■ボンネットサイドカバーの開けかた

- ① ボンネットサイドカバー左右ロックハンドルを回すと外れます。そして、② ボンネットサイドカバーの下部を手前に引き、全体を上を持上げると外れます。

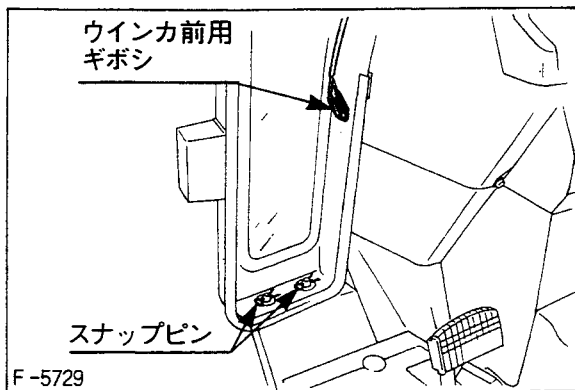


注意

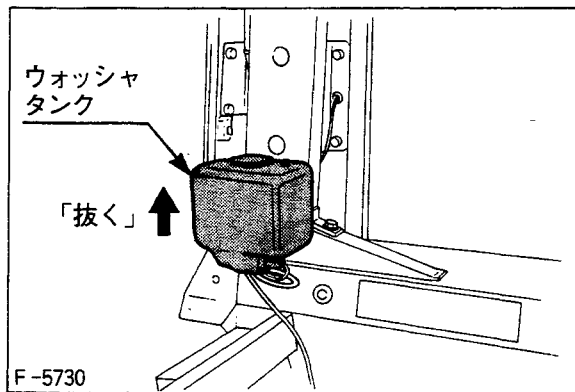
- ロックハンドルとカバーで手をはさまないように注意してください。

■レインガードキャビンの取付け・取外し【W仕様】

- ① ウィンカ前用ギボシ(左右)を外し、スナップピン(左右各2本)を外します。

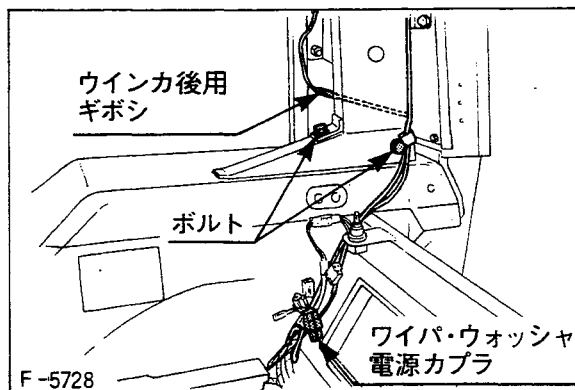


- ② ウォッシャタンクを外します。



- ③ ウィンカ後用ギボシ(左右)を外し、ワイパ・ウォッシャ電源カプラを外します。

- ④ キャビン支柱のボルト(左右各2本)を外します。



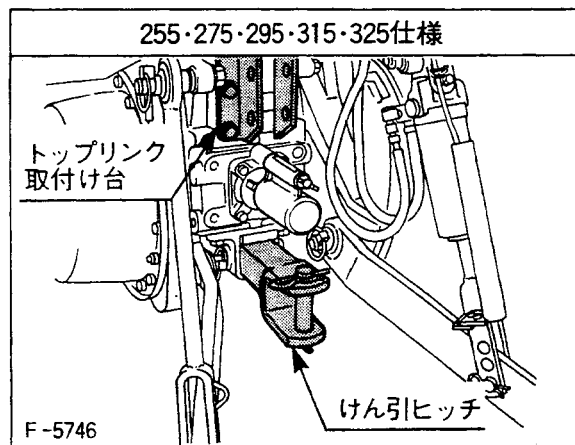
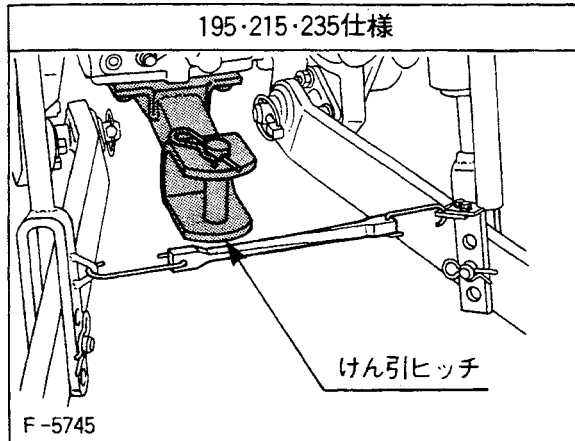
- ⑤ キャビンを持上げて取外してください。

- ⑥ 取付けは取外し順序の逆に行なってください。

■けん引ヒッチ

けん引は、このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。

他の物をけん引する場合は、必ず販売店・農協に御相談ください。



注意

- けん引作業をする場合は、けん引ヒッチを引き出して御使用ください。【255・275・295・315・325仕様】

安全ポイント

- (1)けん引作業をするときは、けん引ヒッチを必ず使用し、トップリンク取付け台で引張らないようにしてください。

▶もし怠ると……

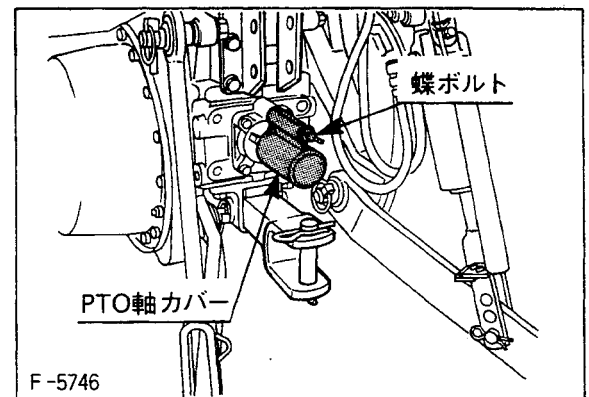
転倒による傷害事故を引起す恐れがあります。

- (2)3点リンクに取付け、PTO軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント(ロータリ、ブロードキャストなど)を使用するときは、けん引ヒッチを下向きにして前へ押込むか、外してください。

▶もし怠ると……

ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当って破損し、災害を起す危険があります。

■PTO軸カバー



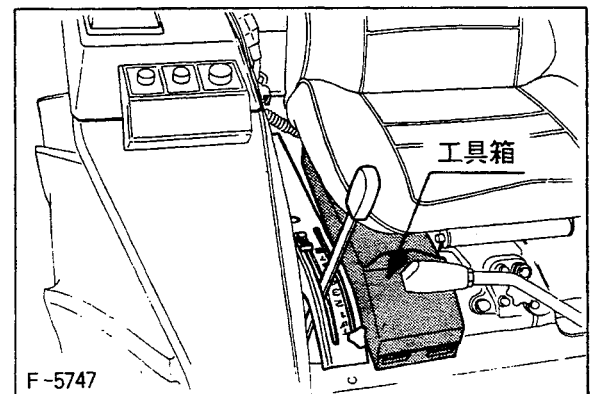
安全ポイント

- PTO軸を使わないときは、PTO軸にグリースを塗布した後、カバーを取付けておいてください。

▶もし怠ると……

巻込まれによる傷害事故を引起す恐れがあります。

■工具箱



作業機昇降装置の取扱い

油圧装置は、クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

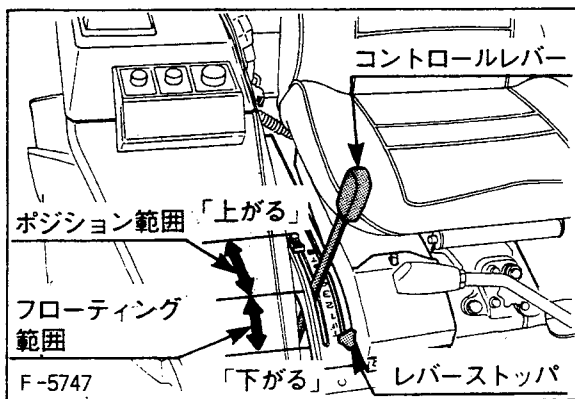
20 コントロールレバー

コントロールレバーで作業機を自由に上下させる装置で、

レバーを後方に引く……作業機が上昇する。

レバーを前方に倒す……作業機が下降する。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション用	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では、作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング用	下げ位置	下がる	この範囲では、作業機は上がりっぱいまで下がります。 MA・MAE仕様ではオート耕うん作業ができます。



◆コントロールレバー【325MA仕様】

ドラフト耕深調節ダイヤルとコントロールレバーを併用することにより、プラウの降下位置が規制(ミックスコントロール)でき、作業を能率良く、きれいに仕上げるができます。

安全ポイント

- エンジン始動後、レバーを元の位置(エンジン停止時のレバー位置)へ操作するかポンパスイッチを操作しないと作業機の昇降はできません。【MA仕様】

21 レバーストップの使い方

- ①コントロールレバーで、希望する作業位置を決めます。
- ②その位置にレバーストップを固定します。
- ③その後は、コントロールレバーをレバーストップに当るまで動かすことにより、同一の作業位置が得られます。

(レバーストップは、上げの規制にも使用できます。)

22 ポンパスイッチ【MA仕様】

スイッチボタンで作業機を自由に上下させる装置で、ほ場内での旋回操作が便利になります。

スイッチを押す(ランプ点灯)……作業機上昇

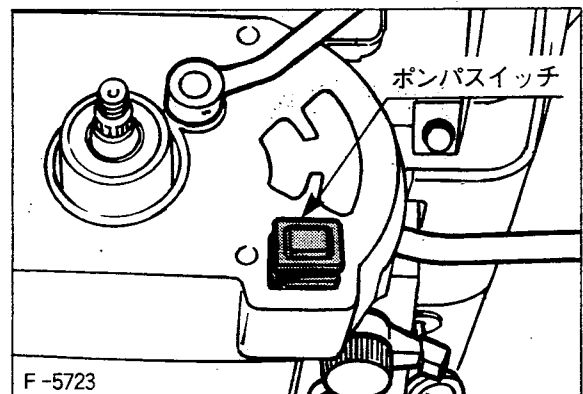
再度押し解除する(ランプ消灯)……作業機下降

ポンパスイッチで作業機上昇後、コントロールレバーを最上位置にすると、ポンパ制御が解除され(ランプ消灯)、ポジション制御になります。

◆ポンパスイッチの上手な使い方

スイッチを解除したときの下降位置はコントロールレバーで設定した位置になります。

例えばドライブハローなど、作業機の位置を固定して昇降させる場合、コントロールレバー位置をセットしたまま、ポンパスイッチにより昇降させることができます。【耕深位置制御】



注意

- 危険防止のため、ポンパスイッチの使用は、ほ場内作業のみにしてください。ほ場外(移動など)ではスイッチを必ず解除し、コントロールレバーを使用してください。

23 作業機落下速度の調整

落下調整グリップを回すことにより調整できます。



注意

- (1) MA・MAE仕様の場合、落下速度が速すぎるとスムーズに落下しない場合がありますので、スムーズに落下するよう落下スピードを調整してください。

- (2) 油圧をロックするときは、ネジをいっぱいに締まさないで軽く締むだけにしてください。

安全ポイント

- ロータリなど作業機を点検する場合は、必ず落下調整グリップを締込んで、作業機の落下を防止してください。
グリップを締込んだ後、コントロールレバーを「下がる」の方向に動かして、作業機が落下しないか必ず確認してください。

→ 納入品安全説明書12ページ参照

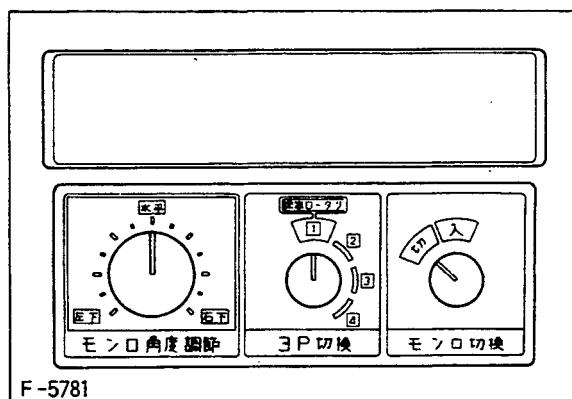
モノローマチック【M仕様】・モノローマチックオート【MA仕様】の取扱い

モノローマチック及びモノローマチックオートは、マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。

正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

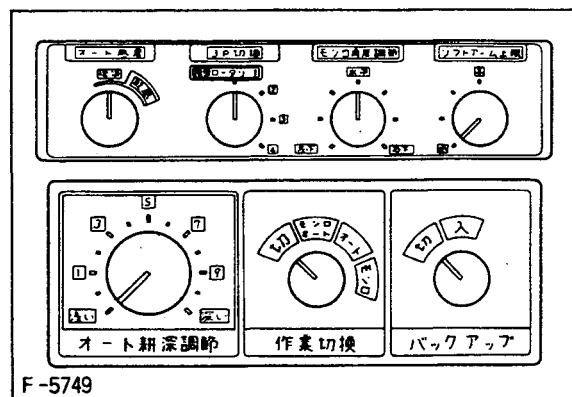
24 スイッチの取扱い

【M仕様】



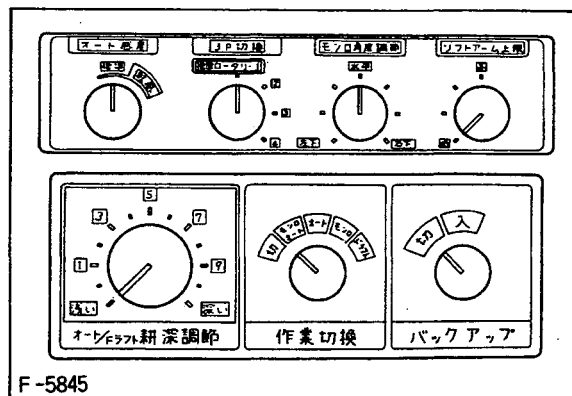
F-5781

【MA仕様】



F-5749

【325MA仕様】

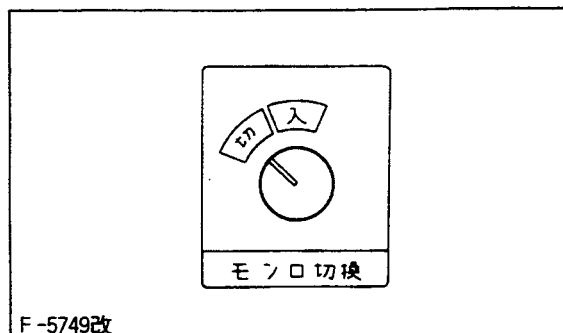


F-5845

◆モノローマチック切換えスイッチ

【M仕様】

「自動」と「手動」の切換えを行ないます。



F-5749改

「入」…モノローマチックの「自動」制御を行ないます。

「切」…モノローマチックの自動制御が解除され、「手動」になります。

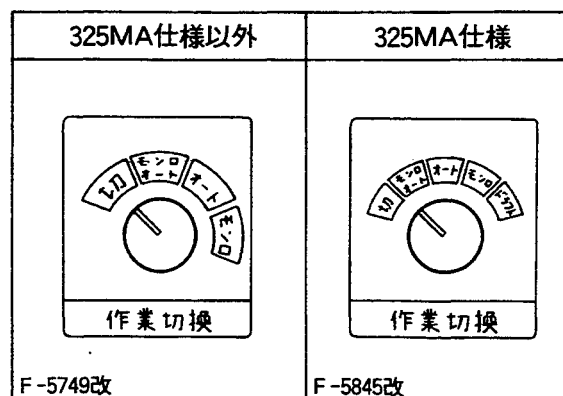
◆作業切換えスイッチ【MA仕様】

【325MA仕様以外】

モノローマチックとオートの作業選択を行ないます。

【325MA仕様】

モノローマチックとオート、ドラフトの作業選択を行ないます。



F-5749改

F-5845改


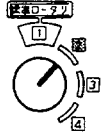
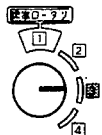

作業切換えスイッチ	モノロ	オート	ドラフト 【325MA仕様】
切	手動	切	切
モノローオート	自動	自動	切
オート	手動	自動	切
モノロ	自動	切	切
ドラフト	手動	切	自動

注意

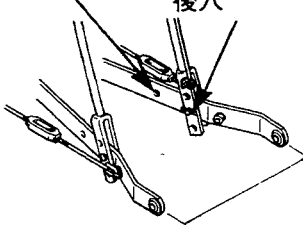
● 畝立て作業などロータリカバー2を上げて作業するときは、「モノロ」又は「切」にしてください。

◆ 3 P 切換えスイッチ

3 P 切換えスイッチ1, 2, 3, 4の切換えは、作業機によって定まる3点リンクの取付け状態(ロアーリンク幅及びロアーリンク穴)に応じて選択してください。

3 P 切換えスイッチ	ロアーリンク幅	ロアーリンク穴位置	作業機例
	広	後	Aフレーム付ロータリ
	広	前	プラウ
	狭	後	Aフレーム無しロータリ
 F-5749改	狭	前	代かきロータリ

ロアーリンク
前穴 ロアーリンク
後穴



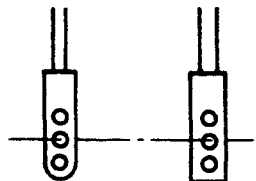
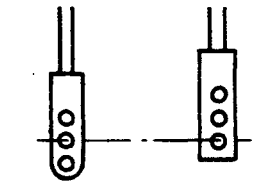
ロアーリンクの幅
「広」…718mm
「狭」…590mm

F-3192

注意

- ロアーリンクにリフトロッド(リフトシリンダ)との接合穴が3コある場合は、後の2コをロアーリンク穴位置「後」として切換えスイッチを選択してください。

リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は、左右対称になるようにしてください。

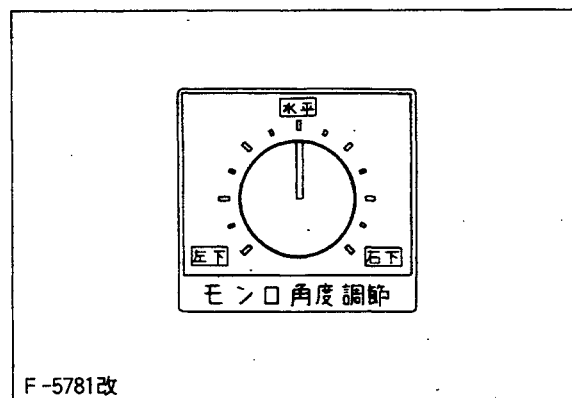
良い例	悪い例
<p>リフトロッド リフトシリンダ</p>  <p>同じ位置の穴</p>	<p>リフトロッド リフトシリンダ</p>  <p>異なる位置の穴</p>

◆ モンローマチック角度調節ダイヤル

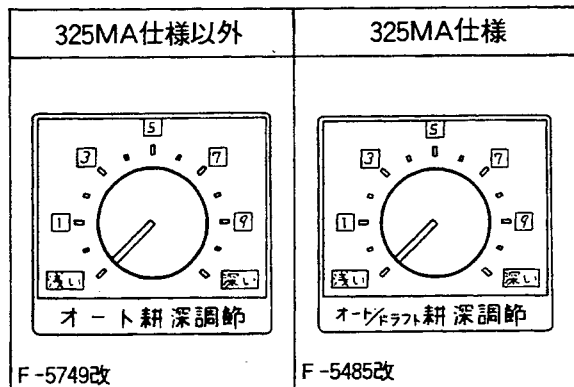
モンローマチック切換えスイッチが「入」の場合、作業機の姿勢を調節するときに使用します。

- (1)ダイヤルを「水平」位置にしますと、作業機は水平に保持されます。
- (2)ダイヤルを「左下」方向に回すと、作業機が左下りに保持されます。
- (3)ダイヤルを「右下」方向に回すと、作業機が右下りに保持されます。

なお、作業機を上端付近まで上げたときは、作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。



◆オート／ドラフト耕深調節ダイヤル【MA仕様】



- オート耕深調節ダイヤルとして使用する場合
ロータリの耕うん深さを調節するときに使用します。
- (1)ダイヤルを「浅い」方向へ回すと、ロータリの耕深が浅く保持されます。
- (2)ダイヤルを「深い」方向へ回すと、ロータリの耕深が深く保持されます。

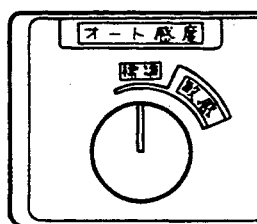
注意

- (1)コントロールレバーで耕深を決めている場合はツマミを「深い」方向へ回しても耕深は深くなりません。
- (2)深田での浅起しは、オートでは限りがありますので、コントロールレバーを併用してください。
- ドラフト耕深調節ダイヤルとして使用する場合
プラウなどでの耕深を調節するときに使用します。
- (1)ダイヤルを「浅い」方向へ回すと、プラウの耕深が浅く保持されます。
- (2)ダイヤルを「深い」方向へ回すと、プラウの耕深が深く保持されます。

注意

- ダイヤルを「深い」方向へいっぱい回すと、フローティング範囲になります。また「浅い」方向へいっぱい回すと作業機が上端まで上昇します。

◆オート感度切換えスイッチ【MA仕様】



F-5749改

- 作業切換スイッチが「オート」の場合
「標準」……浅起しから深起しまで、一般的な作業はすべてこの位置で行ないます。
- 「敏感」……湿田での浅起し、代かき作業、その他仕上りの状態に応じて、この位置で行ないます。
- 作業切換スイッチが「ドラフト」の場合
「標準」……一般的な作業はすべてこの位置で行ないます。
- 「敏感」……軽い土壌など、けん引負荷の小さい作業は、この位置で行ないます。

注意

- 感度を大きく変えたいときは、トップリンクホルダの穴位置を変えてください。

敏感……「上」の穴位置

鈍感……「下」の穴位置

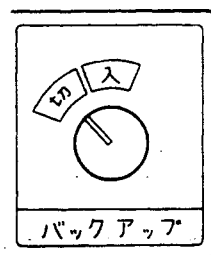
(84ページ「◆感度調整要領」参照)

◆バックアップスイッチ【MA仕様】

シャトルレバーをバックに入れると作業機が上昇する装置です。

作業機を下げたままのうっかりバックから作業機を守ります。

バックアップで上昇した作業機を下げるときは、コントロールレバー又はポンパスイッチを操作してください。

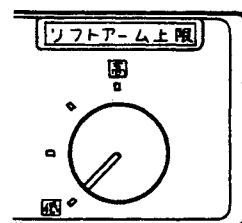


F-5749改

- 「入」(ランプ点灯)…バックアップが働きます。
- 「切」(ランプ消灯)…バックアップが働きません。

◆リフトアーム上限ダイヤル【MA仕様】

リフトアームの上限位置を変えるときに使用します。



F-5749改

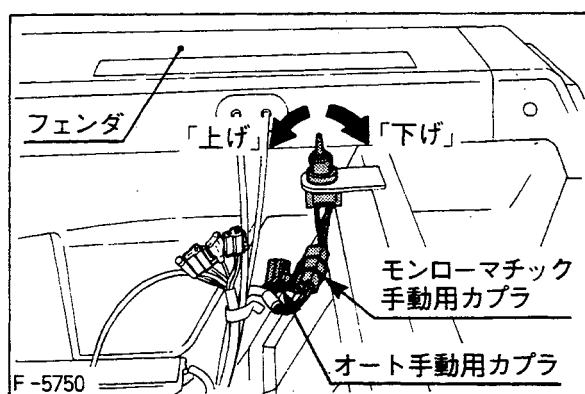
- (1)ダイヤルを「低」方向に回すと、リフトアームの上昇高さが低くなります。
- (2)ダイヤルを「高」方向に回すと、リフトアームの上昇高さが高くなります。

注意

- リフトアームの上限規制は、ポンパスイッチとの組合せでは作動しますが、コントロールレバーとの組合せでは作動しません。

25 モンローマチック手動スイッチ

モンローマチック切換えスイッチが「切」の場合、作業機を左右に傾斜させるときに使用します。



- (1)「上げ」方向へレバーを押している間、作業機の右側が上がります。
- (2)「下げ」方向へレバーを押している間、作業機の右側下がります。

注意

- スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

◆モンローマチック「入」(自動)では次のような作業に効果があります。

(トラクタ本体の傾きにかかわらず、作業機の傾斜が一定になります。)

- (1)モンローマチック角度調節ダイヤルが「水平」位置の場合
 - 水田でのあぜ際耕うん、枕地、凸凹地での均平耕うん
 - 整地板・ドライブハローなどによる均平作業
 - 畑での畝立て、畝崩し作業その他
- (2)モンローマチック角度調節ダイヤルが「水平」以外の場合
 - プラウ作業、広幅畝立て、その他

◆モンローマチック「切」(手動)では次のような作業に効果があります。

- メロンなどの高畝作り、その他
- 作業機の着脱

注意

- (1)モンローマチックが不要の場合(フロントローダ作業などの場合)には、「切」で作業してください。
- (2)「手動」で作業機を傾斜させるとき、作業機を上端に上げると、ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。
- (3)チェックチェーンを張りすぎますと、モンローマチック作動時に3点リンクに無理な力が加わりますので、チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

安全ポイント

- 道路走行時には必ず「切」にして走行してください。
- また、落下調整グリップを締込んで作業機の落下を防止してください。

→ 納入品安全説明書12ページ参照

◆オート手動スイッチとして使用する場合【MA仕様】

コントロールボックスが故障し、作業機を手動で昇降させる必要のあるときのみ、モンローマチック手動スイッチをオート手動スイッチとして使用してください。

オート手動スイッチとして使用する場合は、モンローマチック手動用のカブラを外してオート手動用のカブラにつけ換えてください。(左上図参照)

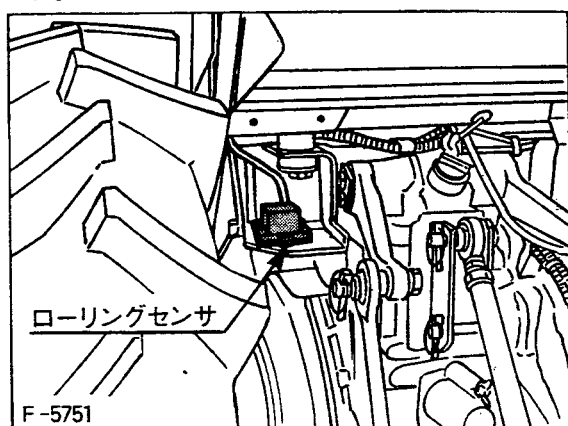
(最上昇位置まで上げたとき、コントロールレバーでは下降しません。ポンパスイッチで下降させてください。)

安全ポイント

- コントロールボックスが故障し、オート手動スイッチとして使用したときは、作業終了後、速やかに修理して、緊急時以外は絶対にオート手動スイッチとして使用しないようにしてください。通常はモンローマチック手動スイッチとして使用してください。
- ▶もし怠ると……
- オート手動スイッチの誤操作によりロータリが落下し、傷害事故を引起すことがあります。

■ローリングセンサの取扱い注意

ローリングセンサは、車体の傾きを感知する電子部品です。

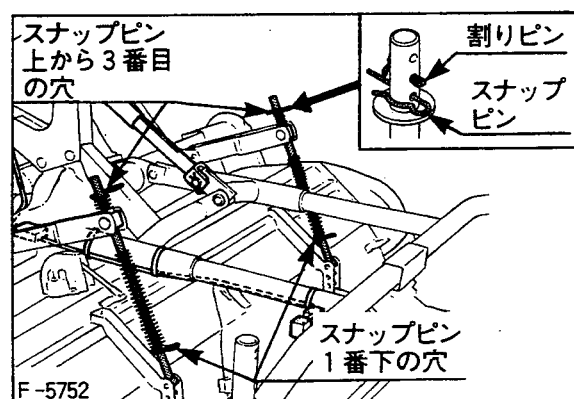


注意

- たたいたりして衝撃を与えると機能が低下しますので、取扱いには注意してください。

■ロータリカバーの調整【MA仕様】

◆標準的なスナップピン位置



安全ポイント

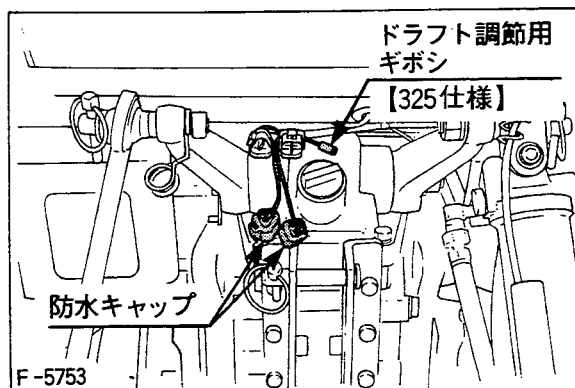
- 爪交換などでカバーをはね上げてスナップピンで固定した場合、エンジンを始動してコントロールレバーを「下げ」にしても下がらない場合があります。このとき、スナップピンを抜くと急激にロータリが落下することがありますので、スナップピンを抜く場合は、エンジンを必ず停止し、メインスイッチを「OFF」にしてから行なってください。

■作業機の手扱い

◆ロータリを外す場合【MA・MAE仕様】

- (1)カバーセンサ用の3P防水カプラを外した後、ロータリを取外してください。

MAE仕様の場合は、超音波センサ用の4P防水カプラも外してください。



- (2)防水カプラはそれぞれ防水キャップをつけ、泥水やほこりから保護してください。

注意

- ロータリを外すときは、防水キャップをし、内部に水・泥が入らないようにしてください。誤操作の原因となります。

◆リフトシリンダを取付け、取外しする場合

お買いあげいただいた販売店・農協又は当社内燃機器支店に御相談ください。

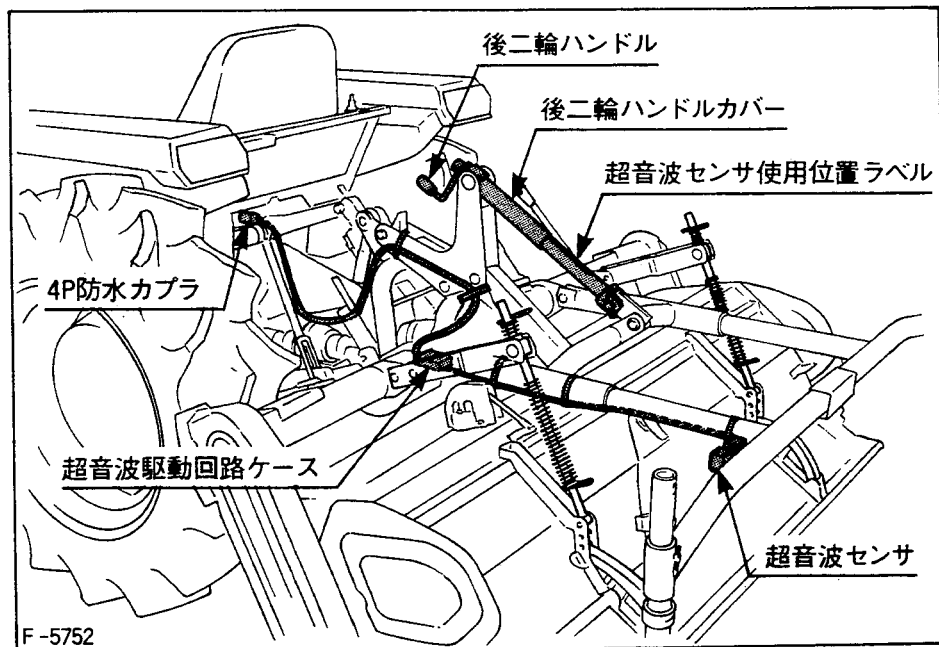
- 取外す場合は、下記部品が必要となります。

(別途購入品)

品 番	品 名	備 考
99093-	キャップ	キャップ及び
9800-1	アッシ	プラグを含む

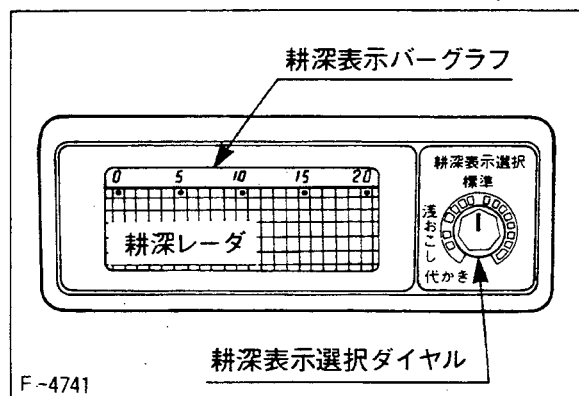
耕深レーダ【MAE仕様】の取扱い

■耕深レーダ(超音波センサ)



26 耕深レーダ(モニタ)

耕深レーダは、耕うん中の耕深を表示する装置です。

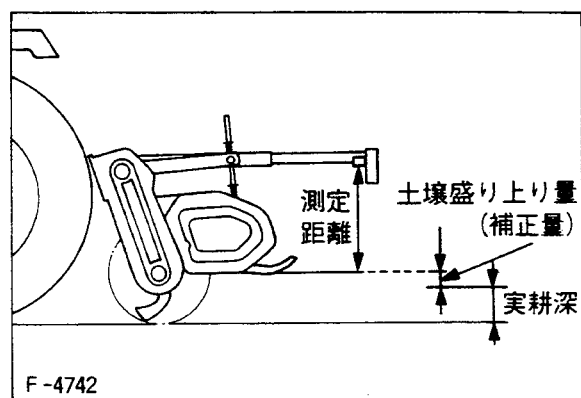


注意

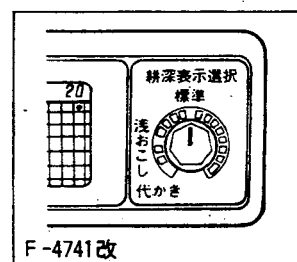
- 透明板は、石やたわしなどかたいものでこすらないでください。傷がつき、見にくくなる原因となります。
- 汚れた場合は、やわらかい布でふいてください。

■耕深表示選択ダイヤルの使い方

耕深表示選択ダイヤルは実耕深を表示するために、耕うん後の土壌の盛り上りを補正するものです。



通常の使用では、次頁の表の位置にダイヤルをセットしてください。



標準	一般標準は場で実耕深 8～12cm の荒おこし、細土耕うん作業時
浅おこし	5～7 cm の浅おこし作業時
代かき	湿田での耕うん、代かき作業時

【参考】

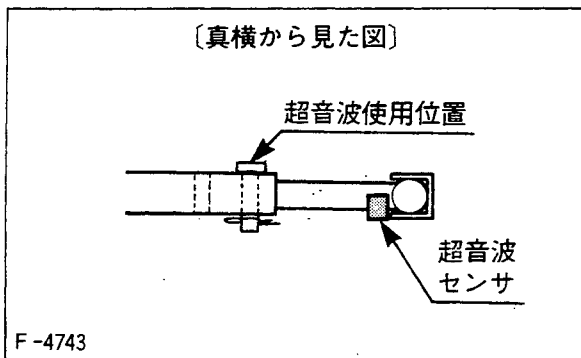
- (1)ダイヤルを右方向に回すと表示が浅い側に補正されます。
- (2)ダイヤルを左方向に回すと表示が深い側に補正されます。

【注意】

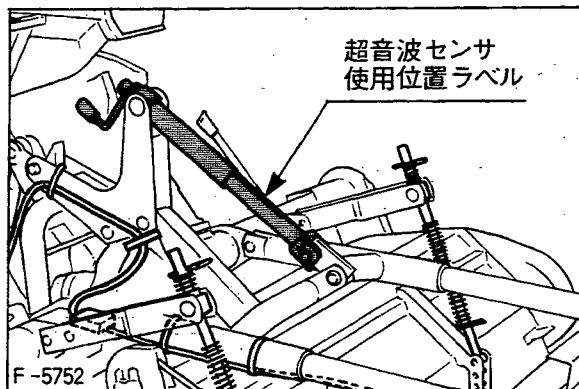
- 耕深レーダは地表との距離を感知して表示しますので、施肥播種機・畝立機など、後二輪ホルダを前に移動したり、後二輪ホルダで深さを調節する必要のある作業では、使用できません。

■超音波センサの取付け調整

- (1)後二輪ホルダの取付け穴位置は最後部位置で使用してください。

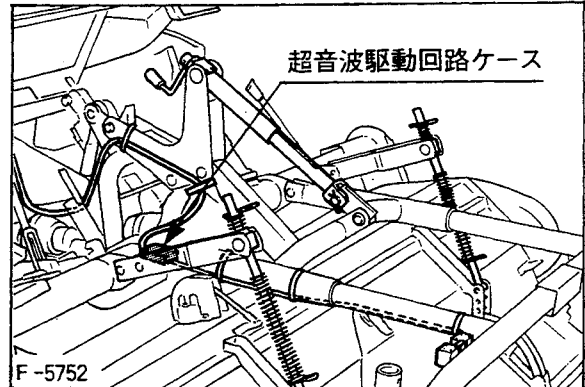


- (2)後二輪ハンドルを調整して、後二輪ハンドルカバー下端が超音波センサ使用位置ラベルに合うようにして使用してください。

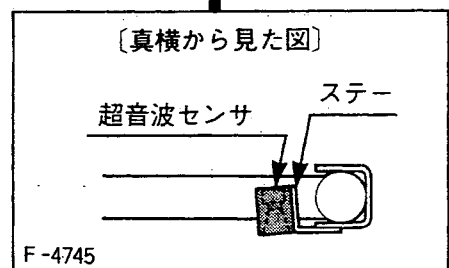
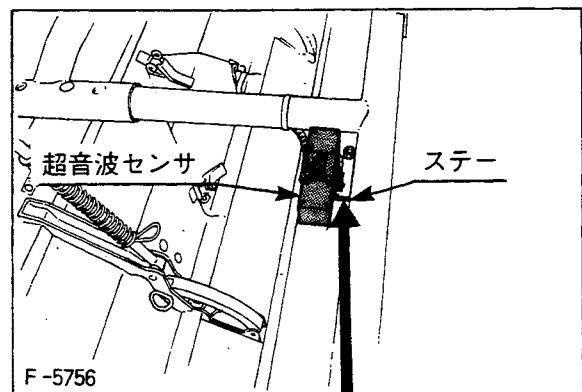


【注意】

- (1)超音波駆動回路ケースの上に重い物を載せたり、強い衝撃を加えないでください。(回路がこわれてしまうことがあります)

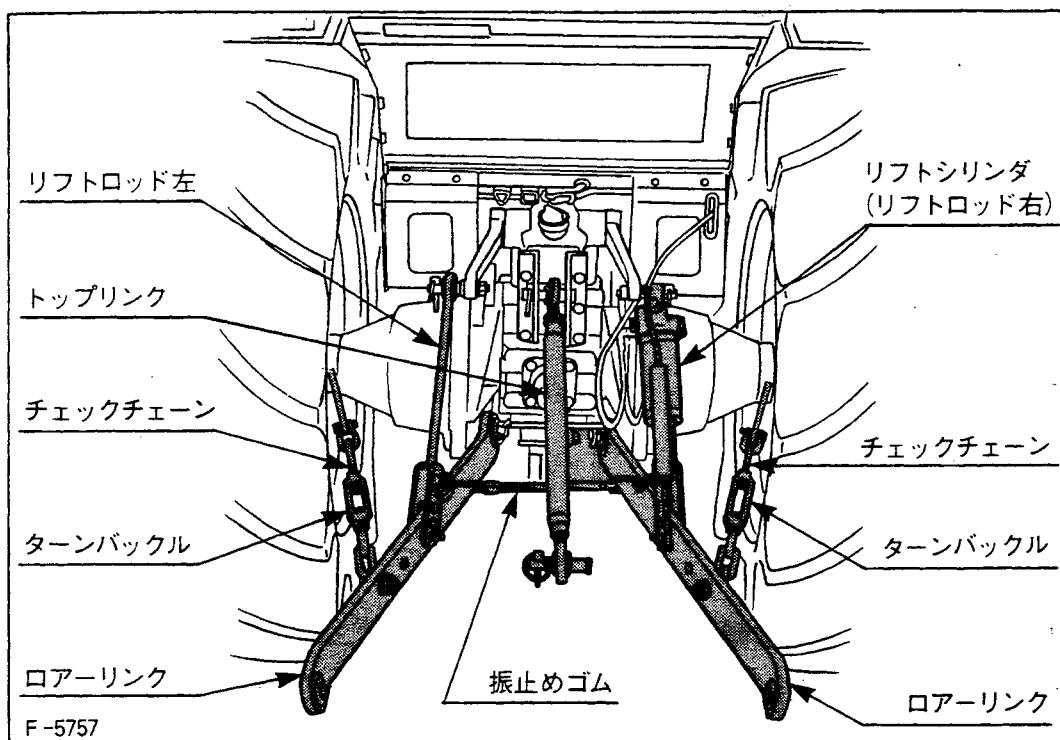


- (2)超音波センサステーを曲げ照射角を変えないでください。(耕深表示が正しく出ないことがあります。)



- (3)超音波センサに泥や草が詰まったときは、速やかに水洗などで取除いてください。高圧での洗浄は避けてください。
- (4)耕深レーダは、オートで使用してください。ポジションで使用すると表示が消えることがあります。
- (5)後二輪ホルダの取付け穴位置を変えるときは、超音波センサのハーネスを引きちぎらないように注意してください。

三点リンク装置の取扱い(一般作業機用)



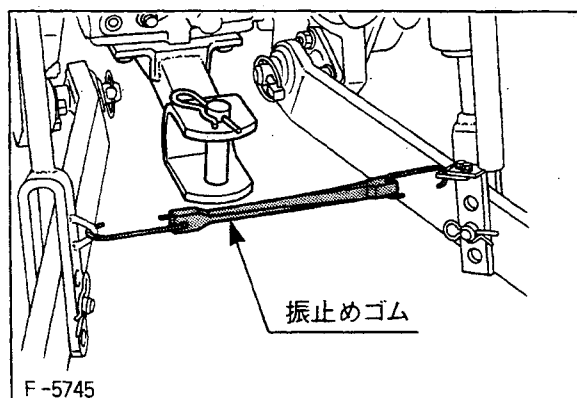
(1) 3点リンクは、JIS1形です。

(2) 195・215・235仕様を御購入の方は、トップリンクアッシを別途購入してください。(60ページ参照)

(3) 後輪輪距を広げてください。(24ページ「輪距の調整」参照)

■作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは、ロアーリンクが後輪に当たらないように、左右振れ止めをしておいてください。



■トップリンクの調整

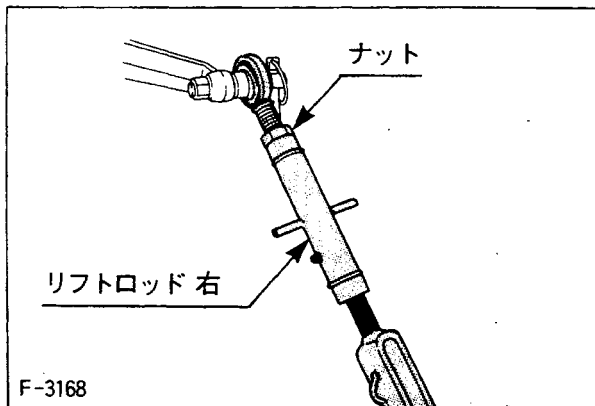
(1) 伸縮させて、作業機の傾きを調整してください。

(2) トップリンク取付け位置は、作業機の種類によって違います。

■リフトロッドの調整

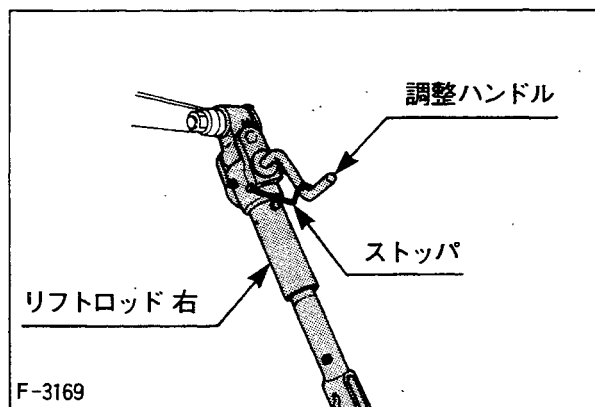
◆195・215・235仕様

- (1)リフトロッド右を操作して、作業機の水平を合せてください。
- (2)調整後は、リフトロッド右をナットで固定してください。



◆255・275・295・315・325仕様

- (1)右側の調整ハンドルで、作業機の水平を合せてください。
- (2)調整後は、ハンドルをストッパで固定してください。



■ローアリンク取付け穴の選択

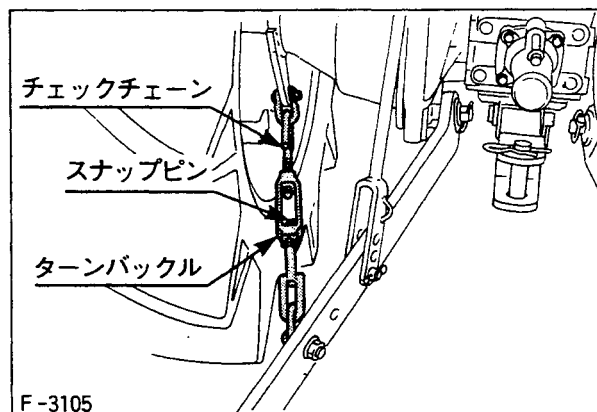
一般作業機を使うときは、ローアリンクの前穴を使ってください。

なお、後穴は特殊3点リンクロータリ用です。

■チェックチェーンの調整

ターンバックルを回して、作業機の横振れを制限してください。

作 業 機	チェーンの張り具合
プラウ、ハロー、 サブソイラ、 ディガー、	ゆるめる (作業機が横方向に 5～6cm動く程度)
ロータリ、モアー、 ヘイレキ、テッダ、 リッジヤ、カルチベータ、	軽く締める



■輪距の調整

一般作業機用の三点リンク装置を利用する場合は、下記の輪距に変更して、作業してください。

(33・34ページ参照)

	後 輪 輪 距
195・215・235仕様	広い方の輪距
255 仕 様	112cm以上
275 仕 様	115cm以上
295・315・325仕様	120cm以上

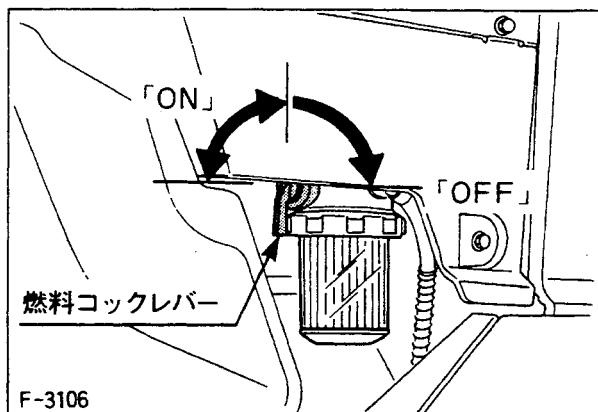
なお、255・275・295・315の2WD仕様は、前輪の輪距も後輪輪距に合せてください。

上手な運転のしかた

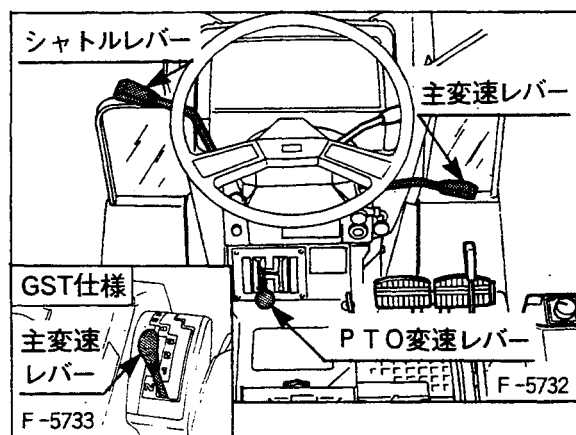
エンジンの始動

■始動のしかた

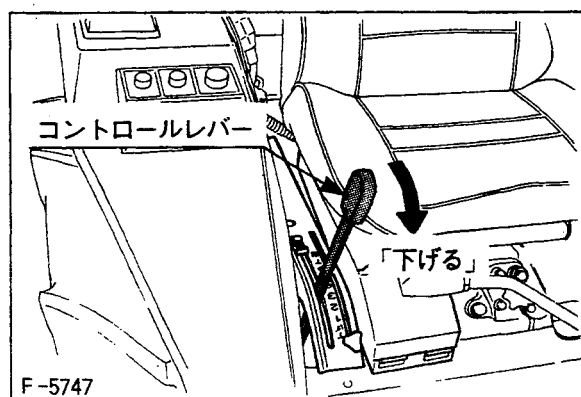
- ①燃料コックを「ON」にします。



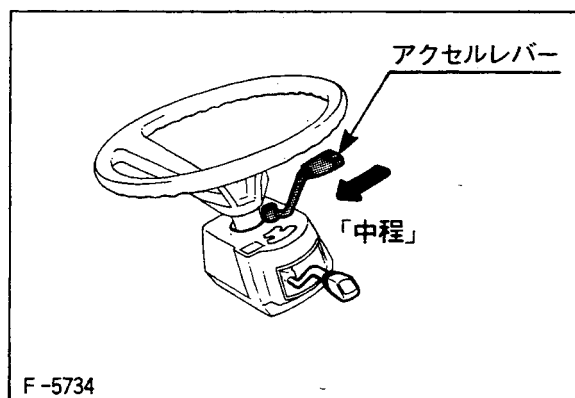
- ②主変速レバー、シャトルレバー及びPTO変速レバーを「中立」にします。



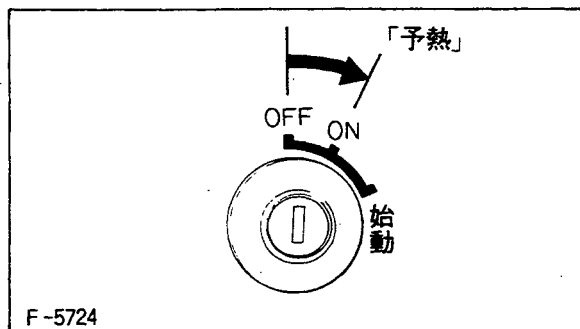
- ③コントロールレバーを「前方に倒し」作業機を下げます。



- ④アクセルレバーを「中程」まで引きます。



- ⑤メインスイッチにキーを差込み「ON」位置にし、予熱します。グローランプが消灯すれば予熱完了です。

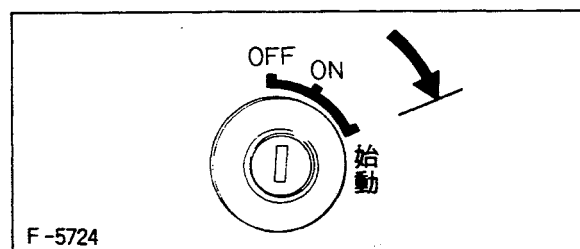


- ⑥クラッチペダルを「踏み込み」ます。

注意

- クラッチペダルを踏込まないと、安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

- ⑦キーを「始動」位置に回します。



注意

- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は避けてください。10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って、30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

- ⑧エンジンが始動したら、キーから手をはなしてください。自動的に「ON」にもどります。

注意

- エンジン回転中は、キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障の原因になります。
- ⑨クラッチペダルからゆっくり足を離し、そのまま5分程度暖機運転しましょう。

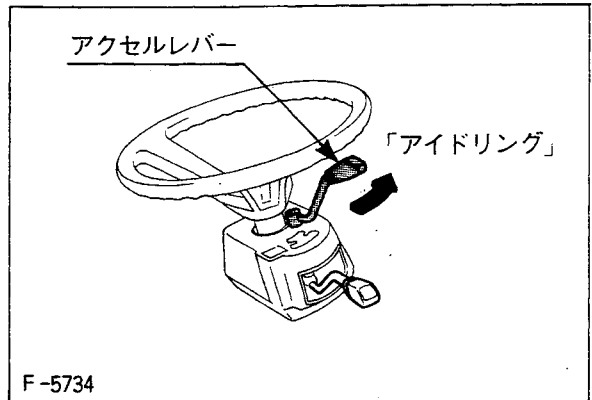
安全ポイント

- (1)必ず座席に座って始動してください。
エンジンの始動と同時にトラクタが動きだし、また、正常な運転ができなくて危険です。
- (2)閉めきった室内やビニールハウス内などで運転する場合は、換気を十分に行なってください。
排気ガスは、人体に有害です。
▶換気が不十分であると……
排気ガス臭のため、気分が悪くなったり、目が痛くなったりすることがあります。

エンジンの停止

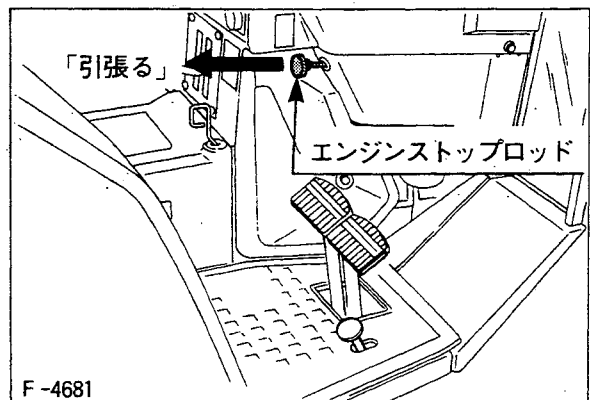
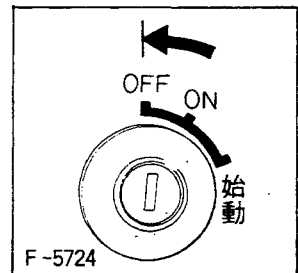
■停止のしかた

- ①アクセルレバーをいっぱい前へ「押し」てアイドリング状態にします。



- ②メインスイッチのキーを「OFF」の位置にすると、エンジンは止まります。

(万一停止しないときは、エンジンストップロッドをいっぱい引張ると止まります。)



注意

- (1)エンジンストップロッドは、エンジンが完全に停止した後、元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップロッドを引いた状態では、エンジンは始動しません。
- (2)エンジンが停止して4～8秒後、カチッと音がしますが、これはエンジン停止装置が作動する音です。
- ③キーは必ず「抜き」ましょう。

ならし運転(最初の約60時間)

この期間中は、特に次のことを厳守してください。

- (1)急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
- (2)必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
- (3)運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
- (4)悪路や傾斜地では，速度を落としゆっくりと走行しましょう。

暖機運転

始動後，約5分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるため，始動してからすぐ負荷をかけると，運転部分の焼付きや破損など故障の原因になりますので御注意ください。

注意

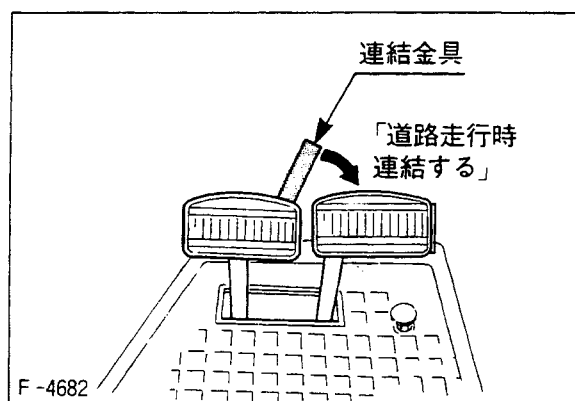
- 暖機運転中は駐車ブレーキを必ず使用しましょう。

発進・走行

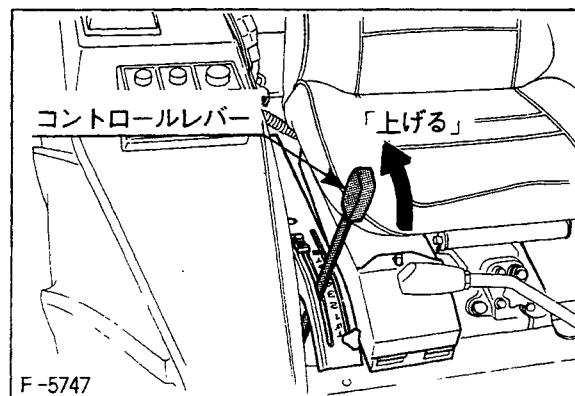
安全ポイント

- トラクタを動かす前には，前後左右に注意してください。
- ▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

- ①ブレーキペダルが左右「連結」されていることを確認してください。



- ②エンジン回転をアイドリングから「中速」回転にします。
- ③コントロールレバーを「後方に引き」作業機を上げます。



以下，仕様により操作が異なります。

【GST仕様以外】

- ④クラッチペダルをいっぱいまで「踏み込み」ます。
- ⑤主変速レバー・マルチレバーを希望する位置に「入れ」ます。
- ⑥シャトルレバーを前進又は後進に「入れ」ます。
- ⑦クラッチペダルをゆっくり離せば、トラクタが動き始めます。

注意

- (1)走行中に変速することはできません。クラッチペダルを必ず踏込んでトラクタを停止させてから、変速を行なってください。
325仕様の主変速 3 ↔ 4 速は、高速シンクロメッシュ付ですから、走行中でも変速できます。
- (2)走行中は、クラッチペダルの上に足を乗せないようにしましょう。
足を乗せるとクラッチがすべっている状態で摩擦が早くなります。
- (3)クラッチペダルの操作は、切るときは早く、つなぐときはゆっくり操作してください。

【GST仕様】

- ④主変速レバーを「1 速」に入れます。
- ⑤シャトルレバーの中立ロックを「解除」し、前進又は後進に「入れ」ると、トラクタが動き始めます。
- ⑥主変速レバーを 1 段ずつ変速して、希望する位置まで変速してください。

注意

- (1)主変速レバー・シャトルレバーは、走行中にノンクラッチで変速及び前後進することができます。
- (2)油圧クラッチの寿命を保つため、次の点に注意してください。
 - 作業に合った変速とエンジン回転を選んでください。
 - 急激なシフトダウンは避けてください。

安全ポイント

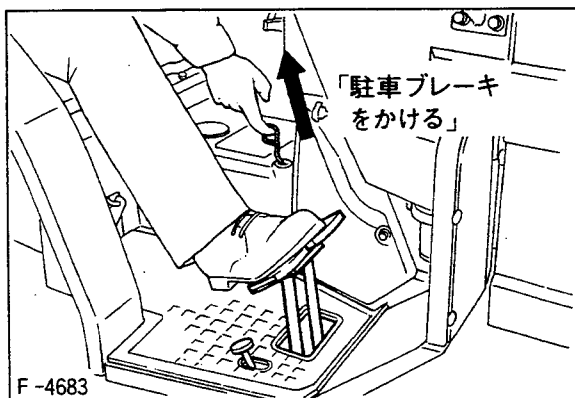
- (1)安全のため、急激な変速は避けてください。
変速は 1 段ずつ行なってください。
- (2)緊急停止時や、作業機を取付け・取外しなど狭い場所での作業時には、クラッチを使用してください。
- (3)走行中は、主変速レバーに手を置いたままにしないでください。

停車

安全ポイント

- (1)トラクタを坂道の途中で止めておく場合は、タイヤに必ず車止めをしておきましょう。
- (2)トラクタを停止するときは、草やワラの上に止めないでください。マフラ排気口に草やワラが触れると、火災の恐れがあります。
- (3)作業を終えてシートをトラクタにかけるときには、マフラ、エンジンが冷えてからにしてください。
- (4)停車時、空吹きをししたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火する恐れがあります。

- ①アクセルレバーを前方に押して、エンジン回転をアイドリング状態にします。
- ②クラッチ及びブレーキペダルを踏込みます。
- ③完全に停止してから、シャトルレバー及び主変速レバーを「中立」にします。
- ④作業機を取付けている場合は、コントロールレバーをゆっくり「前方に倒し」作業機を下げます。
- ⑤駐車ブレーキを確実に「ロック」してください。



- ⑥メインスイッチキーを「OFF」にして、エンジンを停止します。

安全ポイント

- GST仕様は坂道で駐車する場合、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- ▶もし変速を入れて駐車ブレーキをかけないと、トラクタが動きだし傷害事故を引起すことがあります。

旋回

旋回するときは、できるだけエンジン回転を落とし、ゆっくりと旋回してください。

安全ポイント

- 高速で回ると、横転する危険があります。デフロックペダルの解除を確認して、必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
- ▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

坂道での運転

- (1)坂道状況に応じた安全なスピードで、エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
- (2)登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
- (3)下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

安全ポイント

→ 納入品安全説明書8及び14ページ参照

- (1)ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
- (2)坂道では主変速を中立にしたり、クラッチを切ったりしないようにしましょう。
- (3)下り坂では、エンジンブレーキを活用し、クラッチペダルは踏込まないようにしましょう。
- ▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

ほ場への出入り時の注意

- (1) ブレーキペダルの左右の連結を確認してください。
- (2) 耕作地への出入りは、高低差が大きいと危険です。
アユミ板などを利用してください。
- (3) 耕作地への出入りは、斜めに登り降りせず、直角に行なってください。
- (4) 登り始めは、作業機を下げて進むと、前輪が浮き上がりません。
トラクタの前・後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。
常に前・後輪のバランスを考えながら操作するようにしてください。
- (5) 4WDは、あぜを上がる時、4輪駆動の特色を生かして、バックで上がると格段に上がる能力が増します。

安全ポイント

→ 納入品安全説明書 8 ページ参照

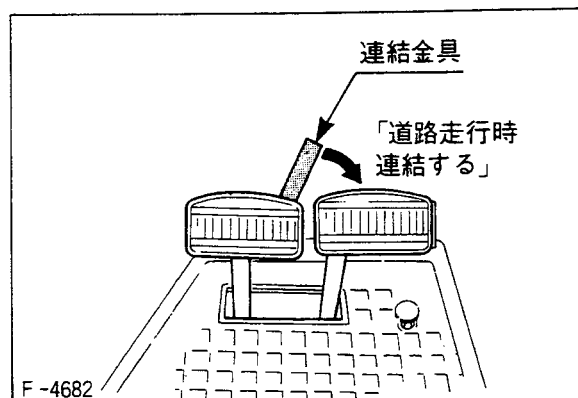
トラックへの積み込み・降ろし

トラックへの積み込みは、バックで(マルチレバーは1・2速)行なってください。

万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行なってください。

公道走行中の注意

- (1) 公道走行中進路方向を変えるときは、方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせます。
- (2) 夜間走行中、対向車とすれちがうときは、ライトスイッチを下向き照射にし、対向車の妨害にならないように注意しましょう。
- (3) 左右のブレーキペダルは、必ず「連結」しておいてください。



- (4) ロータリなど作業機を装着して公道を走行すると、「道路運送車両法」に違反することもあるので注意しましょう。
- (5) 踏切を渡る場合は、必ず一旦停止し、列車通過の有無を確認の上、速やかに渡ってください。

注意

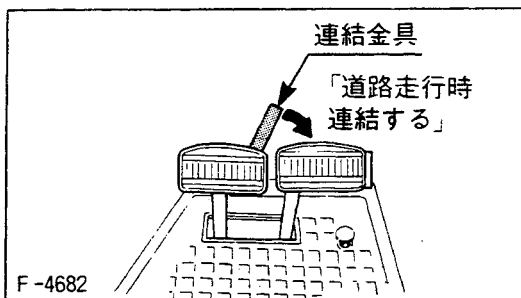
- (1) 作業灯は「道路運送車両の保安基準」第42条(灯光の色などの制限)において、「走行中に使用しない灯火」とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。
- (2) W仕様は、レインガードキャビン付きでないと公道走行はできません。必ずレインガードキャビンを取付けて走行してください。

安全ポイント

- (1)道路を走行するときは、左右のブレーキペダルを必ず連結してください。

▶もし怠ると……

ブレーキが片ぎきになり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突などの傷害事故を引き起こすことがあります。



- (2)道路を走行するときは、関係法規を守り安全運転を心がけましょう。

▶もし怠ると……

交通事故を引き起こすことがあります。

- (3)運転者のほかは乗せないようにしましょう。

→ 納入品安全説明書 4 ページ参照

▶もし怠ると……

傷害事故を引き起こすことがあります。

- (4)溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは、特に路肩に注意しましょう。

→ 納入品安全説明書 6 ページ参照

▶もし怠ると……

転落による傷害事故を引き起こすことがあります。

- (5)ロータリなど作業機を装着して道路を走行すると、トラクタの前部が軽くなって、ハンドルの切れが悪くなり危険です。

→ 納入品安全説明書 6 ページ参照

パワーステアリングの取扱い上の注意【パワーステアリング仕様】

- (1)パワーステアリングは、エンジン運転中だけ作動します。

ただし、エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。

また、エンジン停止時は普通の標準ステアリングと同様に作動します。

なお、エンジン停止時は、ハンドルの遊びが大きくなりますが、機能上問題はありません。

- (2)ドッキングローダなどの前部装着作業機を使用し、トラクタを止めたままハンドルを操作すると、途中重くなることがあります。このときは、低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。

(ドッキングローダ使用時は、前輪タイヤ空気圧の調圧(35ページ参照)、トラクタ後部にウエイト又はロータリの取付け、前部ウエイト・前輪ウエイトの取外しを行なって、前後バランスを良くして安全に作業をしてください。)

- (3)ハンドルをいっぱい切ると、安全弁の作動音(リリース音)が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。(短い時間ではかまいません。)また、ハンドルのフル回転状態での連続使用は、できるだけ避けてください。

- (4)不必要なハンドルのスエ切り(走行しないでハンドルを切る)は、タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。

- (5)冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

- (6)配管などの修理は、ゴミの進入防止のためしないでください。

- (7)ハンドル操作は大変軽くなりますので、道路走行は慎重に行なってください。

輪距の調整

■前輪

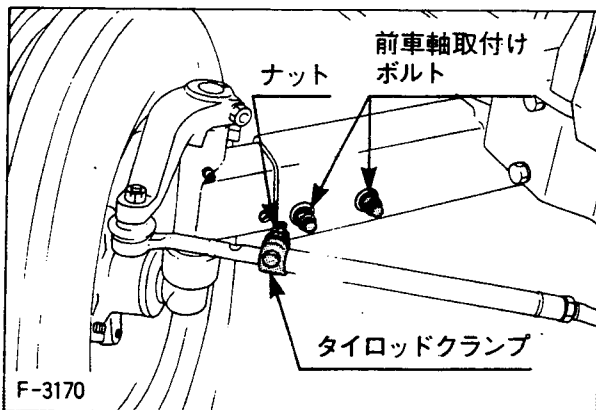
◆195・215・235仕様及び

255・275・295・315・325の4WD仕様

前輪の輪距は変更できません。

◆255・275・295・315の2WD仕様

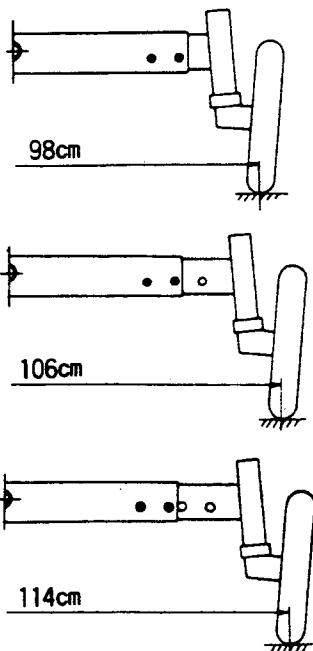
- ① ボルトをゆるめる。
- ② ジャッキで前部を持ち上げ、前輪を浮かす。
- ③ 前車軸取付けボルト及びタイロッドクランプボルトを外す。



- ④ 前車軸左・右を移動させて、希望する位置にし、ボルトを締付ける。(ナットを前車軸側にする)
- ⑤ 変更した後は、必ずトーインの調整を行ってください。(50ページ「トーインの調整」参照)

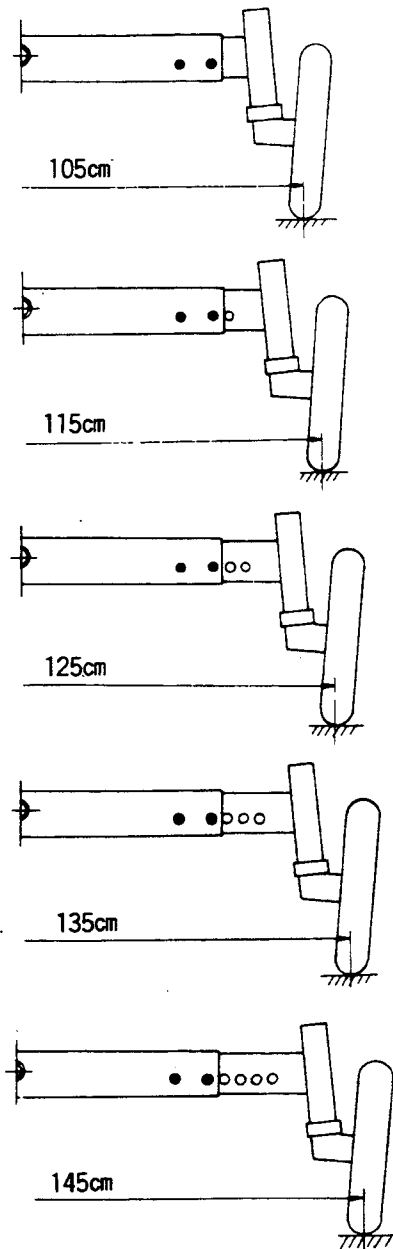
●255仕様

(前輪の輪距は3段階に調節できます。)



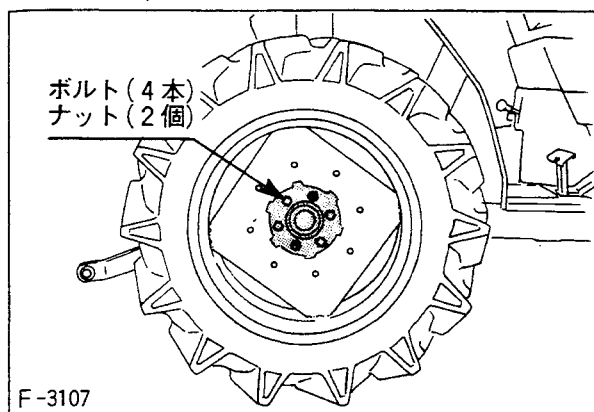
●275・295・315仕様

(前輪の輪距は5段階に調節できます。)



■後輪

- ① ボルトをゆるめる。
- ② ジャッキで左右の後輪を浮かす。
- ③ ボルト・ナットをゆるめてタイヤをはずし、左右入換える。



注意

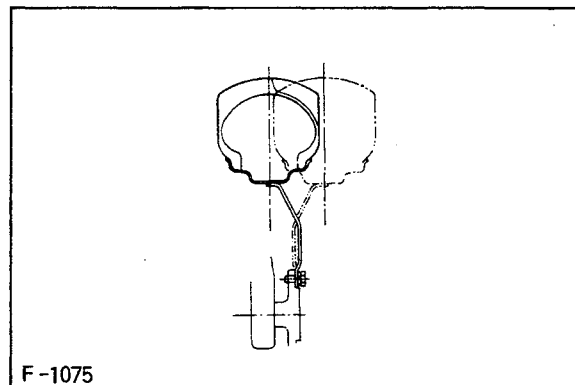
- (1) タイヤは、側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
- (2) ストレークは、最小輪距のときだけ取付けられます。
- (3) 後輪ウエイトは、すべての輪距で取付けられます。

安全ポイント

- けん引作業・傾斜地での作業などの場合は、輪距を広くして使用してください。最小輪距では、左右のバランスが不安定になります。
- ▶ もし怠ると……
転倒による傷害事故を起すことがあります。

◆195・215・235仕様

後輪の輪距は2段階に調節できます。

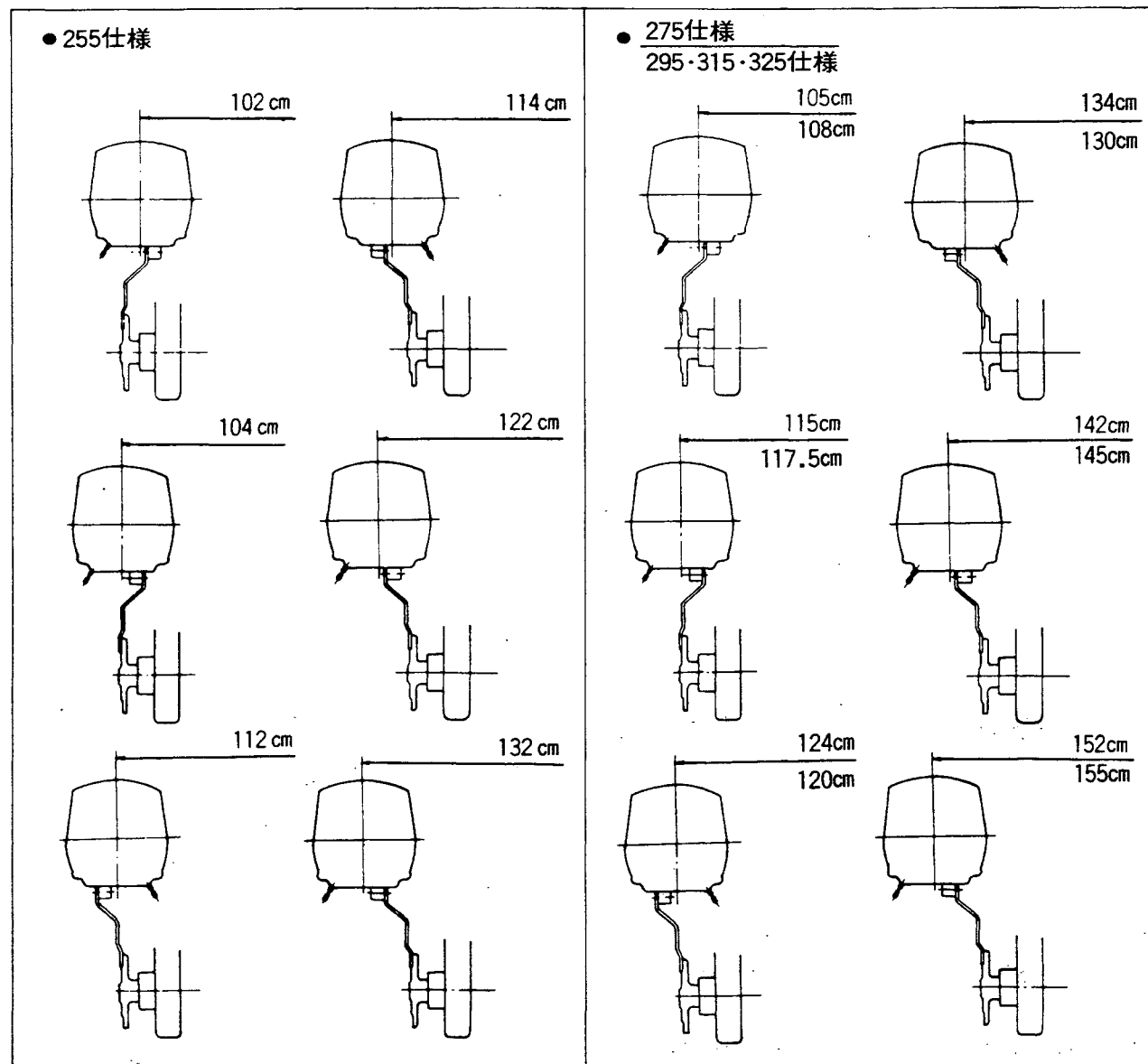


◆255・275・295・315・325仕様

後輪の輪距は6段階に調節できます。

注意

●255・275・295・315・325仕様はディスクの組替えも合せて行なってください。



作業前の点検について(仕業点検)

点検箇所

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。仕業点検は毎日欠かさず行なってください。

※印は、次に作業要領が説明してあります。

安全ポイント

- 点検をするときは、エンジンを必ず止めてから行なってください。

■点検は次の順序で実施してください。

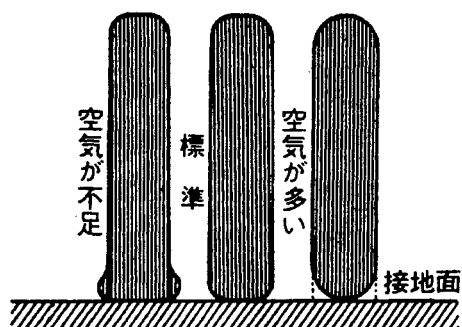
- (1)前日の異常箇所
- (2)トラクタの回りを歩いて
 - ランプ類の点灯及び汚れ、損傷
 - ナンバプレートの汚れ、損傷
 - タイヤの空気圧、き裂、損傷、摩耗……※1
 - タイヤなどの足回りのボルトやナットのゆるみ
 - 倍速ゴムブーツのき裂・損傷【B仕様】……※12
 - 反射器の汚れ、損傷
 - ミッションオイルの量及び汚れ……※2
 - 燃料フィルタの水抜き
 - PTO軸カバーの取付け
- (3)ボンネットを開けて
 - エンジンオイルの量及び汚れ……※3
 - 冷却水の量、ラジエータキャップのしまり……※4
 - エアークリーナのパキューエータバルブの清掃……※5
 - ファンベルトの張り具合、損傷……※6
 - バッテリー、配線、マフラ部の清掃……※11

- (4)運転席に座ってエンジンを始動して
 - 燃料計の作動
 - 燃料は十分か、燃料キャップの締付
 - イーザーチェッカの点滅具合
 - ヘッドランプの作動
 - トラクタメータの作動
 - ウインカランプの点滅
 - ホーンの作動
 - バックミラーの写影
 - ブレーキペダルの遊び……※7
 - ハンドルの遊び・ガタ……※8
 - 燃料フィルタの水、沈澱物
 - コントロールレバーによる油圧昇降及び作業機取付ピンの脱落
 - 冷却水、オイル漏れ点検
 - 排気ガスの色、異常音……※9
- (5)エンジンを始動して、徐行しながら
 - 水温計の作動
 - クラッチペダルの遊び……※10
 - ブレーキの効き、片効き
 - ハンドルの重さ、振れ、取られ
 - 駐車ブレーキの作動

点検のしかた

1 タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。



◆標準空気圧

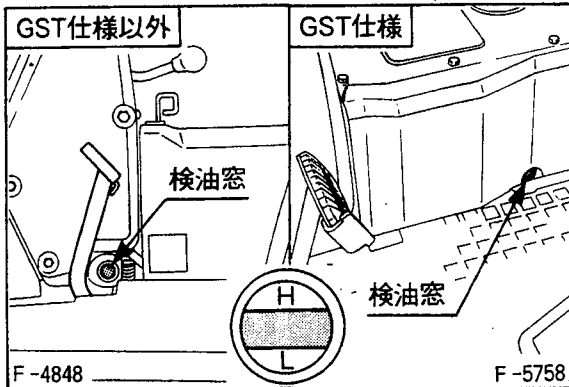
		空気圧 (kgf/cm ²)	
		2 WD	4 WD
前	輪	2.4	1.6
後	輪	1.0	

- フロントローダなど前輪に荷重がかかる場合、前輪空気圧は次のように調圧してください。

		空気圧 (kgf/cm ²)	
		2 WD	4 WD
前輪	195・215・235仕様	3.2	2.0
	255・275・295・315仕様	2.6	
	325仕様	—	

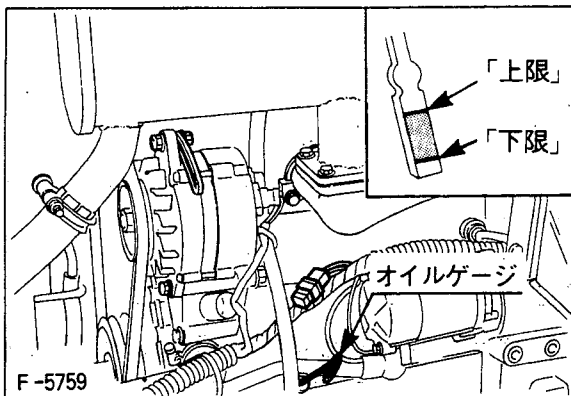
2 ミッションオイルの量

- ① 検油窓の「HとLの間」にオイルがあるかを調べます。
- ② L以下の場合は補給が必要ですが、H以上には入れないでください。(給油は41ページ)



3 エンジンオイルの量

- ① オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、差込んでから再び抜き「下限と上限の間」にオイルがあるかを調べます。
- ② 下限以下の場合は補給が必要ですが、上限以上には入れないでください。(給油は41ページ)

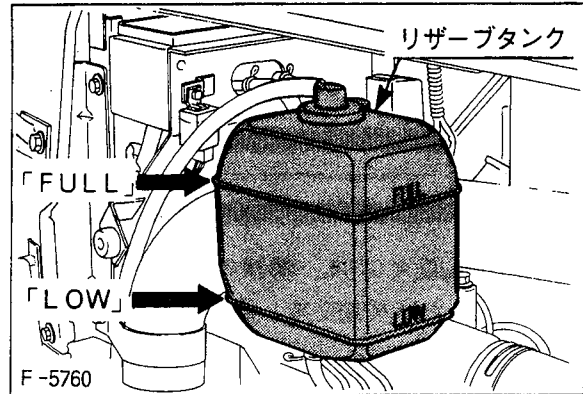


注意

- (1) 点検するときは、本機を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
- (2) オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから約3分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

4 冷却水の量

ラジエータには、リザーブタンクが付いており、ラジエータ内の冷却水が少なくなると、リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。「FULLからLOWの範囲」であれば正常です。(給水は45ページ)



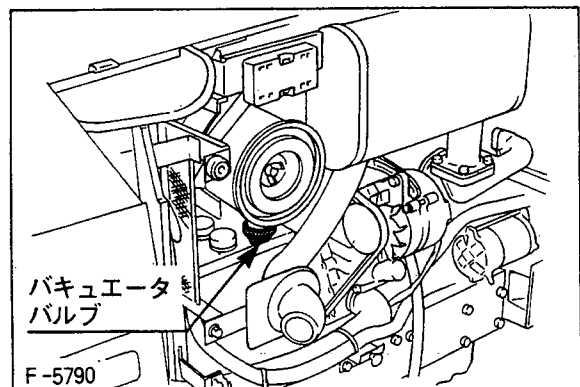
注意

- ラジエータ本体のキャップは、冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

5 エアークリーナのパキューエータバルブの清掃

パキューエータバルブを取外して、大きなゴミを取除いてください。

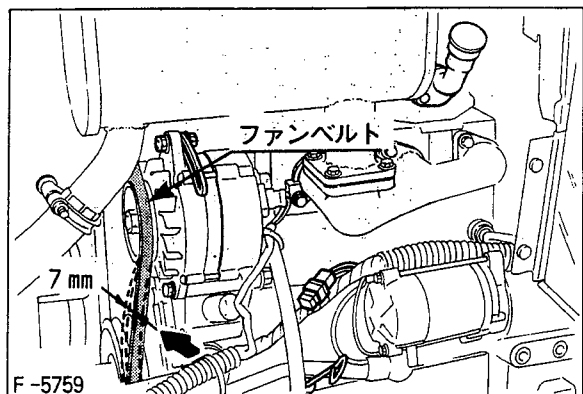
汚れや水分があるときは、布などできれいにふき取ってください。



6 ファンベルトの張り具合

ベルトの調整が悪いと、オーバヒートや充電不足の原因になります。

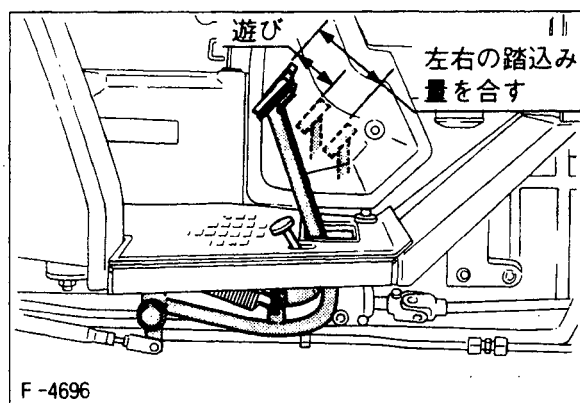
ベルトの中央部を指先で押えて、たわみ量が「約7mm」程度あるか確認してください。また、き裂やはがれがないかを調べます。(調整は49ページ)



7 ブレーキペダルの遊び

ブレーキの調整が悪いと、人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

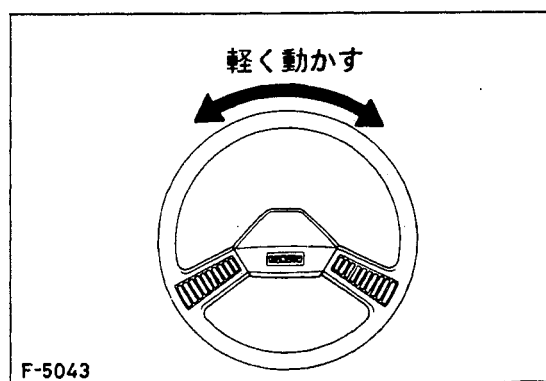
ペダルを踏んで遊び量を「20～30mm」及び左右ブレーキの踏込み量が「不均一」になっていないかを調べます。(調整は48ページ)



8 ハンドルの遊び

ハンドルの調整が悪いと、ハンドルが重くなったり、直進性が悪くなったりします。

ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が「20～50mm」あるか調べます。(調整は49ページ)



9 排気ガスの色

無 色……正常

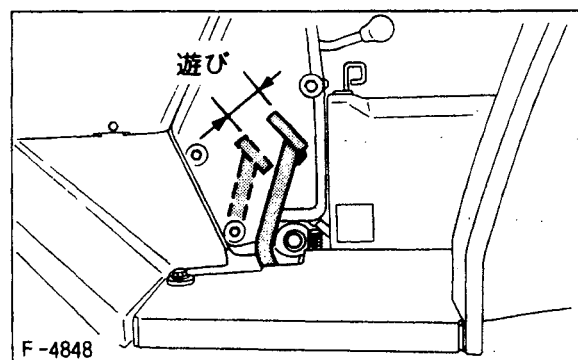
黒 色……燃料が濃すぎるための不完全燃焼です。

青白色……冷機時アイドリング運転では、青白く見えることがあります。

10 クラッチペダルの遊び

遊びが適正でないと、クラッチ切れ不良、伝動不良を起し、損傷につながります。

クラッチペダルの遊び量が「20～30mm」あるかを確認してください。(調整は49ページ)



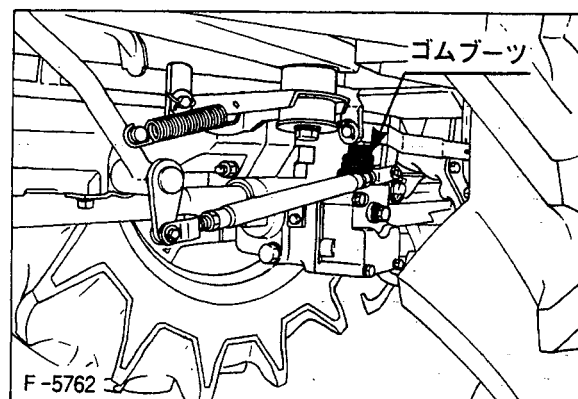
11 配線及びエンジン回りの清掃

バッテリー、配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ、ゴミや燃料の付着などがあると、火災の原因となり危険です。毎日作業前に点検しきれいに取除いてください。

12 倍速ゴムブーツの点検【B仕様】

倍速機構にはゴムブーツを使用しています。

き裂・損傷がないか確認してください。



トラクタの簡単な手入れと処置

安全ポイント

- 給油及び点検整備するときは、①トラクタを平たんな広い場所に置き、②エンジンを止め、③駐車ブレーキをかけ、④安全を確認してから行なってください。

▶もし怠ると……傷害事故を引き起こすことがあります。

定期点検箇所一覧表

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、販売店・農協又は当社内燃機器支店に御相談ください。

次の定期点検箇所に従って、定期点検を実施しましょう。

No.	点 検 項 目		アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)											購入日から		参 照 ページ
			35	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年	
1	倍速ゴムブーツの点検【B仕様】		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			37	
2	ミッションオイルの交換			◎					○						41	
3	エンジン オイルの 交 換	年間使用時間が 100時間以上の場合	◎		○		○		○		○		○		41	
		年間使用時間が 100時間以内の場合	◎	1 年 ごと										○		
4	マグネットプラグの清掃【GST仕様】			○					○						41	
5	パワーステアリングオイル【325仕様】								○						42	
6	ステアリングギヤボックスオイルの油 量【標準ステアリング仕様】			○					○						42	
7	ステアリングギヤケースオイルの 油量								○						42	
8	前車軸ケースのオイル交換【4WD】			◎					○						43	
9	倍速ケースオイルの油量【B仕様】								○						43	
10	エンジンオイルフィルタカートリッ ジの交換		◎				○				○				44	
11	油圧オイルフィルタカートリッジの 交換			◎				○				○			44	
12	燃料フィルタエレメントの交換										○				44	
13	冷却水の交換													○	44	
14	ラジエータ内部の洗浄											○			45	
15	エアークリーナエレメントの清掃				○		○		○		○				46	
16	エアークリーナエレメントの交換												○ 6回 清掃毎		46	
17	油圧・燃料パイプ取付けねじのゆる み点検			○	○	○	○	○	○	○	○	○			47	
18	ラジエータホース締付バンドのゆる み点検					○			○			○			47	
19	燃料パイプの交換													○	47	
20	ラジエータホースの交換													○	47	
21	油圧パイプ接手の交換													○	47	
22	バッテリー液点検			○	○	○	○	○	○	○	○	○			46	
23	車体各部のボルト,ナットのゆるみ, ピン等の脱落			○	○	○	○	○	○	○	○	○			—	
24	燃料タンクの清掃											○			—	

No.	点 検 項 目	アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)												購入日から		参 照 ページ
		35	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年		
25	グリースの注入		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			47	
26	前輪ハブのグリース注入 【2WD】							○							48	
27	ファンベルトの調整		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			49	
28	クラッチハウジングの水抜き		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			50	
29	ワイヤハーネス, バッテリ⓪コード の点検と交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			51	

◎印はならし運転時の35時間, 50時間使用後に必ず行なってください。

給油(水)一覧表

No.	給油(水)項目	容 量 (ℓ)									使 用 オ イ ル
		195仕様	215仕様	235仕様	255仕様	255 GST仕様	275仕様	295仕様	315仕様	325仕様	
1	燃 料	29							36	29	クボタディーゼル重油 又はディーゼル軽油(40ページ参照)
2	冷却水	5					7				清水又はクボタ不凍液
3	ウインドウォッシャ 【W仕様】	1.0									ウォッシャ液
4	エンジンオイル	5.7 (オイルゲージ上限全量で)					8.5				クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30(58ページ参照)
5	ミッションオイル	26	27			28	29				クボタ純オイルM80B(58ページ参照) 又はクボタ純オイルUDT(油圧駆動用)
6	パワーステアリング オイル 【325仕様】	—								2	クボタ純オイルUDT(58ページ参照)
7	ステアリングギヤー ボックスオイル 【標準ステアリング仕様】	0.2			—	0.2				—	クボタ純オイルM90(58ページ参照) 又はクボタ純オイルM80B 又はクボタ純オイルUDT
8	ステアリング ギヤーケースオイル	0.1									
9	前車軸ケース【4WD】	5.0							6.5		
10	倍速ケース 【B仕様】	0.15									クボタ純オイルM80B 又はクボタ純オイルUDT(油圧駆動用) (58ページ参照)
11	油圧コントロール レバー軸	注油									
12	停止ソレノイド部	注油									
13	グ リ ー ス の 注 入	・前車軸右・左 【2WD】		少量		—	少量		—	シャーシグリース (58ページ参照)	
		・クラッチペダル		少 量							
		・ブレーキペダル									
		・ペダル軸受									
		・リフトロッド右									
		・クラッチ リリースハブ		分解時に少量補給							
・シフトガイド 【GST仕様】		—		少量	—						
14	前輪ハブ 【2WD】	少量			—	少量		—	ベアリンググリース (58ページ参照)		

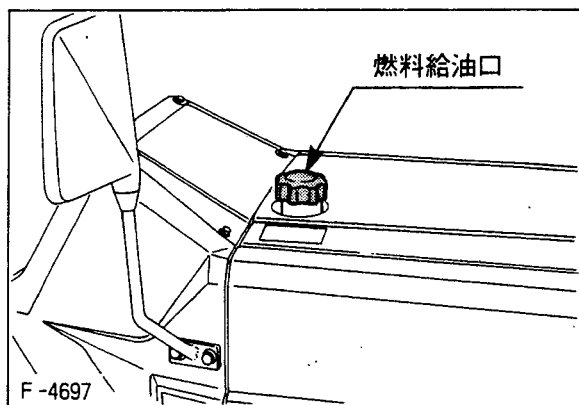
燃料

燃料には、「クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油」を使用してください。

ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種 類	ディーゼル軽油の流動点(℃)
特 1 号	+ 5 以下
1 号	- 5 以下
2 号	-10以下
3 号	-20以下
特 3 号	-30以下

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり、始動性が困難になります。



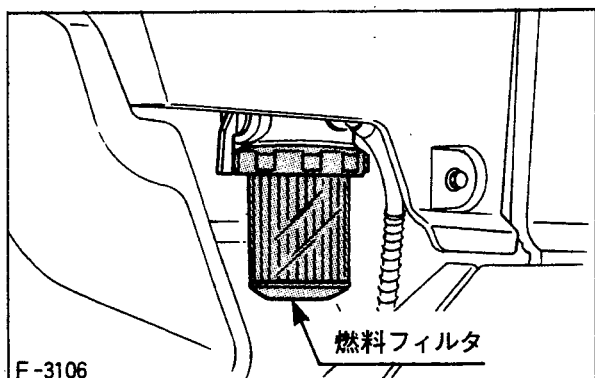
注意

- (1)燃料中にゴミや砂が混入していると、燃料噴射ポンプが作動不良になりますので、注意してください。
- (2)燃料キャップが締まっているか確認してください。

燃料フィルタ

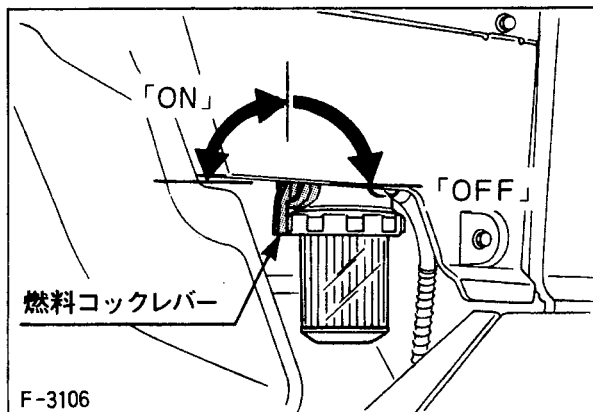
燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈澱します。水・ゴミがたまったらコックを閉じ、フィルタを外し、水・ゴミを取除いてください。

このときは、必ず空気抜きをする必要があります。

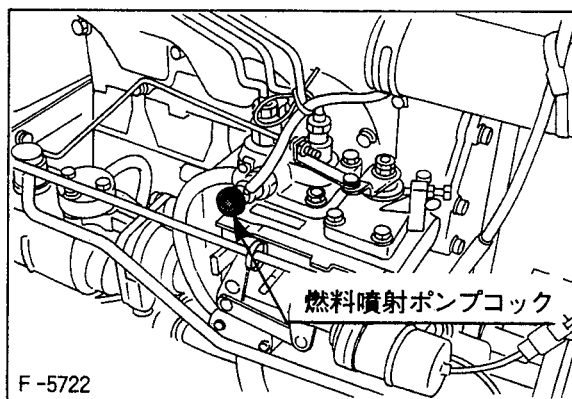


空気抜き

- ①燃料フィルタのコックを「ON」にする。



- ②燃料噴射ポンプの上のコックを開く。



- ③タンクに燃料を満たす。
- ④エンジンを始動し、約1分間運転後停止する。
- ⑤燃料噴射ポンプのコックを閉じる。

注意

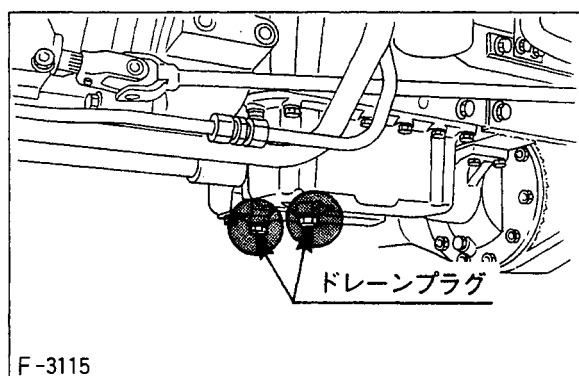
- 空気抜きするときのほかは燃料噴射ポンプのコックは必ず閉じておいてください。エンストの原因になります。

各部への給油と交換

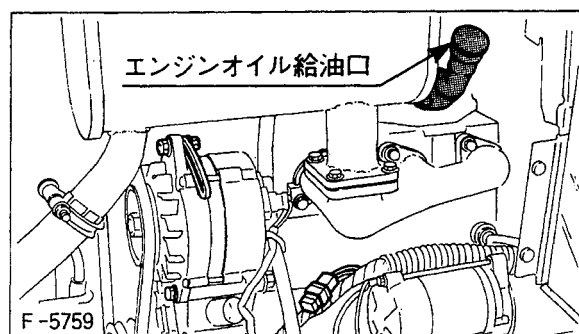
使用するエンジンオイル、ミッションオイル、ギヤードイルは、必ず「クボタ純オイル」を使用してください。(58ページ参照)

■エンジンオイルの交換

- ① 2つのドレーンプラグを外してオイルを出します。このときオイルが暖まっている方が出やすくなります。ただしヤケドに注意してください。

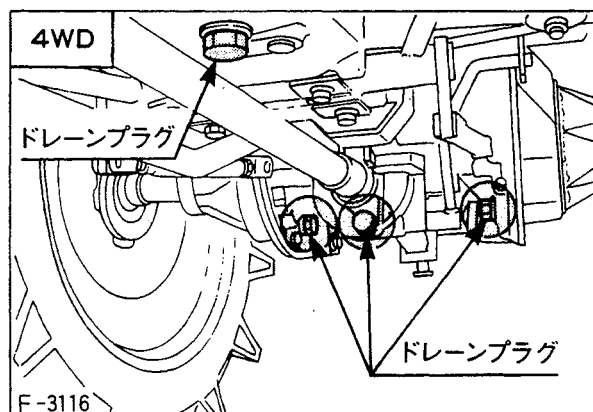
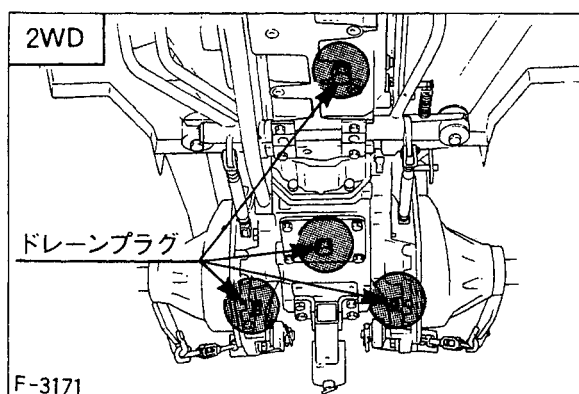


- ② エンジンオイルを給油口から、規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと入れやすくなります。

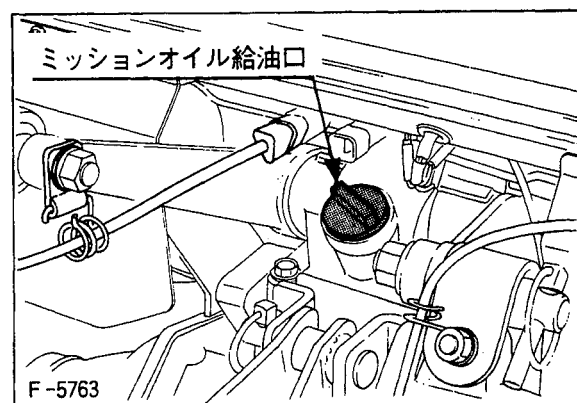


■ミッションオイルの交換

- ① ドレーンプラグを外してオイルを出します。



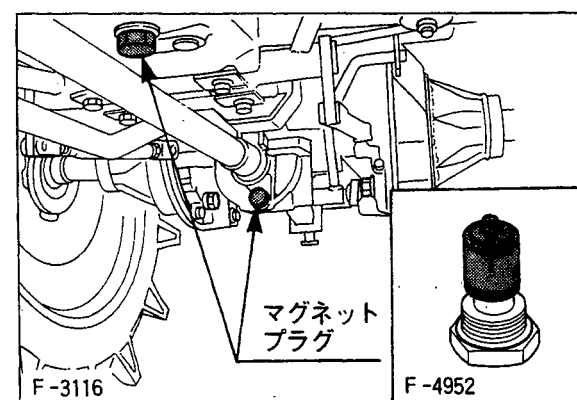
- ② ミッションオイルを給油口から、規定量まで入れてください。



■マグネットプラグの清掃

【GST仕様】

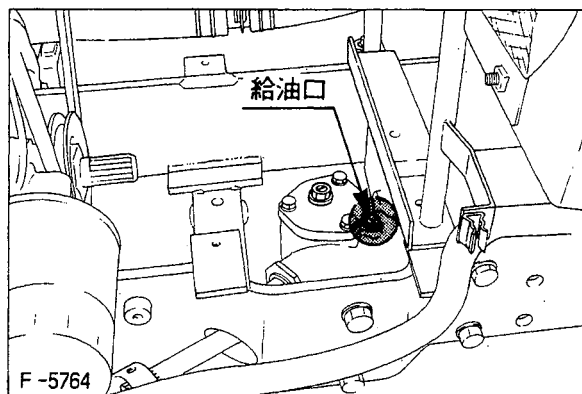
ミッションオイルの交換と同時に、マグネットプラグの鉄粉を取除いてください。



■ステアリングギヤボックスの オイル量【標準ステアリング仕様】

◆オイルの点検

給油口を外し給油口の下まであるかを調べます。



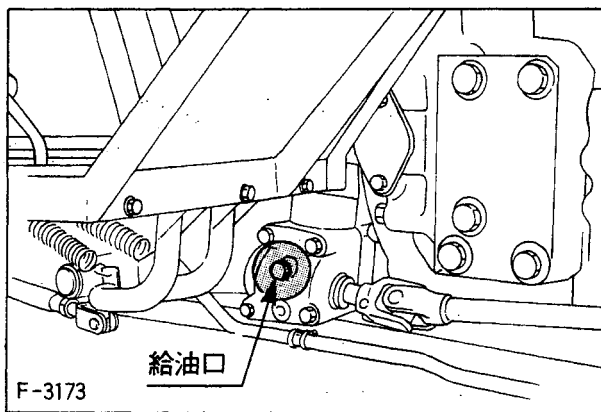
◆オイルの補給

不足している場合は、給油口の下までミッションオイルの補給が必要です。

■ステアリングギヤケースの オイル量

◆オイルの点検

給油口を外し給油口の下まであるかを調べます。

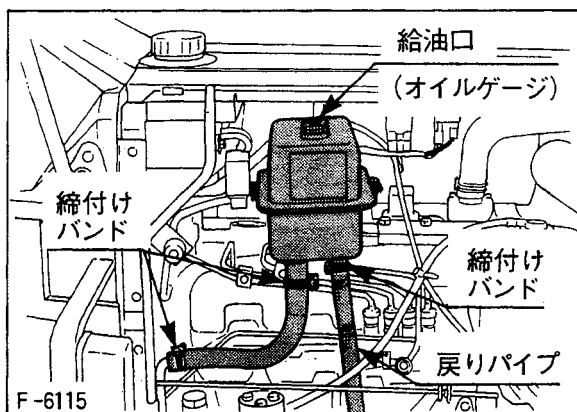


◆オイルの補給

不足している場合は、給油口の下までミッションオイルの補給が必要です。

■パワーステアリングオイルの交換 【L₁-325仕様】

- ①タンク下のゴムパイプを外して、オイルを出します。
- ②パワーステアリングの戻りパイプからもオイルを出します。このときハンドルを2～3回いっぱい切ってください。
- ③給油口から、新しいオイルを入れます。



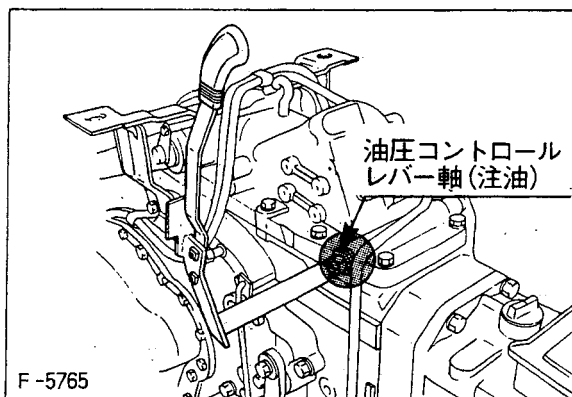
- ④エンジンを始動してハンドルを左右に2～3回いっぱい回した後、エンジンを止め、オイルゲージのEとFの間までオイルがあるかを確認し、不足していれば補給してください。
(ゲージはねじ込まない状態で調べてください。)

注意

- 必ず指定のオイル【クボタ純オイルUDT】を使用してください。

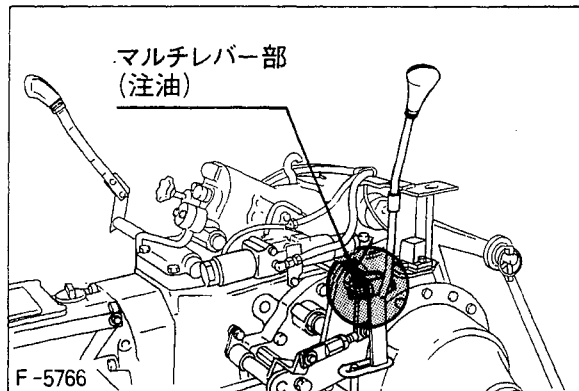
■油圧コントロールレバー軸への 注油【MA・MAE仕様を除く】

ギヤオイルを注油してください。



■マルチレバー部への注油

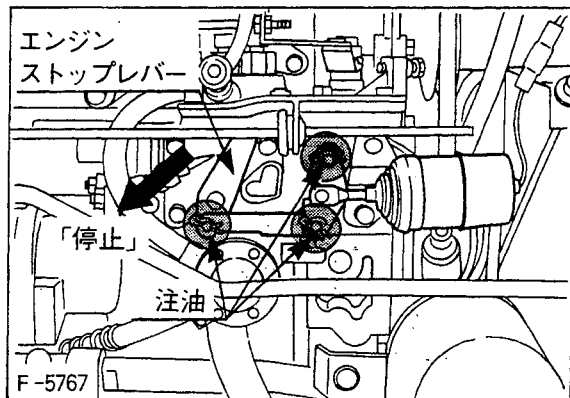
ギヤーオイルを注油してください。



■停止ソレノイドリンクへの注油

ソレノイドリンクの注油及び清掃は、1年に1回使用前及び長期格納時に行なってください。

- (1)注油は、安全カバー右を外して行なってください。
- (2)注油後、アクセルレバーをアイドリングの位置にして、エンジンストップレバーが手で軽く動くことを確認し、更にエンジンを始動してメインスイッチ「OFF」でエンジンが停止するか確認してください。



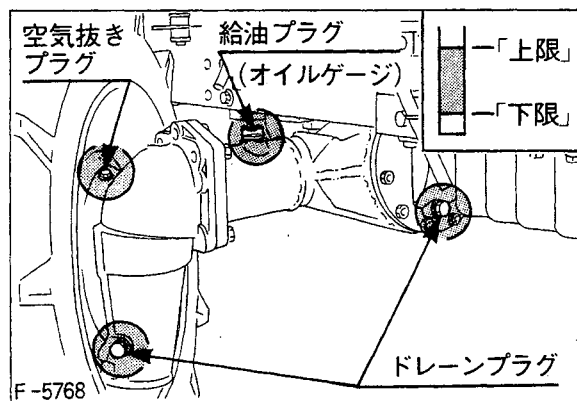
注意

- この部分は、メインスイッチによるエンジン停止を行なう機構ですので、水田などに入って泥などが浸入したときは、適宜清掃を行なってください。

■前車軸ケースのオイル量【4WD】

◆オイルの点検

給油プラグを抜き、オイルゲージのEとFの間までオイルがあるかを調べます。オイル面が下がっている場合は、補給が必要です。



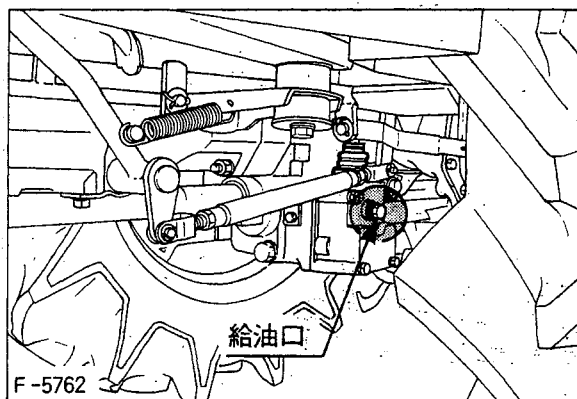
◆オイルの交換

- ①ドレインプラグを外してオイルを出します。
- ②ギヤーオイルM90又はM80B, UDTを給油口から、規定量入れてください。

■倍速ケースのオイル量【B仕様】

◆オイルの点検

給油口を外し給油口の下まであるかを調べます。

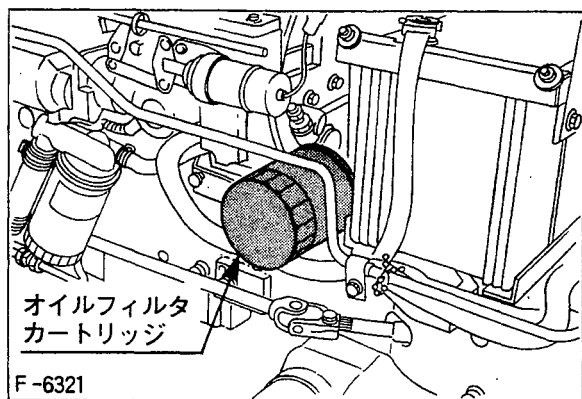


◆オイルの補給

不足している場合は、給油口の下までミッションオイルの補給が必要です。

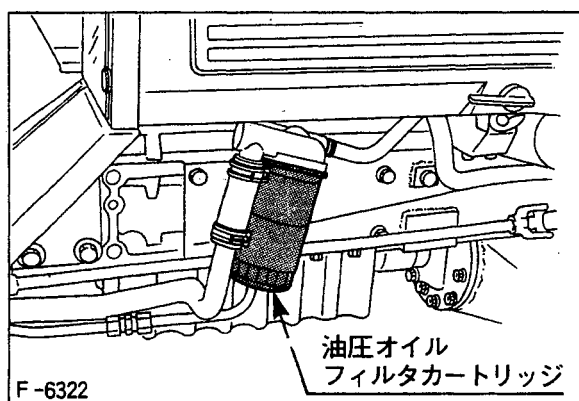
各フィルタの交換及び洗浄

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換



- ①新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実に締付けます。
- ②エンジンオイルを規定量まで補給します。
- ③約5分間運転し、オイルランプの作動に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
- ④再びオイルゲージで油面を確認し、不足していれば補給する必要があります。

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換



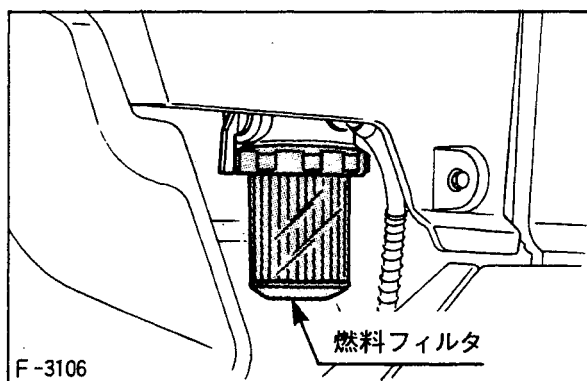
- ①新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実に締付けます。
- ②約2分間運転し、作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。

■燃料フィルタエレメントの交換

- ①燃料フィルタのコックを閉じてください。
- ②カップ上部のリテーナリングを戻してカップを外し、内部を軽油で洗浄します。
- ③新しいフィルタエレメントと交換します。

注意

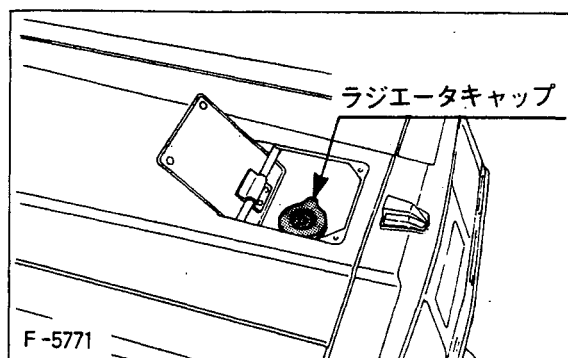
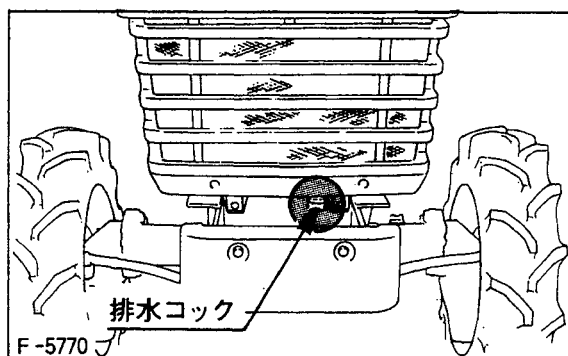
- (1)組付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
- (2)エレメントを交換したのちは、必ず空気抜きを行ないましょう。



冷却水の交換

■交換のしかた

- ①ラジエータ下側の排水コックとラジエータキャップを開き、冷却水を全部出します。
リザーブタンクの排水は、ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。



- ②水道の水でラジエータ内を洗浄し、排水コックを締めてください。
- ③ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入し、キャップを確実に締めてください。

■冷却水の補給

通常は補給の必要はありませんがリザーブタンクの冷却水がLOW以下の場合、LOWとFULLのレベルの間まで補給が必要です。

FULL以上は入れないでください。

安全ポイント

- ラジエータキャップは、エンジン運転中及び停止直後に開けると、熱湯が噴出することがありますので、停止後十分冷えてからにしてください。

▶もし怠ると……

熱湯によりヤケドすることがあります。

■不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており、冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が0℃以下になるようなときは、必ず不凍液(ロングライフクーラント)を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は、冷却水を完全に排水してください。

[工場出荷時は、不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。]

注意

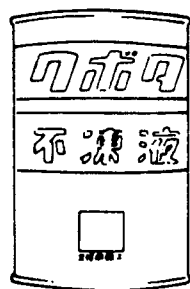
- (1)冷却水には、不凍液(ロングライフクーラント)を50%入れ、よく水と混ぜ合せてからお使いください。

- (2)不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはオーバーヒートの原因になります。

- (3)不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり、エンジン部品に悪影響を与えます。

- (4)クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。

必ず2年で交換してください。



F-1012

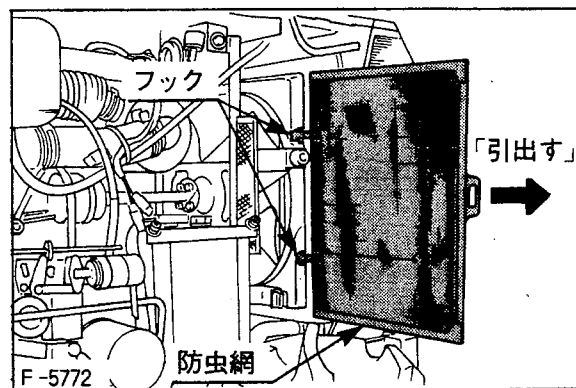
■防虫網の清掃

安全ポイント

- エンジンは必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると、防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがありますので、こんなときは防虫網を清掃してください。

フックを外し、防虫網を引出して掃除します。



■ラジエータコアの清掃

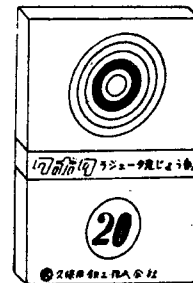
フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は、水道水(圧力水)で流してください。

注意

- ヘラやドライバなど固いもので清掃してはいけません。特殊フィンを傷めラジエータの機能をなくす原因になります。

■ラジエータの洗浄

洗浄には、クボタラジエータ洗じよう剤No.20を使用すれば、水アカなどきれいに洗浄できます。



Z-1009

■ラジエータから水漏れした場合

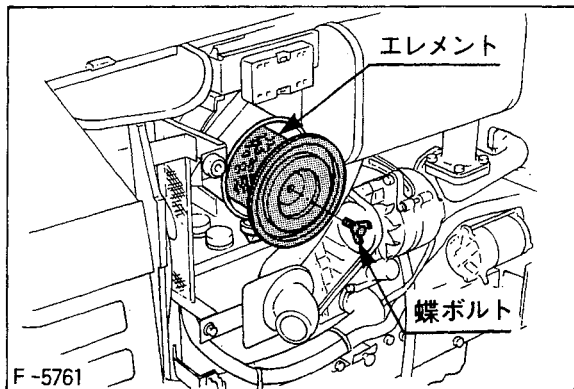
- (1)少しの水漏れの場合は、クボタラジエータセメントNo.40を使用すれば、止まります。

- (2)水漏れが激しい場合は、お買いあげいただいた販売店・農協に御相談ください。

エアークリーナエレメントの交換

■エレメントの外し方

蝶ボルトを外し、エレメントを取出します。



■エレメントの清掃

エレメントの清掃は、エレメントの内側から空気を吹付けるか、又は軽く手で振ってゴミを取除いてください。

■エレメントの交換

エレメントの交換は1年間使用後、又は6回掃除ごとに交換が必要です。

注意

- (1) 乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用してはいけません。
- (2) エレメントは、清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。

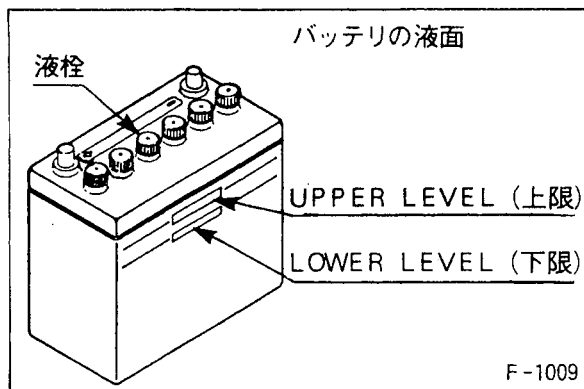
バッテリー液の点検と補給

バッテリーはMF(メンテナンスフリー)バッテリーを使用しておりますので従来品に比べ、液減りの度合がきわめて少なくなっています。側面に2本の線(レベル)がありますので、その間に液面があればよく、少ないときは下記要領で上側の線(レベル)まで蒸留水を補給してください。

◆MF(メンテナンスフリー)バッテリーの補水のしかた

- (1) バッテリー上フタの補水キャップ(6個)を外します。2～3mmの丸棒を補水キャップの穴に入れて上に持上げるとキャップが外れます。
- (2) 6個の補水穴から蒸留水をまんべんなく上側の線(レベル)まで補水します。

- (3) キャップを元の穴に押し込みフタをします。



注意

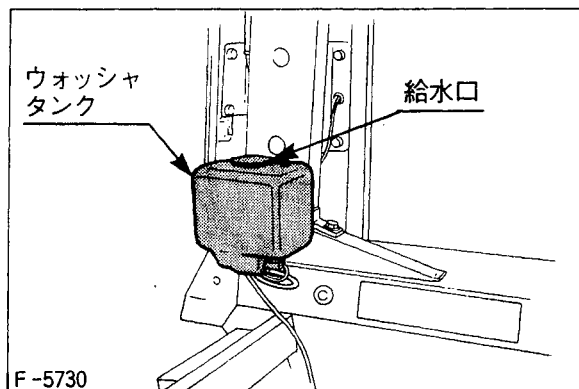
- (1) バッテリー液が不足するとバッテリーを傷め、多いと液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
- (2) バッテリーの充電は必ず本体から取外して行なってください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
- (3) バッテリーにコードを接続するときは、⊕と⊖をまちがわないようにしてください。まちがうとバッテリーと電気系統が故障します。
- (4) バッテリーからコードを外すときは⊖側、取付けるときは⊕側から行なってください。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。
- (5) 充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕に、バッテリーの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して、普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがわないように注意してください。
- (6) バッテリーの寿命がなくなり、新品のバッテリーと交換する場合には必ず指定のバッテリーを使用してください。(54・55ページ参照)
- (7) バッテリーを外し、再度取付けるときにはバッテリーの⊕、⊖のコードを元どおりに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。

安全ポイント

- (1) バッテリー液を身体や服に付けないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
▶もし怠ると……
希硫酸によって、ヤケドすることがあります。
- (2) バッテリーの点検及び取外し時には、エンジンを停止し、メインスイッチを「OFF」にしてください。

ウィンドウォッシャ液の補給【W仕様】

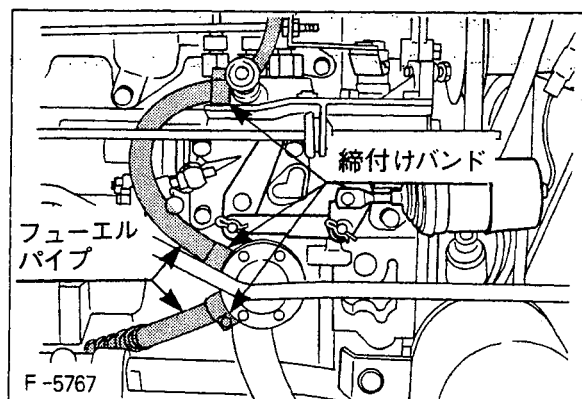
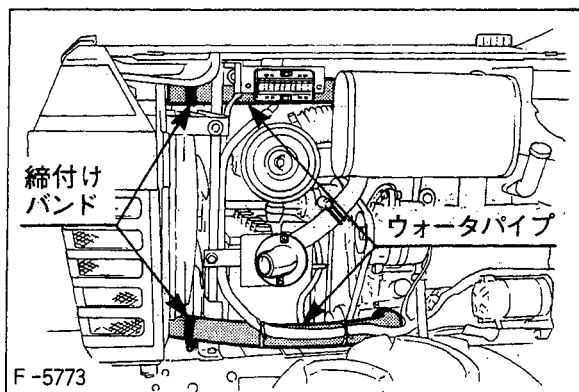
ウィンドウォッシャ液の量が少ない場合、規定量まで補給してください。



パイプ類の点検

燃料パイプやラジエータホースなどのゴム製品は、使わなくても老化する消耗品です。締付けバンドと共に2年ごと又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

- (1)パイプ類や締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか常に注意してください。
- (2)燃料パイプを交換する場合は、必ず空気抜きをする必要があります。



注意

- 交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると、噴射ポンプの作動不良の原因になります。

安全ポイント

- 燃料パイプ、ウォーターパイプの傷みや締付けバンドのゆるみは、必ず点検しましょう。
- ▶もし怠ると……
- 燃料もれによる火災や傷害事故、熱湯もれによるヤケドなどの事故を引起します。

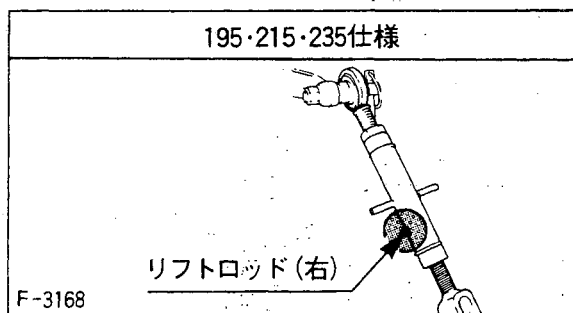
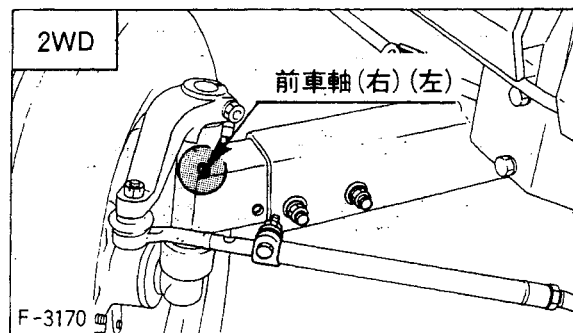
グリースの注入

通常のグリースアップは、定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし、代かき作業などで泥水の中に入ったときは1日の作業が終わったあと必ずグリースアップをしておきましょう。

グリースは、「クボタ推奨グリース」を使用してください。(58ページ参照)

■各部へのグリース注入

シャーシグリースを少量注入します。



255・275・295・315・325仕様

リフトロッド(右)

F-3169

B仕様

倍速カム

F-4751

クラッチペダル

F-4701

ブレーキペダル

F-4772

GST仕様

シフトガイド

F-4950

■前輪ハブ【2WD】

ベアリンググリースを少量注入します。

前輪ハブ

ブレーキの調整

ナットをゆるめターンバックルを回して、ペダルの遊びを調整します。調整後はナット左右各2個を確実に締付けておいてください。

ブレーキペダルを踏込んだとき、駐車ブレーキロックが確実に作動するかを確認してください。

ナット

ターンバックル

ナット

F-3128

安全ポイント

- 調整時左右のペダルの踏み込み量を必ず合わせてください。合っていないとブレーキが片働きになります。

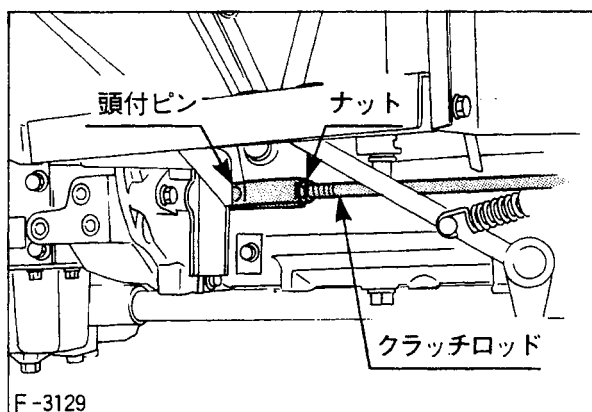
▶もし怠ると……

傷害事故を引起すことがあります。

クラッチの調整

ナットをゆるめ頭付ピンを外してクラッチロッドで、ペダルの遊びを調整します。

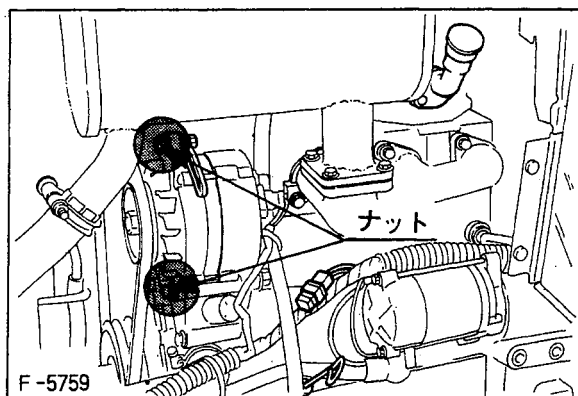
調整後はナットを確実に締付け、更に割ピンは確実に折り曲げておいてください。



ファンベルトの調整

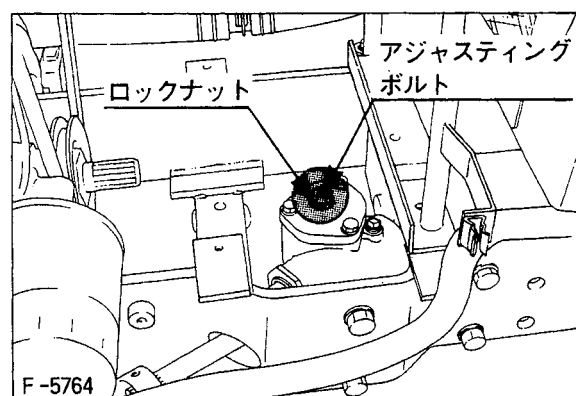
ダイナモを取付けているナット2個とボルト1個をゆるめて、ダイナモを動かして調整します。

調整後はナット・ボルトを確実に締付けておいてください。



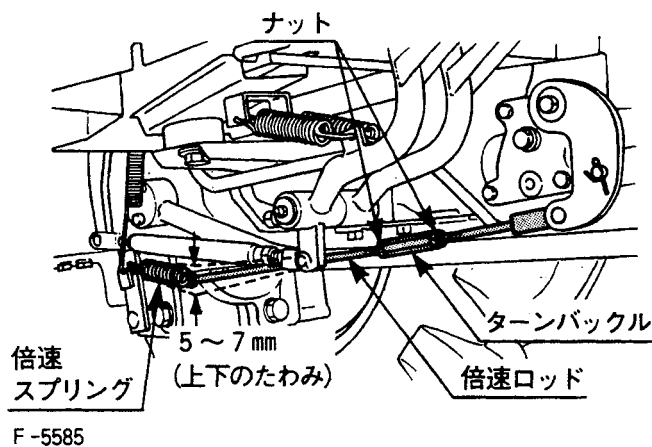
ステアリングハンドルの調整

袋ナットを取外してロックナットをゆるめ、ドライブでアジャスティングボルトを回して調整します。調整後は、ナット及び袋ナットを確実に締付けておいてください。



倍速ロッドの調整【B仕様】

- ①前輪駆動レバーを「倍速」の位置にします。
(前輪は必ず直進状態にしておいてください。)
- ②ナットをゆるめターンバックルを回して、倍速スプリングの上下のたわみが5～7mm程度になるように調整します。調整後はナットを確実に締付けてください。
- ③倍速ターンレバーの「倍速⇄4WD」の切替えがスムーズにできることを確認してください。

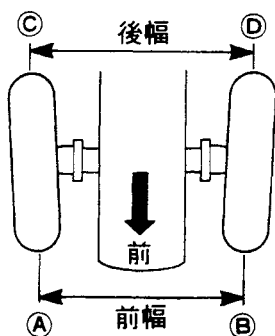


トーインの点検調整

トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり、異常に振れることがあります。

■トーインの点検

前輪の前幅(A・B)と後幅(C・D)を測り、 $C・D - A・B = 2 \sim 8 \text{ mm}$ になっているかを調べます。

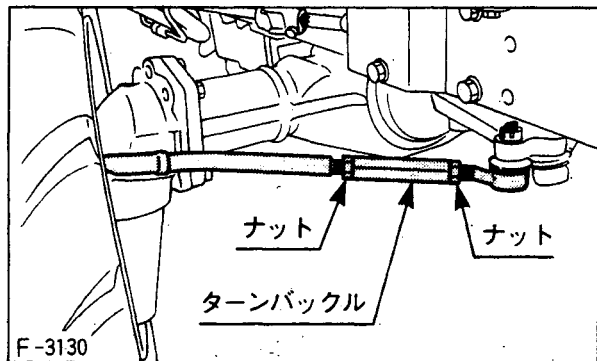


F-3197

■トーインの調整

ナットをゆるめ、 $C・D - A・B = 2 \sim 8 \text{ mm}$ になるように調整します。

調整後はナットを確実に締付けておいてください。



F-3130

注意

- トレッドを調整したときはその都度トーイン調整をしてください。[2WD]

前車軸支持部ガタの点検調整

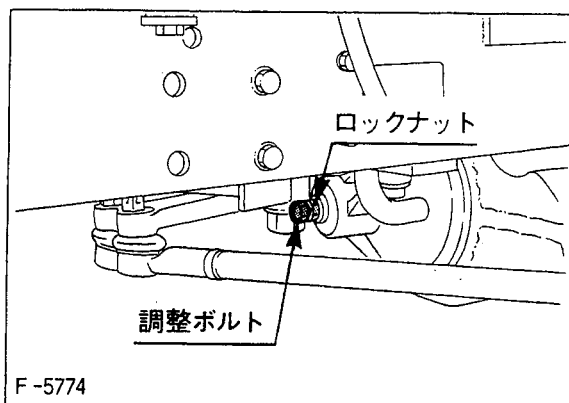
前車軸支持部の調整が悪いと、前輪が著しく振れたり、ハンドルに振動が伝わってきます。

■支持部ガタの点検

前後方向のガタを点検し、ガタがあれば調整します。

■支持部ガタの調整

ロックナットをゆるめ、調整ボルトを締込み、ガタを調整します。

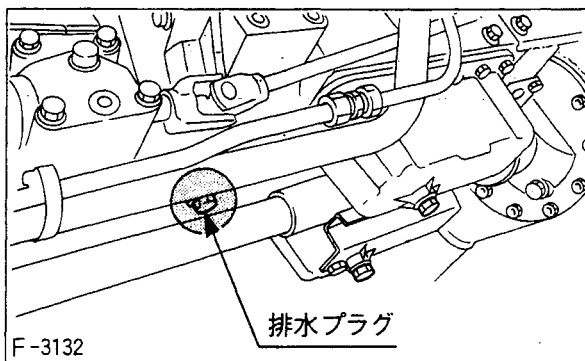


F-5774

クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで、クラッチハウジングに多量の水がかかった場合、又は50時間使用ごとにクラッチハウジング底の排水プラグを外して、水の浸入がないことを確認してください。

もし水が入っていれば、完全に抜いて、内部をよく乾燥してください。



F-3132

電気配線の点検、ヒューズの交換

■ワイヤハーネス、バッテリー⊕コードの点検・交換

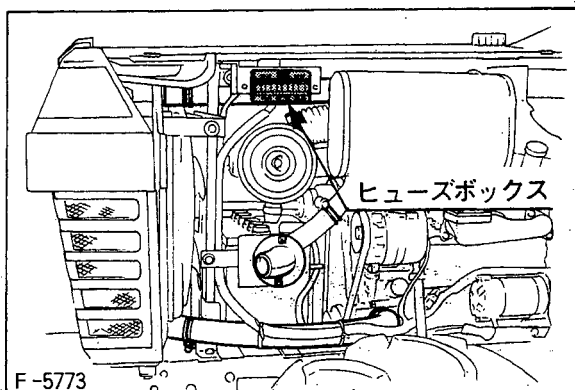
安全ポイント

- (1) ワイヤハーネス及びバッテリー⊕コードが損傷していると、ショートを起こすので必ず点検してください。
- (2) バッテリー、配線及びマフラーやエンジン周辺部にワラクス、ゴミや燃料の付着などがあると、火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス、バッテリー⊕コードの被覆は各部の角に接触、ネズミのかじりなどにより、損傷したり自然劣化することがありますので、下記の項目について定期的に点検してください。

- (1) ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
- (2) ターミナル、ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
- (3) 各スイッチが確実に作動すること。

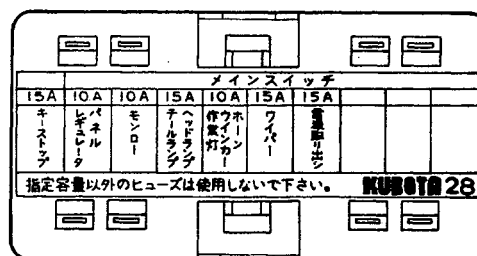
■ヒューズの交換



- ① ヒューズボックスのふたを外す。
- ② ヒューズを外す。

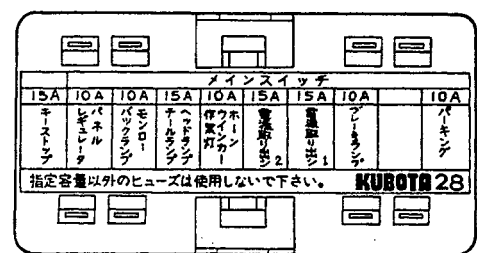
- ③ 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

325仕様以外



F-5775

325仕様

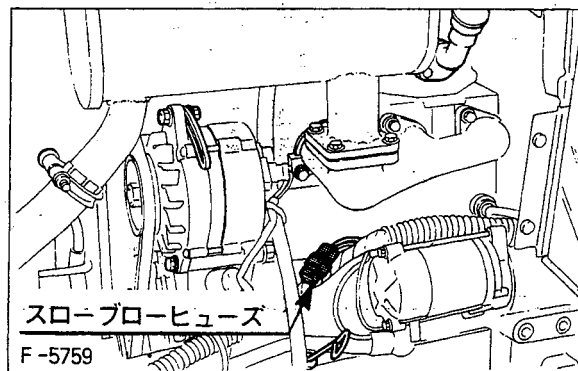


F-5900

注意

- (1) ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、販売店か農協で点検、修理してください。
- (2) トラクタにラジオなどを取付けるときの電源取出しは、販売店・農協又は当社内燃機器支店に御相談ください。

■スローブローヒューズの交換



スローブローヒューズは、配線を保護するためのものです。もし切れた場合は、切れた原因を必ず調べ、決して代用品を使用せず、純正部品を使用してください。

長期格納時の手入れ

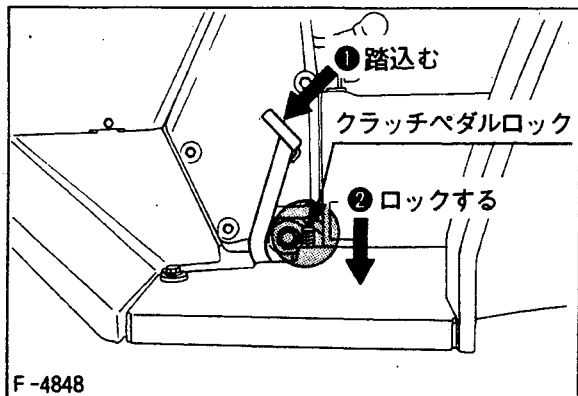
トラクタを長い間使用しない場合は、次の要領で整備してから格納しましょう。

- (1)不具合箇所は整備してください。
- (2)エンジンオイルを交換し、2000回転／分以上で10～15分間の防錆運転をし、各部にオイルをゆきわたらせてください。
その後も1～2カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
- (3)定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。
- (4)車体のさびやすい部分には、グリースかオイルを塗っておいてください。
- (5)燃料コックを「OFF」にしておいてください。
- (6)冷却水は抜いておいてください。
- (7)クラッチペダルは、クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので、クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。

◆クラッチ「切」保持の方法

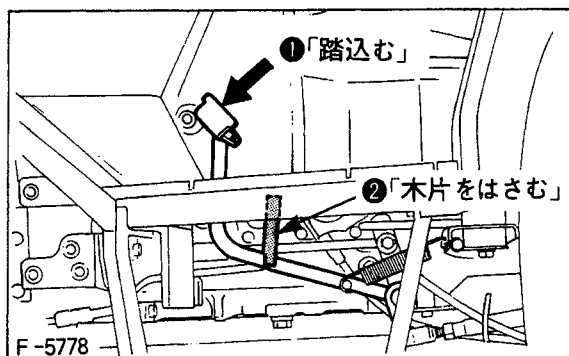
【GST仕様以外】

- ①クラッチペダルをいっぱい踏込んでから、ロックボタンを手で押下げます。
- ②押下げたまま、クラッチペダルから足を離します。
これでクラッチは、「切」の状態が保持されます。
- ③使用するときには、クラッチペダルをいっぱい踏込めば、ロックが外れ、「切」保持の状態が解除されます。



【GST仕様】

クラッチペダルをいっぱい踏込み、下図のように木片をかませておいてください。



- (8)クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して、水が浸入していないことを確認してください。
- (9)タイヤの空気圧は、標準より少し多めにしてください。
- (10)バッテリーを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。また本機に取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。
- (11)ウエイトは取外し、作業機は、外すか地面に降ろした状態にしてください。
- (12)後輪の前後に車止めをしておいてください。
- (13)各部の配線・バッテリーコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは、確実に点検・整備してください。
- (14)格納中バッテリーは、1カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
- (15)格納場所は、周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し、シートをかけるようにしましょう。
- (16)燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ、タンク内のサビの原因になります。

安全ポイント

- シートをかける場合は、マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
▶もし怠ると……
火災を起す原因になります。

注意

- 長期格納時、洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアークリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をしてください。

現 象	原 因	処 置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない。	<ul style="list-style-type: none"> ●燃料タンクを点検し、沈澱している不純物や水分を除く。 ●燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に、空気や水が混入している。	<ul style="list-style-type: none"> ●パイプ及び締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ●空気抜きをする。(40ページ参照)
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジエータに熱湯をそそぐ。 ●気温によってオイルの使い分けをする。 (冬期はD10W30を使用)
	(4)バッテリーがあがり気味で、回転力が弱くなって圧縮を越す勢いが無い。	<ul style="list-style-type: none"> ●バッテリーを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	<ul style="list-style-type: none"> ●燃料を補給する。 ●エンジンの空気抜きコックが開いていないか調べる。
	(2)エアークリーナが目詰まり。	<ul style="list-style-type: none"> ●エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料不足	<ul style="list-style-type: none"> ●燃料を補給する。 ●エンジンの空気抜きコックが開いていないか調べる。
排気色が異常に黒い場合	(1)燃料が悪い。	<ul style="list-style-type: none"> ●良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ。	<ul style="list-style-type: none"> ●正規のオイル量にする。
水温計の指針がレッドゾーンを示すとき	(1)冷却水が100℃以上になったため。	<ul style="list-style-type: none"> ●冷却水の量(不足)及び水もれの点検 ●ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検 ●ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	(1)前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合、又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合、マフラ内部に湿りが残っている。	<ul style="list-style-type: none"> ●負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し、及び、長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	(2)ノズル不良	<ul style="list-style-type: none"> ●ノズルを点検する。
	(3)燃料不良	<ul style="list-style-type: none"> ●良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は、お買いあげいただいた販売店・農協に御相談ください。

主要諸元

(3点リンク・パワーステアリング・モンローマチック付)

型 式	L ₁ -195	L ₁ -195D	L ₁ -215	L ₁ -215D	L ₁ -235	L ₁ -235D	L ₁ -255	L ₁ -255D	L ₁ -255DF	
駆 動 方 式	2輪駆動	4輪駆動	2輪駆動	4輪駆動	2輪駆動	4輪駆動	2輪駆動	4輪駆動	4輪駆動	
機 体 寸 法	全 長(mm)	2890				2940			2990	
	全 幅(mm)	1190		1255		1260		1320		
	全 高(mm)	1375		1390	1375	1405	1390	1425	1415	
	軸 距(mm)	1500				1550				1595
	輪 前 輪(mm)	880	940	960	940	960	940	980~1140 (3 段)	1050	
	距 後 輪(mm)	950, 1070		990, 1110				1020~1320(6 段)		
	最低地上高(mm)	320	275	340	275	345	275	370	315	
重 量(kg)	890	975	930	980	955	1010	990	1070	1110	
エ ン ジ ン	名 称	クボタ D1302-TV		クボタ D1402-TV		クボタ D1462-TVL		クボタ D1462-TV		
	形 式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル								
	総排気量(cc)	1299		1395		1462				
	出力/回転速度 (PS/rpm)	19/2500		21/2500		23/2500		25/2600		
	使 用 燃 料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油								
	燃料タンク容量(ℓ)	29								
	始 動 方 式	セルモータ式 (グロープラグ付)								
	バ ッ テ リ	75D31R(N70Z)12V60AH								
タイ ヤ	前 輪	4.00-12 4PR	6-14 4PR	4.00-15 4PR	6-14 4PR	4.00-15 4PR	6-14 4PR	5.00-15 4PR	7-16 4PR	
	後 輪	8.3-24 4PR ニューバランス タイヤ		9.5-22 4PR ニューバランス タイヤ		9.5-24 4PR ニューバランス タイヤ		11.2-24 4PR ニューバランス タイヤ		
車 体	ク ラ ッ チ 方 式	乾式単板 (シングル)				乾式単板 (シングル, ダブル)			乾式単板 (シングル)	
	制 動 装 置	一系統左右独立 (連結装置付), 湿式ディスクブレーキ (機械式)								
	か じ 取 り 方 式	ボールスクリュ式 (インテグラルパワーステアリング)								
	差 動 方 式	2 ピニオンかさ歯車式(デフロック付)						4 ピニオンかさ歯車式 (デフロック付)		
変 速 方 式	コンスタントメッシュ								GST	
変 速 段 数(段)	前進16, 後進16 (シャトル)								前進8段 後進8段	
走 行 速 度 (km/h)	前 進	0.23~14.50		0.23~14.57		0.24~14.26		0.23~14.89		1.26~14.80
	後 進	0.20~11.67		0.20~11.76		0.23~12.45		0.22~13.53		1.26~13.77
最 小 旋 回 半 径 (ブレーキ使用時) (m)	2.1	2.0	2.1	2.0	2.2	2.0	2.2	2.1		
P T	回 転 / エンジン 速 度 / 回 転 速 度 (rpm)	シングル	556, 774, 938, 1250/2500					578, 805 975, 1300/2600		578, 805 1067, 1300/2600
		シングル 逆 転	715/2500					744/2600		—
		ダブル	—				588, 716 1026, 1250/2500		611, 745 1067, 1300/2600	
O	軸 寸 法(mm)	JIS 35								
作 業 装 置	制 御 方 式	ポジションコントロール								
	装 着 方 式	3点リンク JIS 1形								

(3点リンク・パワーステアリング・モンローマチック付)

型 式	L ₁ -275	L ₁ -275D	L ₁ -295	L ₁ -295D	L ₁ -315	L ₁ -315D	L ₁ -325D	
駆 動 方 式	2輪駆動	4輪駆動	2輪駆動	4輪駆動	2輪駆動	4輪駆動	4輪駆動	
機 体 寸 法	全 長(mm)	2995		3160			3180	
	全 幅(mm)	1380		1420			1520	
	全 高(mm)	1415		1430		1440	2310 (安全フレーム付)	
	軸 距(mm)	1590		1735				
	輪 前 輪(mm)	1050~1450 (5段)	1050	1050~1450 (5段)	1050	1050~1450 (5段)	1090	1190
	距 後 輪(mm)	1050~1520(6段)		1080~1550(6段)				
最低地上高(mm)	355	315	365	315	365	340	360	
重 量(kg)	1045	1115	1155	1190	1155	1230	1390	
エ ン ジ ン	名 称	クボタ D1462-TVH		クボタ V1512-TVL		クボタ V1512-TV		クボタ V1702-TV
	形 式	水冷4サイクル 3気筒立形ディーゼル		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル				
	総排気量(cc)	1462		1499			1732	
	出力/回転速度 (PS/rpm)	27/2700		28.5/2700		30.5/2800		32/2700
	使用燃料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油						
	燃料タンク容量(ℓ)	29				36		29
	始 動 方 式	セルモータ式(グロープラグ付)						
バ ッ テ リ	75D31R(N70Z)12V60AH							
タイ ヤ	前 輪	5.00-15 4PR	7-16 4PR	5.00-15 4PR	7-16 4PR	5.00-15 4PR	8-16 4PR	
	後 輪	12.4-24 4PR ニューバランス タイヤ		13.6-24 4PR ニューバランス タイヤ		13.6-24 4PR ニューバランス タイヤ		13.6-24 4PR ニューバランスタイヤ, Gタイヤ
車 体	クラッチ方式	乾式単板(シングル,ダブル)						
	制 動 装 置	一系統左右独立(連結装置付),湿式ディスクブレーキ(機械式)						
	かじ取り方式	ボールスクリュ式(インテグラルパワーステアリング)						
	差 動 方 式	4ピニオンかさ歯車式(デフロック付)						
	変 速 方 式	コンスタントメッシュ					コンスタントメッシュ 高速シンクロメッシュ	
変 速 段 数(段)	前進16段,後進16段(シャトル)							
走 行 速 度 (km/h)	前 進	0.24~14.44		0.24~14.68		0.25~14.53		0.25~24
	後 進	0.23~12.63		0.22~12.32		0.22~12.21		0.23~20.5
最 小 旋 回 半 径 (ブレーキ使用時)(m)	2.3	2.2	2.4	2.3	2.4	2.3		
P T O	回 転 / エンジン 速 度 / 回 転 速 度 (rpm)	シングル	600, 836, 1038, 1350/2700			622, 867 1077, 1400/2800		634, 773 1108, 1350/2700
		シングル 逆 転	772/2700			801/2800		693/2700
		ダブル	634, 774, 1107, 1350/2700			607, 740 1149, 1400/2800		634, 773 1108, 1350/2700
軸 寸 法(mm)	JIS 35							
作 業 装 置	制 御 方 式	ポジションコントロール					ポジションコントロール (MA:ドラフトコントロール)	
	装 着 方 式	3点リンク JIS 1形						

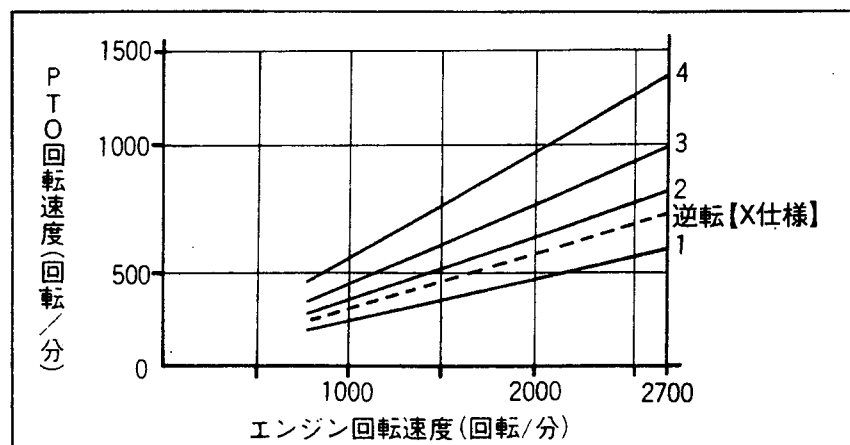
■走行速度表

マルチ レバー	主変速 レバー	L ₁ -195(D)		L ₁ -215(D)		L ₁ -235(D)		L ₁ -255(D)		L ₁ -275(D)		L ₁ -295(D)		L ₁ -315(D)	
		前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	1	0.23	0.20	0.23	0.20	0.24	0.23	0.23	0.22	0.24	0.23	0.24	0.22	0.25	0.22
	2	0.31	0.27	0.32	0.28	0.34	0.32	0.32	0.31	0.34	0.32	0.34	0.30	0.35	0.31
	3	0.38	0.33	0.38	0.33	0.41	0.39	0.39	0.38	0.42	0.40	0.42	0.38	0.43	0.39
	4	0.51	0.44	0.51	0.44	0.54	0.51	0.52	0.51	0.55	0.52	0.54	0.49	0.56	0.51
2	1	0.75	0.65	0.76	0.66	0.74	0.70	0.77	0.75	0.75	0.71	0.77	0.69	0.76	0.68
	2	1.05	0.91	1.05	0.91	1.03	0.97	1.08	1.05	1.05	0.98	1.07	0.96	1.06	0.95
	3	1.27	1.10	1.28	1.11	1.25	1.18	1.31	1.28	1.30	1.22	1.32	1.19	1.31	1.18
	4	1.69	1.47	1.70	1.48	1.66	1.57	1.74	1.70	1.69	1.59	1.72	1.55	1.71	1.54
3	1	1.79	1.56	1.80	1.56	1.91	1.80	1.82	1.78	1.94	1.82	1.91	1.72	1.98	1.79
	2	2.49	2.16	2.51	2.18	2.66	2.51	2.54	2.48	2.70	2.54	2.66	2.40	2.76	2.49
	3	3.02	2.62	3.04	2.64	3.23	3.05	3.07	3.00	3.36	3.15	3.31	2.98	3.43	3.09
	4	4.03	3.50	4.06	3.53	4.30	4.05	4.10	4.00	4.36	4.10	4.30	3.88	4.46	4.02
4	1	5.97	5.19	6.00	5.21	5.87	5.54	6.15	6.01	5.97	5.61	6.08	5.47	6.03	5.43
	2	8.31	7.22	8.36	7.26	8.17	7.70	8.56	8.37	8.32	7.82	8.46	7.63	8.39	7.56
	3	10.07	8.75	10.13	8.80	9.90	9.34	10.37	10.14	10.34	9.71	10.52	9.48	10.43	9.39
	4	14.50	11.67	14.57	11.76	14.26	12.45	14.89	13.53	14.44	12.63	14.68	12.32	14.53	12.21

マルチ レバー	主変速 レバー	L ₁ -325D	
		前進	後進
1	1	0.25	0.23
	2	0.35	0.31
	3	0.55	0.49
	4	0.81	0.73
2	低 高	1	1.2 1.5
		1.1 1.3	
	低 高	2	1.7 2.0
		1.5 1.8	
	低 高	3	2.7 3.2
		2.4 2.9	
	低 高	4	3.9 4.7
		3.5 4.2	
3	1	7.0	6.3
	2	9.8	8.8
	3	15.4	13.9
	4	24	20.5

主変速 レバー	L ₁ -255DF	
	前進	後進
1	1.26	1.26
2	1.75	1.76
3	2.26	2.27
4	3.48	3.48
5	4.98	4.99
6	6.92	6.94
7	8.94	8.95
8	14.80	13.77

■PTO回転速度表



標準付属品

品 名	数 量 / 台		備 考
	195・215 235・255仕様	275・295 315・325仕様	
グリースガン	1	1	
ドライバー	1	1	+, -差換え式
10-12 スパナ	1	1	
14-17 スパナ	1	1	
19-22 スパナ	1	1	
24-27 スパナ	1	1	
17-24 メガネ レンチ	1	1	
プライヤ	1	1	
ハンマ	—	1	
ジャッキ	—	1	ハンドル含む
エアーゲージ	—	1	
スローブローヒューズ	1	1	
メインスイッチキーアッシ	1	1	キー2コ+安全憲章
取扱説明書	1	1	
サービスブック	1	1	
納入品安全説明書	1	1	
安全注意ポスタ	1	1	
P T O軸カバー	1	1	
ボルト	1	1	P T O軸カバー用
平座金	1	1	
バネ座金	1	1	

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル・ギヤーオイル

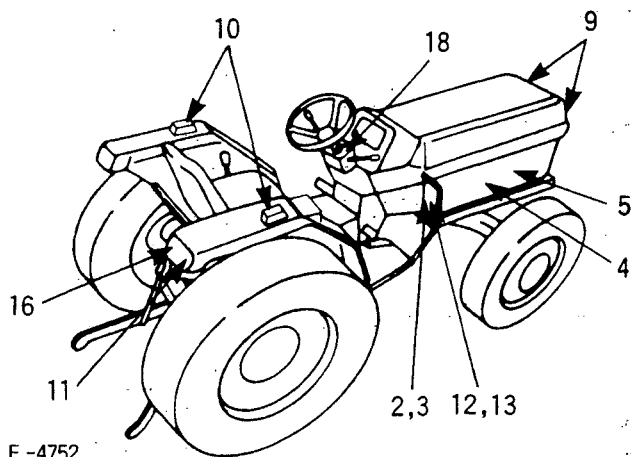
メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル	ギヤーオイルSAE90
日本石油	クボタ純正オイル (ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30 ターボ付エンジンは D30スーパーCD又は D10W30スーパーCD	クボタ純正オイル M80B 又は クボタ純正オイル UDT (油圧駆動用)	クボタ純正オイル M90
コスモ石油			
共同石油			
昭和シェル石油			

寒冷地用としてミッションオイルに**クボタ純正オイル** UDTをおすすめします。

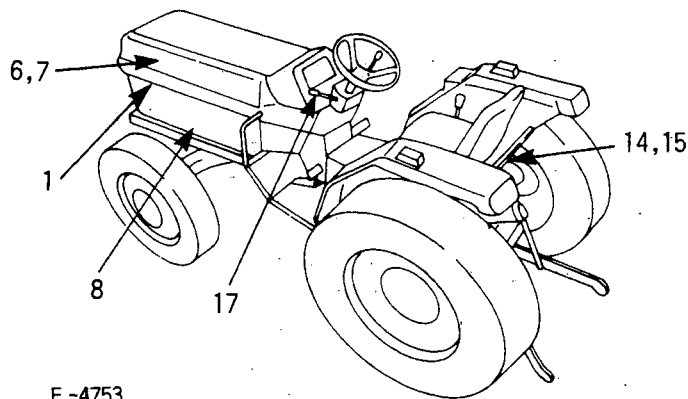
■パワーステアリングオイル・グリース

メーカ	パワーステアリングオイル 〔タービンオイル32(#90相当)〕	グリース	
		シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日本石油	クボタ純正ブレーキオイルBP-32(パワーステアリング兼用)、スーパーハイランド32	エピノックグリースAPNo. 2	PAN WBグリース
コスモ石油	コスモハイドロHV32	ダイナマックスEPNo. 2	ロードマスターNo. 2
共同石油	共石ハイドラックス32	リゾニックスグリースEPNo. 2	リゾニックスグリースNo. 2
昭和シェル石油	テラスオイルC32	レチナックスCD	サンライトグリースNo. 2
モービル石油	モービルハイドロリックオイル28	ブレックス47	モービルグリースJL
エッソ石油	テレソン32	シャーシグリースL	リスタンWB 2
出光興産	ダフニーハイドロリックフルイド32	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
三菱石油	ダイヤモンドハイドフルード32	シャーシグリースNo. 2	ホイールベアリングHDグリースNo. 2
ゼネラル石油	ゼネラルハイドフルード32	シャーシグリースNo. 2	WBグリースNo. 2
キグナス石油	ユニットオイルE32	シャーシグリースNo. 2	MPグリースNo. 2

主な消耗部品一覧表



F-4752



F-4753

エアークリーナ エレメント 1 F-5271	燃料フィルタ 2 3 (エレメント) F-4755	電球 9 (ヘッドライト) 10,11 (ウインカ後) 12 (ウインカ前) 13 (車幅灯) 14 (番号灯) 15 (後退灯) 16 (ブレーキ・テールランプ) F-4759
油圧オイルフィルタ カートリッジ 4 F-6323	エンジンオイルフィルタ カートリッジ 5 F-6342	イージーチェッカ用ランプ グローランプ バッテリーチャージランプ ラジエータランプ エンジンオイルランプ 自己診断ランプ 倍速ターンランプ バックアップランプ 共通 共通 17 F-5086
ヒューズ 6 7 F-4757	スローブローヒューズ 8 F-5849	ボンパスイッチ用ランプ 【MA仕様】 18 F-5584

図番	品 名	品 番	図番	品 名	品 番
1	エアークリーナエレメントアッシ	15741-1108-0	10	デンキュウ	31351-3384-0
2	フューエルフィルタアッシ	15521-4301-3	11	デンキュウ 【325仕様】	68811-5373-0
3	フィルタエレメント	15521-4316-0	12	デンキュウ	38450-3421-0
4	オイルフィルタカートリッジ	34680-3771-0	13	デンキュウ 【325仕様】	38150-3381-0
	オイルフィルタカートリッジ 【キャビン・ハウス・DK・DH・DJ仕様】	34670-3771-0	14	デンキュウ 【325仕様】	36200-7583-0
5	オイルフィルタカートリッジ	17321-3243-0	15	デンキュウ 【325仕様】	36530-7587-0
6	ヒューズ10A	31351-3363-0	16	デンキュウ 【325仕様】	68811-5374-0
7	ヒューズ15A	31351-3364-0	17	ランプ	38240-3147-0
8	スローブローヒューズ	34670-3453-0		ランプ (倍速ターン・バックアップランプのみ)	38070-3147-0
9	デンキュウ	34670-3387-0	18	ランプ	30402-4662-0
	デンキュウ 【325仕様】	38450-3387-0			

アタッチメント一覧表

分類	品 番	品 名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
補助車輪	997422-1002	ストレーク 取付台アッシ	L ₁ -195	●片側にストレーク5枚取付け用 ●8.3-24用	P18, P25, P30, P38の何れかを 5組/台
	997522-1002	ストレーク 取付台アッシ	L ₁ -215	●片側にストレーク5枚取付け用 ●9.5-22用	P18, P25, P30, P38の何れかを 5組/台
	997622-1002	ストレーク 取付台アッシ	L ₁ -235	●片側にストレーク6枚取付け用 ●9.5-24用	P18, P25, P30, P38の何れかを 6組/台
	997722-1002	ストレーク 取付台アッシ	L ₁ -255	●片側にストレーク7枚取付け用 ●11.2-24用	P18, P25, P30, P38の何れかを 7組/台
	997222-1003	ストレーク 取付台アッシ	L ₁ -275	●片側にストレーク7枚取付け用	P18, P25, P30, P38の何れかを 7組/台
	990722-2001	ストレーク 取付台アッシ	L ₁ -295 L ₁ -315 L ₁ -325	●片側にストレーク7枚取付け用	P18, P25, P30, P38の何れかを 7組/台
	997462-5002	P18反転 ストレークアッシ	L ₁ -195 L ₁ -215 L ₁ -235 L ₁ -255 L ₁ -275 L ₁ -295 L ₁ -315 L ₁ -325	シュー幅 18cm ピン式 構成はR, L各1個	上記の水田車輪取 付台アッシ
	995762-6902	P25反転 ストレークアッシ		シュー幅 25cm プレート式 構成はR, L各1個	
	995162-7902	P30反転 ストレークアッシ		シュー幅 30cm プレート式 構成はR, L各1個	
	995162-8902	P38反転 ストレークアッシ		シュー幅 38cm プレート式 構成はR, L各1個	
3点リンク	34660-7110-4	トップリンク アッシ	L ₁ -195 L ₁ -215 L ₁ -235 L ₁ -255	一般作業機用	
	34670-7110-4		L ₁ -275 L ₁ -295 L ₁ -315		
	38150-7110-1		L ₁ -325		
	992512-5001	リンクドロバ	L ₁ -195 L ₁ -215	JIS 1形	3点リンクアッシ
ウェイト	992211-2001	前部ウェイトアッシ	L ₁ -195 L ₁ -215 L ₁ -235 L ₁ -255 L ₁ -275 L ₁ -295 L ₁ -315 L ₁ -325	28kg 前車軸フレームの前部に取付け	

分類	品 番	品 名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
ウ エ イ ト	995111-3001	前輪ウエイトアッシ	L ₁ -195 (4WD用はなし)	7.5kg×4個 4.00-12用	
	997211-3001		L ₁ -215 L ₁ -235 L ₁ -255 L ₁ -275 L ₁ -295 L ₁ -315 (4WD用はなし)	11kg×4個 4.00-15用 5.00-15用	
	992611-5001	後輪ウエイトアッシ	L ₁ -195 L ₁ -215 L ₁ -235	28kg×6個	
	992611-5111	後輪ウエイト		28kg 992611-5001に必要なに応じて追加 全12個まで (タイヤ1.0kg/cm ²)	
	997711-5001	後輪ウエイトアッシ	L ₁ -255	28kg×6個	
	997711-5111	後輪ウエイト		28kg 997711-5001に必要なに応じて追加 全12個まで (タイヤ1.0kg/cm ²)	01173-51680...3コ (ボルト) 04512-50160...3コ (バネ座金)
	992811-5002	後輪ウエイトアッシ	L ₁ -275 L ₁ -295	27.5kg×6個	
	992811-5112	後輪ウエイト	L ₁ -315	992811-5002に必要なに応じて追加	
	34670-13023	バンパウエイト 20	L ₁ -195 L ₁ -215 L ₁ -235 L ₁ -255 L ₁ -275 L ₁ -295 L ₁ -315	20kg, 30kg 前車軸フレームの間に取付け	
	34670-13042	バンパウエイト 30			
そ の 他	990641-5001	強力日よけアッシ	L ₁ -195 L ₁ -215 L ₁ -235 L ₁ -255	L ₁ -R195, L ₁ -R215, L ₁ -R235, L ₁ -R255, L ₁ -R275, L ₁ -R295, L ₁ -R315には専用の強力日よけ 有り。	幌キャビンアタッ チは装着できませ ん。
	990641-4001	サンバイザアッシ	L ₁ -275 L ₁ -295 L ₁ -315	強力日よけアッシ (990641-5001)に追加装着でき ます。	
	990741-5001	安全フレーム用 日よけ	L ₁ -325	標準安全フレームに追加装着で きます。	
	990338-3001	幌キャビン アタッチアッシ	L ₁ -195 L ₁ -215	強力日よけアッシ (990338-5001)を同時購入して ください。本アタッチは強力日 よけに対する追加アッシです。	上記 強力日よけアッシ (990641-5001)に は装着できません。
	990538-3001		L ₁ -235 L ₁ -255	強力日よけアッシ (990538-5001)を同時購入して ください。本アタッチは強力日 よけに対する追加アッシです。	
	990638-3001		L ₁ -275	強力日よけアッシ (990638-5001)を同時購入して ください。本アタッチは強力日 よけに対する追加アッシです。	
	990738-3001		L ₁ -295 L ₁ -315	強力日よけアッシ (990738-5001)を同時購入して ください。本アタッチは強力日 よけに対する追加アッシです。	

分類	品 番	品 名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
その 他	990619-1001	作業灯アッシ	L ₁ -195 L ₁ -215 L ₁ -235 L ₁ -255	12V27W	
	963971-5101	洗車ポンプ	L ₁ -275 L ₁ -295 L ₁ -315 L ₁ -325	PTO軸に取付け	
	99037-71000	L ₁ -215 レインガード キャビン 1組	L ₁ -195 L ₁ -215	R及びU仕様には装着できません。	
	99057-71000	L ₁ -255 レインガード キャビン 1組	L ₁ -235 L ₁ -255		
	99067-71000	L ₁ -275 レインガード キャビン 1組	L ₁ -275		
	99077-71000	L ₁ -315 レインガード キャビン 1組	L ₁ -295 L ₁ -315		
	99037-72000	L ₁ -215 クリヤウインド 1組	L ₁ -195 L ₁ -215	本アタッチはレインガードキャビンに対する追加アッシです。	(99037-71000) レインガードキャビン
	99057-72000	L ₁ -255 クリヤウインド 1組	L ₁ -235 L ₁ -255		(99057-71000) レインガードキャビン
	99067-72000	L ₁ -275 クリヤウインド 1組	L ₁ -275		(99067-71000) レインガードキャビン
	99077-72000	L ₁ -315 クリヤウインド 1組	L ₁ -295 L ₁ -315		(99077-71000) レインガードキャビン
他	99037-73000	L ₁ -215 クリヤウインドⅡ 1組	L ₁ -195 L ₁ -215	本アタッチはレインガードキャビンに対する追加アッシです。 ●ドアの脱着が可能	(99037-71000) レインガードキャビン
	99057-73000	L ₁ -255 クリヤウインドⅡ 1組	L ₁ -235 L ₁ -255		(99057-71000) レインガードキャビン
	99067-73000	L ₁ -275 クリヤウインドⅡ 1組	L ₁ -275		(99067-71000) レインガードキャビン
	99077-73000	L ₁ -315 クリヤウインドⅡ 1組	L ₁ -295 L ₁ -315		(99077-71000) レインガードキャビン

インプレメント一覧表

品 番	品 名	適 用 型 式								メーカ
		195	215	235	255	275	295	315	325	
70281-00012	R2-STWロータリ(センタ)	○	○	○	○					クボタ
70281-00022	R2-STVWロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70283-00013	R3-STW ₂ ロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70283-00023	R3-STVW ₂ ロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70277-00010	R5-STロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70277-00020	R5-STVロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70277-00012	R5-STWロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70277-00013	R5-STW ₂ ロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70277-00022	R5-STVWロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70277-00023	R5-STVW ₂ ロータリ(センタ)	○	○	○	○					
70278-00010	R6-STロータリ(センタ)				○	○	○	○		
70278-00020	R6-STVロータリ(センタ)				○	○	○	○		
70278-00012	R6-STWロータリ(センタ)				○	○	○	○		
70278-00013	R6-STW ₂ ロータリ(センタ)				○	○	○	○		
70278-00022	R6-STVWロータリ(センタ)				○	○	○	○		
70273-00023	R6-STVW ₂ ロータリ(センタ)				○	○	○	○		
70241-00010	RL4-STロータリ(サイド)	○	○							
70241-00020	RL4-STVロータリ(サイド)	○	○							
70241-00110	RL4E-STロータリ(サイド)	○	○							
70241-00120	RL4E-STVロータリ(サイド)	○	○							
70290-00020	RL4F-STVロータリ(サイド)	○	○							
70242-00010	RL5-STロータリ(サイド)			○	○	○				
70242-00020	RL5-STVロータリ(サイド)			○	○	○				
70242-00110	RL5E-STロータリ(サイド)			○	○	○				
70242-00120	RL5E-STVロータリ(サイド)			○	○	○				
70291-00020	RL5F-STVロータリ(サイド)			○	○	○				
70246-00010	RL6-STロータリ(サイド)					○	○	○		
70246-00020	RL6-STVロータリ(サイド)					○	○	○		
70246-00110	RL6E-STロータリ(サイド)					○	○	○		
70246-00120	RL6E-STVロータリ(サイド)					○	○	○		
70292-00020	RL6F-STVロータリ(サイド)					○	○	○		
70248-00010	RL7-STロータリ(サイド)						○	○	○	
70248-00020	RL7-STVロータリ(サイド)						○	○	○	
70260-00010	RL4X-STロータリ(サイド, 正逆転)	○	○							
70260-00020	RL4X-STVロータリ(サイド, 正逆転)	○	○							
70262-00010	RL5X-STロータリ(サイド, 正逆転)			○	○	○				
70262-00020	RL5X-STVロータリ(サイド, 正逆転)			○	○	○				
70295-00020	RL5XF-STVロータリ(サイド, 正逆転)	○	○	○						
70263-00010	RL6X-STロータリ(サイド, 正逆転)					○	○	○		
70263-00020	RL6X-STVロータリ(サイド, 正逆転)					○	○	○		
70267-00010	RL7X-STロータリ(サイド, 正逆転)						○	○	○	
70267-00020	RL7X-STVロータリ(サイド, 正逆転)						○	○	○	
70862-00000	U195Q-5RF補助ユニット(スーパージョイント)	○	○	○	○					
70864-00000	U275Q-5RF補助ユニット(スーパージョイント)					○				
70866-00000	U295Q-5RF補助ユニット(スーパージョイント)						○	○	△	
70868-00000	U325Q-5RF補助ユニット(スーパージョイント)								◎	
70863-00000	U195-5RF補助ユニット(Aフレーム)	○	○	○	○					
70865-00000	U275-5RF補助ユニット(Aフレーム)					○				
70867-00000	U295-5RF補助ユニット(Aフレーム)						○	○	△	
70869-00000	U325-5RF補助ユニット(Aフレーム)								◎	

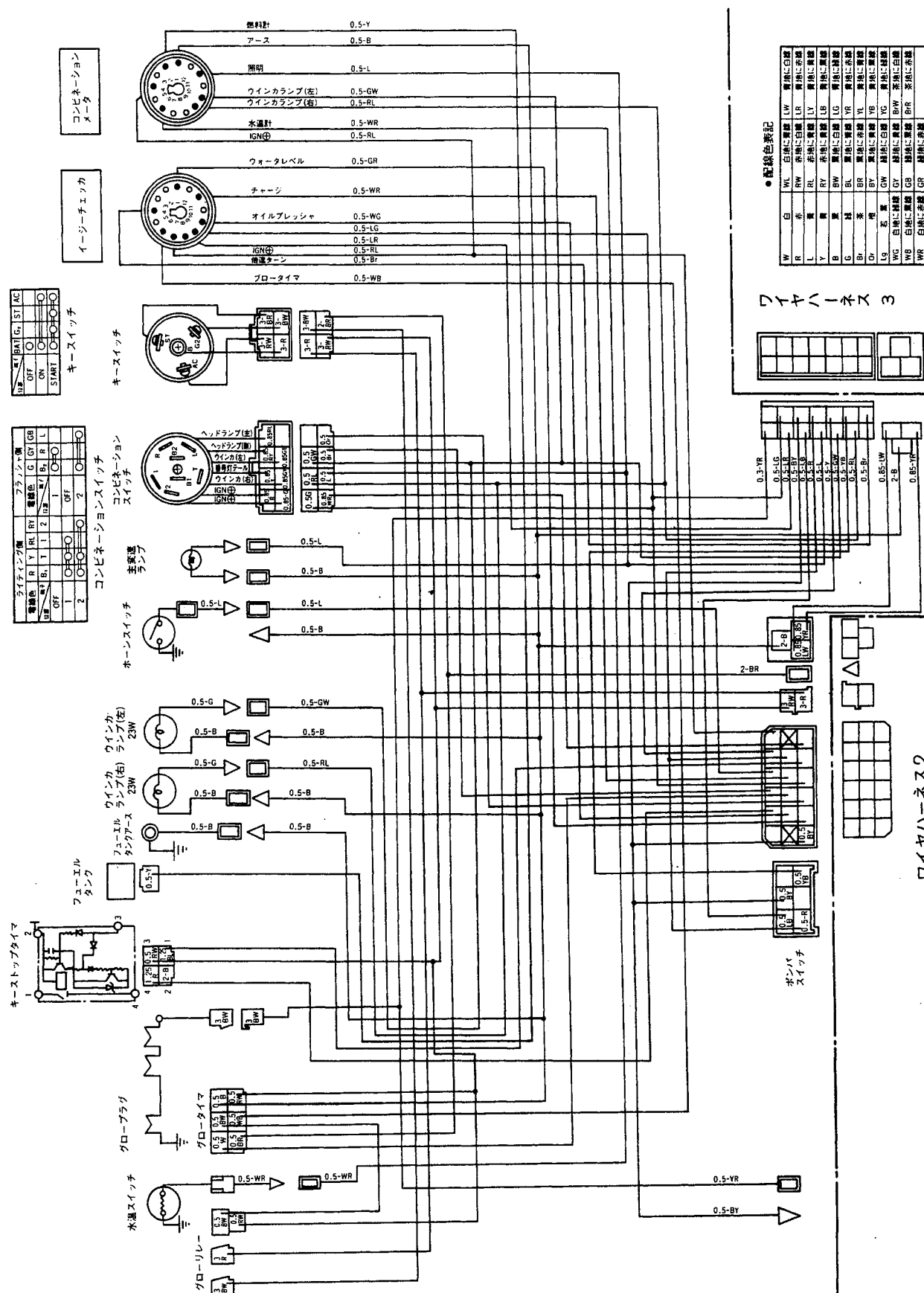
【注1】 ●カバールの種類……STV：畦立機用Vカット付カバー ST：Vカット無しカバー，W：300延長付，
W2：200延長付

●仕向地………F：福岡向(碎土タイプ) ●仕様………E：エコノミー(ロアーリンクの装着はピン式)

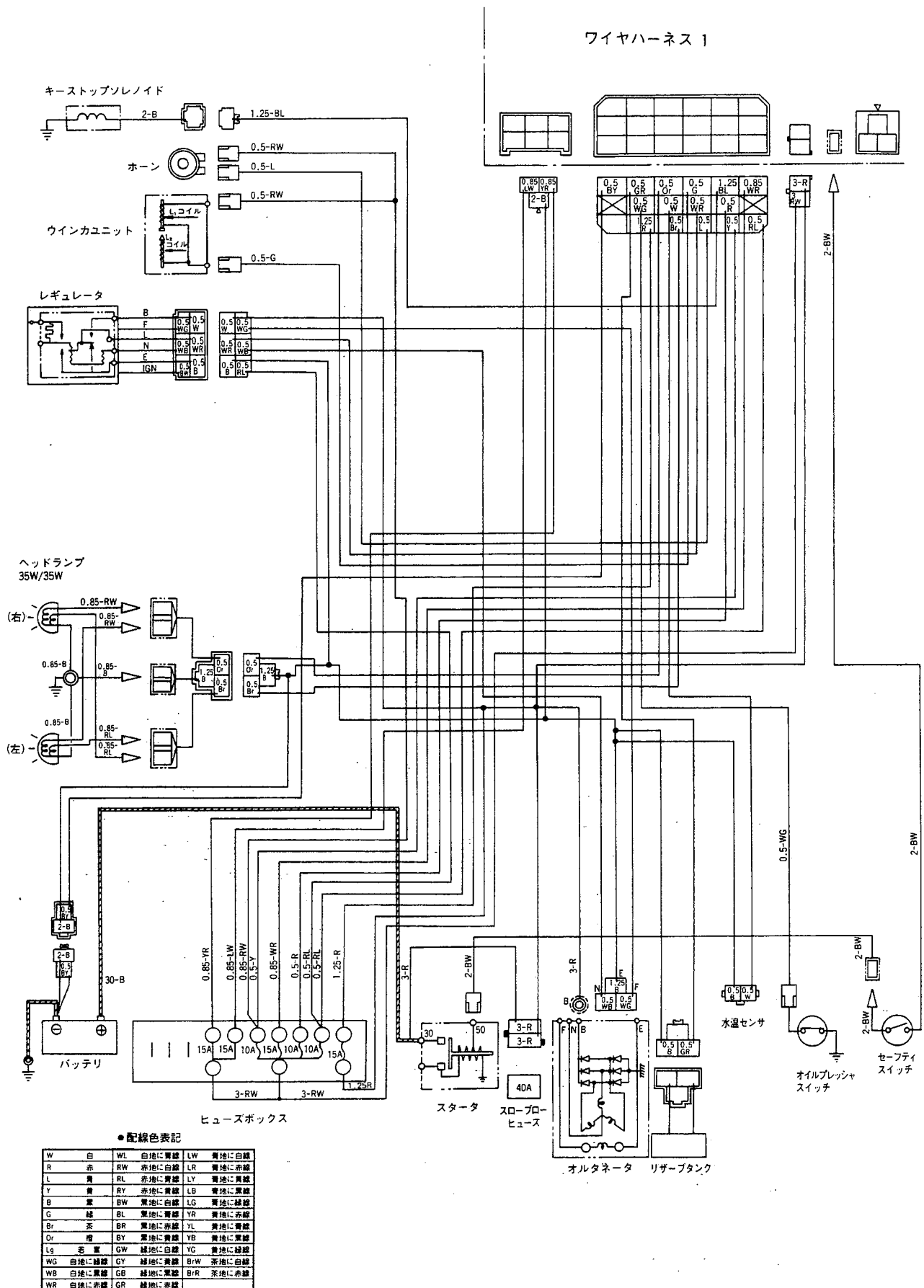
【注2】 ◎………L₁-325MA仕様(オートドラフト) △………L₁-325MA仕様以外

品番	品名	適用型式								メーカー
		195	215	235	255	275	295	315	325	
75831-08070	TLH275ADグレイタスローダ	○	○	○	○	○				クボタ
75831-08080	TLH275AD-SLグレイタスローダ	○	○	○	○	○				
併用アタッチメント										
96261-15001	後輪ウェイトアッシ(28kg×6コ)	○	○	○						
99771-15001	後輪ウェイトアッシ(28kg×6コ)				○					
TLH275AD用先端アタッチメント										
75722-08070	LBH242ADバケット(容量0.13m³)	○	○	○	○	○				
75921-08070	LCBH242AD爪付きバケット(容量0.13m³)	○	○	○	○	○				
75931-08060	LWBH242AD広幅バケット(容量0.13m³)	○	○	○	○	○				
75926-08170	LWCBH242AD広幅爪付きバケット(容量0.13m³)	○	○	○	○	○				
75792-08070	LMH242ADマニアフォーク(タイン本数6本)	○	○	○	○	○				
75798-08090	LWMH242AD広幅マニアフォーク(タイン本数6本)	○	○	○	○	○				
75752-08070	LHH242ADヘイフォーク(タイン本数7本)	○	○	○	○	○				
75941-08070	LGH242ADグレーダ(排土量0.26m³)	○	○	○	○	○				
75970-08060	LPFH242ADバレットフォーク(フォーク長さ705mm)	○	○	○	○	○				
75986-08070	LFH242ADローディングフック(吊り下げ能力300kg)	○	○	○	○	○				
75985-08070	LBHB242ADビートバケット(容量0.23m³)	○	○	○	○	○				
75936-08080	LWKBH242AD軽質広幅バケット(容量0.17m³)	○	○	○	○	○				
75832-08130	TLH315ADグレイタスローダ						○	○		
75832-08140	TLH315AD-SLグレイタスローダ						○	○		
75832-08150	TLH325ADグレイタスローダ								○	
併用アタッチメント										
99281-15001	後輪ウェイトアッシ(27.5kg×6コ)					○	○	○	○	
TLH315AD用先端アタッチメント										
75723-08040	LBH262ADバケット(容量0.16m³)						○	○	○	
75922-08040	LCBH262AD爪付きバケット(容量0.16m³)						○	○	○	
75932-08040	LWBH262AD広幅バケット(容量0.16m³)						○	○	○	
75926-08180	LWCBH262AD広幅爪付きバケット(容量0.16m³)						○	○	○	
75793-08040	LMH262ADマニアフォーク(タイン本数6本)						○	○	○	
75798-08100	LWMH262AD広幅マニアフォーク(タイン本数8本)						○	○	○	
75753-08040	LHH262ADヘイフォーク(タイン本数7本)						○	○	○	
75942-08040	LGH262ADグレーダ(排土量0.35m³)						○	○	○	
75970-08070	LPFH262ADバレットフォーク(フォーク長さ805mm)						○	○	○	
75986-08080	LFH262ADローディングフック(吊り下げ能力350kg)						○	○	○	
75985-08080	LBHB262ADビートバケット(容量0.34m³)						○	○	○	
75936-08090	LWKBH262AD軽質広幅バケット(容量0.17m³)						○	○	○	
75820-08160	XLH285ミニグレイタスローダ	○	○	○	○	○	○			
74242-18070	SD403Dスーパディスク	○	○	○	○					
74251-18010	SD423Dスーパディスク	○	○	○	○					
74243-18060	SD603Dスーパディスク				○	○	○	○	○	
74252-18010	SD623Dスーパディスク	○	○	○	○	○	○	○	○	
71991-11111	TV-25トップリンクバイプロ	○	○	○	○	○	○	○	○	
71991-51111	T-110サブソイラ	○	○	○	○	○	○	○	○	
71997-11111	TV-252トップリンクバイプロ	○	○	○	○					
71977-00000	AT305明渠溝掘機	○	○	○	○	○	○	○	○	
71978-00000	AT455明渠溝掘機	○	○	○	○	○	○	○	○	
78271-29010	SK502S溝掘機	○	○	○	○	○				
71154-00000	DMC1350モーターコンディショナ					○	○	○	○	
78240-06070	TH771トレンチャ					○	○	○	○	
71061-00000	HKLIユアツトリダシL ₁ キット	○	○	○	○	○	○	○	○	
70424-50000 70424-60000	ロータリ マルチ RT1203マルチロータリ	○	○	○						

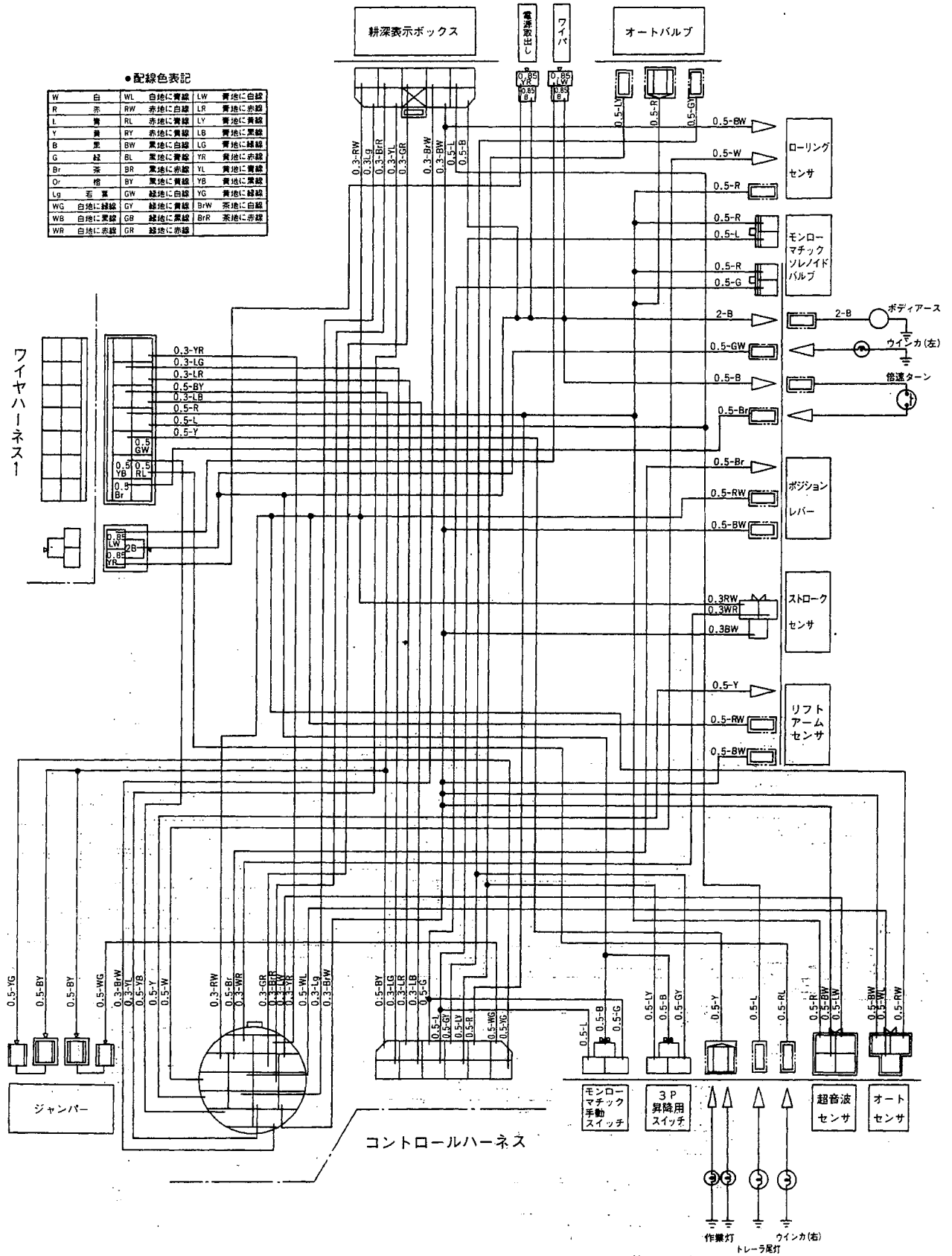
◆ワイヤハーネス1

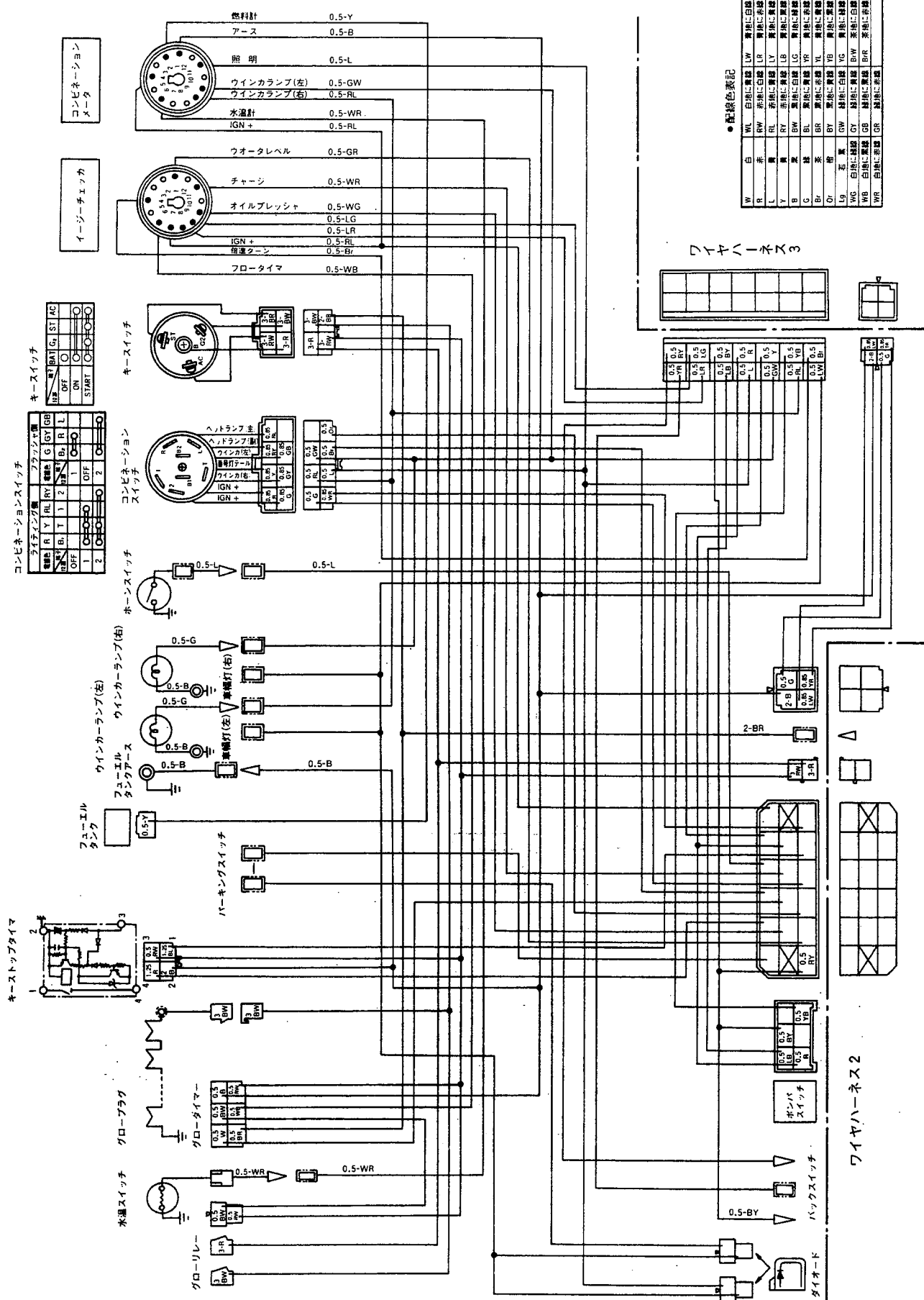


◆ワイヤハーネス2

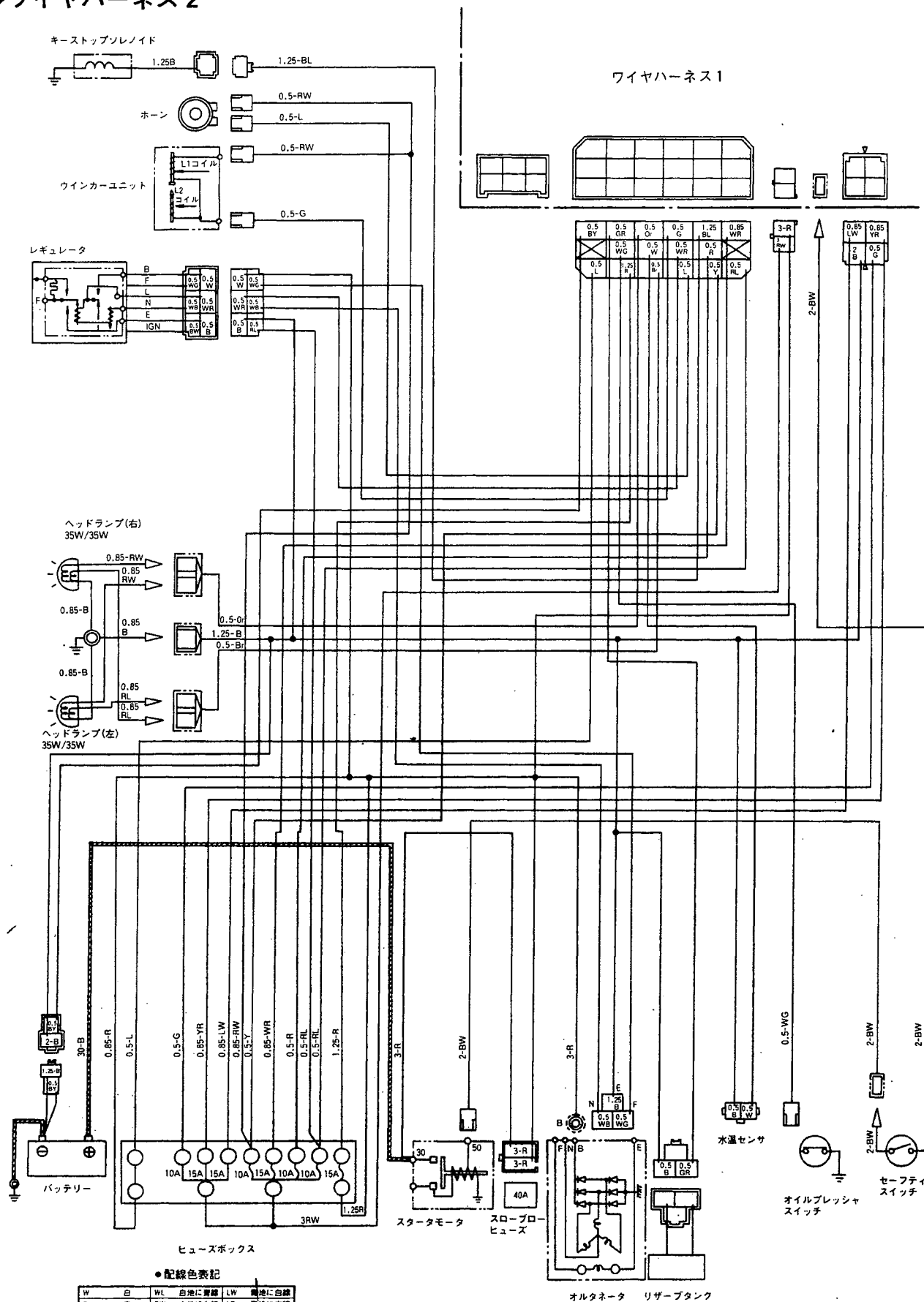


◆ワイヤハーネス 3

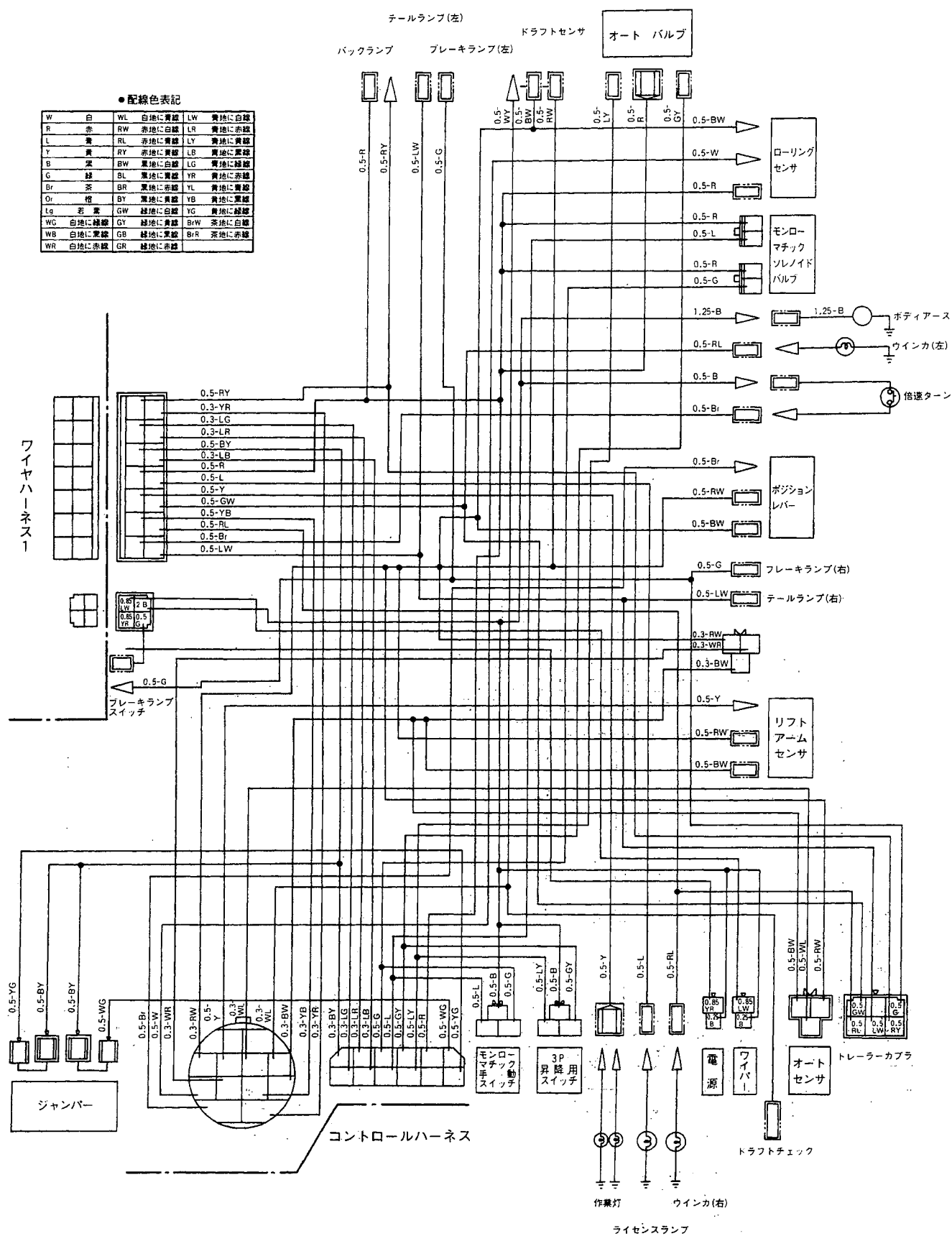


[illegible]

◆ワイヤハーネス 2



W	白	WL	白地に青線	LW	黒地に白線
R	赤	RW	赤地に白線	LR	赤地に赤線
L	青	RL	赤地に青線	LY	青地に青線
Y	黄	RY	赤地に黄線	LY	青地に黄線
B	黒	GW	黒地に白線	LG	青地に緑線
G	緑	BL	黒地に青線	YR	黄地に赤線
Br	茶	BR	黒地に赤線	YL	黄地に青線
O	橙	BY	黒地に黄線	YB	黄地に黒線
G	若草	GY	緑地に白線	YG	黄地に緑線
WG	白地に緑線	GW	緑地に黄線	BrW	茶地に白線
WB	白地に赤線	GB	緑地に赤線	B•R	茶地に赤線
WR	白地に赤線	GR	緑地に赤線		





農用トラクター(乗用型)検査成績表

合格番号 88023 型式名 クボタ L1-255D

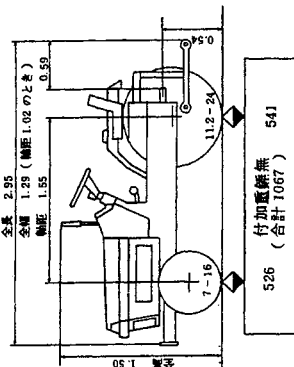
依頼者名 久保田鉄工業株式会社

住所 大阪府大阪市東区東津東1丁目2番47号



I 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ 寸法(m)・質量(kg)



5. 作業機昇降装置

形式：油圧式

制御方式：ボジションコントロール

油圧外部取出口：PS1/4, 1個

作業機装着装置：3点リンク1形

6. 輪 距

前輪：1.05 m (1段階)

後輪：1.02 ~ 1.32 m (6段階)

試験時：前輪 1.05 m, 後輪 1.02 m

7. かじ取装置

形式：インテグラル式

3. 作業機昇降装置性能

速度段	けん引力	けん引出力	速 度
9 速	8.43 kN (860 kgf)	3.71 kW (5.05 PS)	1.58 km/h
14 速	6.28 kN (640 kgf)	13.2 kW (18.0 PS)	7.60 km/h

ポンプ性能 (最大出力時)

流 量	圧 力	出 力
22.4 l/min	12.26 MPa (125 kgf/cm ²)	4.58 kW (6.22 PS)

II 付 記

本機は、高性能農業機械導入基本方針（昭和62年3月5日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第1類に属するものである。

II 検査成績

1. PTO性能 (最大出力時)

出 力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気温度
17.9 kW (24.3 PS)	293 g/kW·h (216 g/PS·h)	578 rpm	12 %

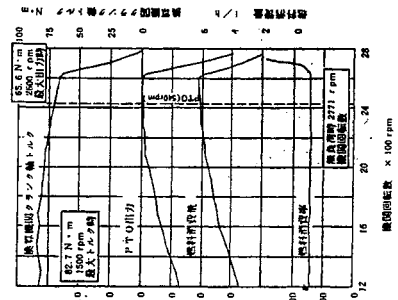


図1 PTO性能曲線

2. 機 関

種類：水冷4サイクル3気筒ディーゼル

呼称出力：18.4 kW (25 PS)

定格回転数：2500 rpm

シリンダ内径×行程：87×82 mm

総行程容積：1.462 l

燃焼室形式：渦流室式

過給機の有無：無

3. 伝動装置

主クラッチ形式：乾式単板

主変速：4 段

副変速：2 段

クリーブ変速：2 段

前進：16 段 (0.2 ~ 13.4 km/h)

後進：16 段 (0.2 ~ 13.1 km/h)

4. 主 PTO

規格：6 スプライン直径 35 mm

回転数 (機関定格のとき)：

正転 578, 805, 975, 1300 rpm

逆転 743 rpm

PTOクラッチ形式：普通形



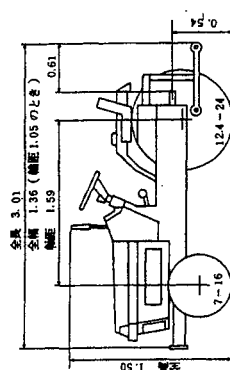
農用トラクター(乗用型)検査成績表

合格番号 88024 型式名 クボタ L1-275D
依頼者名 久保田鉄工株式会社
住 所 大阪府大阪市浪速区新津東1丁目2番47号



I 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ 寸法(m)・質量(kg)



562 (合計1138) 576

5. 作業機昇降装置

形式：油圧式
制御方式：ボジションコントロール
油圧外部取出口：PS1/4, 1個
作業機装着装置：3点リンク1形

6. 輪 距

前輪：1.05 m (1段階)
後輪：1.05 ~ 1.52 m (6段階)
段差時：前輪1.05 m, 後輪1.05 m

7. かじ取装置

形式：インテグラル式

2. けん引性能(コンクリート上)

速度段	けん引	けん引出力	速 度
9速	9.41 kN (960 kgf)	4.61 kW (6.27 PS)	1.76 km/h
14速	6.57 kN (670 kgf)	14.5 kW (19.7 PS)	7.96 km/h

4. 騒音(運転者の耳もと)：88 dB(A)

5. 静的横転傾角：38°
6. 最小旋回半径(ブレーキ使用時)：2.17 m
7. 安全装備 可動部・高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置

3. 作業機昇降装置性能

揚力(圧力11.77 MPa [120 kg/cm ²]のとき)
下部リンクヒッチ点揚力
8.56 kN (875 kgf)
フレーム上の揚力
6.62 kN (675 kgf)

ポンプ性能(最大出力時)

流量	圧 力	出 力
23.3 l/min	11.77 MPa (120 kg/cm ²)	4.57 kW (6.21 PS)

■ 付 記

本機は、高性能農業機械導入基本方針(昭和62年3月5日農林水産大臣公表)に定められたトラクターの第1類に属するものである。

II 検査成績

1. PTO性能(最大出力時)

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気温度
19.0 kW (25.8 PS)	298 g/kWh (219 g/PSH)	589 rpm	12 %

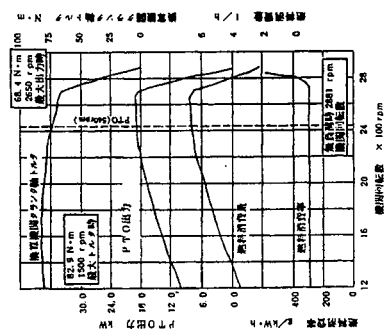


図1 PTO性能曲線

2. 機 関

種類：水冷4サイクル3気筒ディーゼル
呼称出力：19.9 kW (27 PS)
定格回転数：2700 rpm
シリンダ内径×行程：87 × 82 mm
総行程容積：1.462 l
燃焼室形式：油流室式
過給機の有無：無

3. 伝動装置

主クラッチ形式：乾式単板
主変速：4段
副変速：2段
クリップ変速：2段
前進：16段(0.3 ~ 13.6 km/h)
後進：16段(0.2 ~ 12.7 km/h)

4. 主 PTO

規格：6スプライン直径35 mm
回転数(機関定格のとき)：
正転 600, 836, 1038, 1350 rpm
逆転 771

PTOクラッチ形式：普通形



農用トラクター(乗用型)検査成績表

合格番号 88025 型式名 クボタ L1-295D

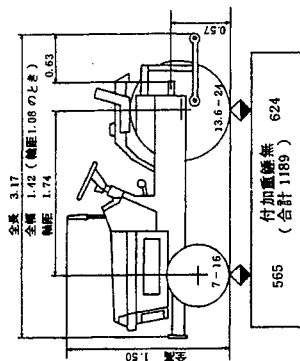
依頼者名 久保田鉄工株式会社

住所 大阪府大阪市浪速区野津東1丁目2番47号



I 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ 寸法(m)・質量(kg)



5. 作業機昇降装置

形式：油圧式

制御方式：ボジションコントロール

油圧外部取出口：PS1/4, 1個

作業機着脱装置：3点リンク1形

6. 輪 距

前輪：1.05 m (1段階)

後輪：1.08 ~ 1.55 m (6段階)

試験時：前輪 1.05 m, 後輪 1.08 m

7. かじ取装置

形式：インテグラル式

2. けん引性能 (コンクリート上)

速度段	けん引力	けん引出力	速度
9速	10.00 kN [1020 kgf]	4.80 kW [6.53 PS]	1.73 km/h
14速	7.06 kN [720 kgf]	15.4 kW [21.0 PS]	7.88 km/h

4. 騒音 (運転者の耳もと) : 90 dB (A)

5. 静的横転傾角 : 37°

6. 最小旋回半径 (ブレーキ使用時) : 2.35 m

7. 安全装備 可動部・高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置

3. 作業機昇降装置性能

揚力 (圧力 11.77 MPa [120 kgf/cm ²] のとき)
下部リンクヒッチ点揚力
8.58 kN [875 kgf]
フレーム上の揚力
6.62 kN [675 kgf]

ポンプ性能 (最大出力時)		
流量	圧力	出力
23.3 l/min	11.77 MPa [120 kgf/cm ²]	4.57 kW [6.21 PS]

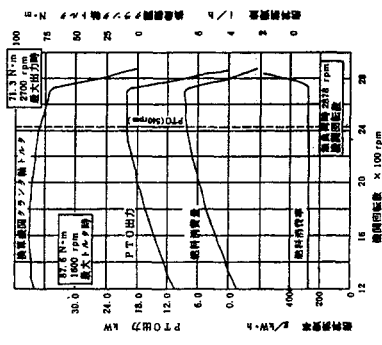
■ 付 記

本機は、高性能農業機械導入基本方針 (昭和62年3月5日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第1類に属するものである。

II 検査成績

1. PTO性能 (最大出力時)

出力	燃料消費率	PTO回転数	排気温度
20.2 kW [27.5 PS]	287 g/kWh [211 g/PSh]	600 rpm	2 %



2. 機 関

種類：水冷4サイクル気筒ディーゼル

呼称出力：21.0 kW (28.5 PS)

定格回転数：2700 rpm

シリンダ内径×行程：76.3 × 82 mm

総行程容積：1.499 l

燃焼室形式：渦流室式

過給機の有無：無

3. 伝動装置

主クラッチ形式：乾式単板

主変速：4段

副変速：2段

クリップ変速：2段

前進：16段 (0.2 ~ 13.6 km/h)

後進：16段 (0.2 ~ 12.2 km/h)

4. 主 PTO

規格：6スプライン直径 35 mm

回転数 (機関定格のとき) :

正転 600, 836, 1038, 1350 rpm

逆転 771

PTOクラッチ形式：普通形

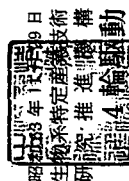
農用トラクター(乗用型)検査成績表

合格番号 88026

型式名 クボタ L1-315D

依頼者名 久保田鉄工株式会社

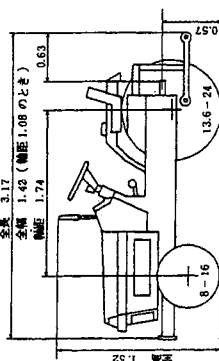
住所 大阪府大阪市浪速区豊津東1丁目2番47号



I 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ 寸法(m)・質量(kg)

5. 作業機昇降装置
形式：油圧式
制御方式：ボジションコントロール
油圧外部取出口：PS1/4, 1個
作業機着装置：3点リンク1形
6. 輪 距
前輪：1.09 m (1段階)
後輪：1.08 ~ 1.55 m (6段階)
試験時：前輪 1.09 m, 後輪 1.08 m
7. かじ取装置
形式：インテグラル式



582 付加重量無 628 (合計 1210)

II 検査成績

1. PTO性能 (最大出力時)

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙速度
21.0 kW [28.6 PS]	294 g/AWh [216g/PSH]	622 rpm	6 %

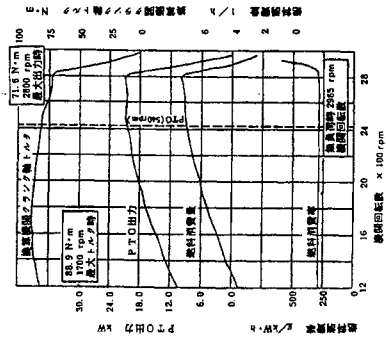


図1 PTO性能曲線

2. 機 関

種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
呼称出力：22.4 kW (30.5 PS)
定格回転数：2800 rpm
シリンダー内径×行程：76.3 × 82 mm

総行程容積：1.499 l

燃焼室形式：渦流室式

過給機の有無：無

3. 伝動装置

主クラッチ形式：乾式単板

主変速：4段

副変速：2段

クリーブ変速：2段

前進：16段 (0.3 ~ 13.4 km/h)

後進：16段 (0.2 ~ 12.1 km/h)

4. 主PTO

規格：6スプライン直径35 mm

回転数 (機関定格のとき)：

正転 622, 867, 1077, 1400 rpm

逆転 800 rpm

PTOクラッチ形式：普通形

2. けん引性能 (コンクリート上)

速度段	けん引力	けん引出力	速 度
9速	10.00 kN [1020 kgf]	5.00 kW [6.80 PS]	1.80 km/h
14速	7.55 kN [770 kgf]	16.2 kW [22.0 PS]	7.70 km/h

4. 騒音 (運転者の耳もと)：90 dB(A)

5. 静的傾転角度：38°

6. 最小旋回半径 (ブレーキ使用時)：2.38 m

7. 安全装備 可動部・高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置

付 記

本機は、高性能農業機械導入基本方針 (昭和62年3月5日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第1類に属するものである。

3. 作業機昇降装置性能

揚力 (圧力 12.16 MPa [124 kgf/cm ²] のとき)	
下部リンクヒッチ点揚力	フレーム上の揚力
8.83 kN [900 kgf]	6.82 kN [695 kgf]

ポンプ性能 (最大出力時)

流量	圧 力	出 力
24.1 l/min	12.16 MPa [124 kg/cm ²]	4.88 kW [6.64 PS]



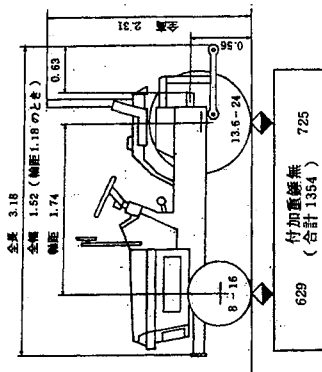
農用トラクター(乗用型)検査成績表

合格番号 88027 型式名 クボタ L1-325D
依頼者名 久保田鉄工株式会社
住 所 大阪府大阪市浪速区豊津東1丁目2番47号



I 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ 寸法 (m)・質量 (kg)



5. 作業機昇降装置

形式：油圧式

制御方式：ポジション及び

ドラフトコントロール

油圧外部出口：PS1/4, 1個

作業機着床装置：3点リンク1形

6. 輪 距

前輪：1.19 m (1段階)

後輪：1.18 ~ 1.55 m (5段階)

試験時：前輪 1.19 m, 後輪 1.18 m

7. かじ取装置

形式：インテグラル式

3. 作業機昇降装置性能

速度段	けん引力	けん引出力	速 度
9速	10.79 kN {1100 kgf}	3.99 kW {5.43 PS}	1.33 km/h
13速	9.51 kN {970 kgf}	16.4 kW {22.3 PS}	6.19 km/h
14速	6.86 kN {700 kgf}	16.9 kW {23.0 PS}	8.86 km/h

4. 騒音 (運転者の耳もと) : 91 dB (A)

5. 静的傾転角 : 39°

6. 最小旋回半径 (フレーキ使用時) : 2.48 m

7. 安全装備 可動部・高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置

付 記

本機は、高性能農業機械導入基本方針 (昭和62年3月5日農林水産大臣公表) に定められたトラクターの第1類に属するものである。

II 検査成績

1. PTO性能 (最大出力時)

出 力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気温度
22.0 kW {29.9 PS}	301 g/kW-h {221 g/PS-h}	635 rpm	10 %

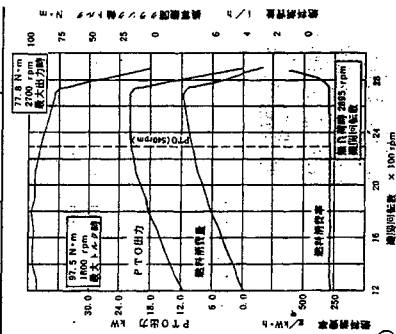


図1 PTO性能曲線

2. 機 関

種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル

呼称出力：23.5 kW { 32 PS }

定格回転数：2700 rpm

シリンダ内径×行程：82×82 mm

総行程容積：1.732 l

燃焼室形式：渦流室式

過給機の有無：無

3. 伝動装置

主クラッチ形式：乾式複板

主変速：4段

副変速：2段

クリーブ変速：2段

前進：16段 (0.3 ~ 22.7 km/h)

後進：16段 (0.2 ~ 20.5 km/h)

4. 主 P T O

規格：6スプライン直径 35 mm

回転数 (機関定格のとき) :

正転 634, 773, 1108, 1350 rpm

逆転 693

PTOクラッチ形式：普通形 (正転2.4速、逆転1速)

二段構込 (正転3速)



農用トラクター（乗用型）用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

合格番号 88016

型式名 クボタ SF-20

依頼者名 久保田鉄工業株式会社

住所 大阪府大阪市浪速区東1丁目2番47号

製造者名 依頼者に同じ

住所



I 装着可能トラクター

1. 型式名	クボタ L1-215 D	クボタ L1-205 D	クボタ L1-200 D	クボタ L1-195 D
クボタ L1-185 D	クボタ L1-185 D	クボタ L1-20 D	クボタ L1-20	
クボタ L1-18 D	クボタ L1-18			

2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）

型式名	クボタ L1-215 D	クボタ L1-18
種類	4 輪駆動	2 輪駆動
質量（フレーム付き） kg	1090	995
軸距 mm	1500	1500
機関出力/回転数 kW (PS)/rpm	15.4 (21)/2500	13.2 (18)/2500

II 構造の概要

1. 構造及び装着方法

供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の4柱式であり、取付金具を介してクランクケース部とフライホイールハウジング部及び防振ゴム・取付金具とフェンダーを介してミッションケース部とブレーキケース部にボルトで装着。

2. 主要寸法

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ	97.0 cm
フロントプレートから屋根部材（上面）までの高さ	138.0 cm
座席基準点上方90 cmの高さにおけるフレームの内幅	81.5 cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	— cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離	— cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離	— cm
ステアリングホイールからフレームまでの最短距離	42.0 cm
戸口の幅	— cm
戸口の幅（上部）	— cm
戸口の幅（中部）	— cm
戸口の幅（下部）	— cm
戸口の高さ	132.0 cm
（フロントプレートから）	— cm
（最高位ステップから）	151.0 cm
（最低位ステップから）	— cm
フレーム装着時のトラクターの全高	195.0 cm
（フレーム上端まで）	— cm
（排気管上端まで）	— cm
フレームの全高	— cm
（フェンダーを含む）	115.0 cm
座席基準点上方90 cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	27.5 cm

※ 1. クボタ L1-215 D、タイヤサイズ：前輪 6-14、後輪 9.5-22 装着時

2. トラクターシートの銘柄形式：難波プレス工業、N 43261

3. 主要材料

主フレーム：STKR41, SS41, SPHC

装着ブラケット：SS41, SPHC

組立・装着ボルト：S43C

4. 主な装備

シートベルト（2点式）

III 検査成績

1. 強度試験

1) 水平荷重試験は、フレームの後方左側、前方右側、側方右側に対して実施。所要吸収エネルギーと圧縮力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は 1090 kg。

所要吸収エネルギー：後部負荷：1.53 kJ (156 kgf・m) 前部負荷：1.05 kJ (107 kgf・m)

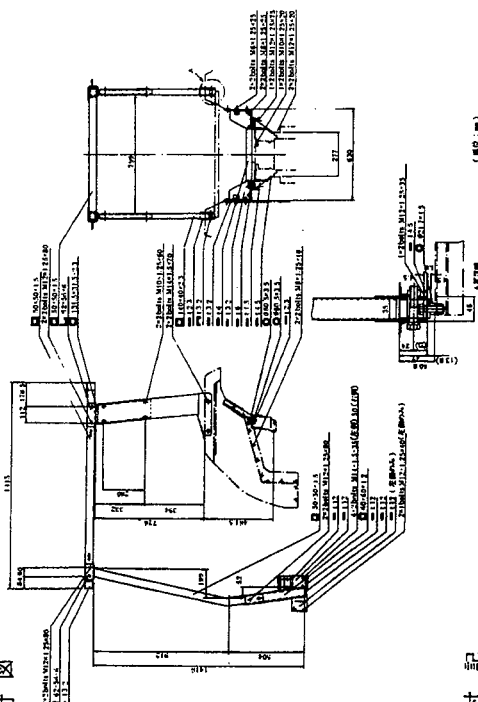
側部負荷：1.91 kJ (195 kgf・m)

圧縮力：21.80 kN (2223 kgf)

2) 試験後のフレームの永久変位

後部（前方へ）：右側 - 4.5 cm 前部（後方へ）：右側 4.5 cm
左側 - 1.0 cm
側部（左側方へ）：前側 3.5 cm 上部（下方へ）：前部 右側 0.5 cm 後部 右側 1.5 cm
後側 11.5 cm 左側 0.5 cm
3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：10.5 cm
2. フレーム内の騒音（7.5 km/h に近い速度段における無負荷走行時、運転者の耳もと）
91 dBA [クボタ L1-215 D] 87 dBA [クボタ L1-18]

IV 付図



V 付記

本フレームは、既合格機（合格番号 86028）であり、装着トラクター 2 型式（クボタ L1-215 D、クボタ L1-195 D）の追加に伴って受検したものである。従って下記の試験成績を転用した。

強度試験、分解調査

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

合格番号 88018 型式名 クボタ SF-26M

依頼者名 久保田鉄工業株式会社
住所 大阪府大阪市東淀川区津東1丁目2番47号
製造者名 依頼者と同じ
住所

I 装着可能トラクター

1. 型式名	クボタ L1-275D	クボタ L1-R-265	クボタ L1-265 D	クボタ L1-265
クボタ L1-R-26	クボタ L1-26 D	クボタ L1-26	クボタ L1-26	
2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）				
型式名	クボタ L1-275 D	クボタ L1-26	クボタ L1-26	
種類	4 輪駆動	2 輪駆動	2 輪駆動	
質量（フレーム付き）kg	1275	1190	1190	
軸距 mm	1590	1685	1685	
機関出力／回転数 kW(rpm)	19.9{27}/2700	19.1{26}/2600	19.1{26}/2600	

II 構造の概要

1. 構造及び装着方法

供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の4柱式であり、取付金具を介してクランクケース部、フライホイールハウジング部とクランクハウジング部及び防振ゴム・取付金具とフェンダーを介してミッションケース部とブレーキケース部にボルトで装着。なお、装着可能トラクターのうち座席及びステアリングホイール等を反転移動できるものに対応するためフレーム上部を伸ばすことができる。

2. 主要寸法

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ	97.5(112.0)cm
フットプレートから屋根部材（上面）までの高さ	138.5(165.0)cm
座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅	81.5(81.5)cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	— (—) cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離	— (—) cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離	— (—) cm
ステアリングホイールリムからフレームまでの最短距離	42.5(22.5)cm
戸口の幅	— (—) cm
戸口の幅	— (—) cm
戸口の幅	— (—) cm
戸口の幅	— (—) cm
戸口の幅	— (—) cm
戸口の幅	— (—) cm
戸口の幅	— (—) cm
戸口の幅	— (—) cm
フレーム装着時のトラクターの全高	132.0(160.5)cm
フレームの全高	151.0(179.5)cm
フレームの全高	199.5(228.0)cm
フレームの全高	— (—) cm
フレームの全高	— (—) cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	115.0(115.0)cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	27.0(15.0)cm

※ 1. クボタ L1-275D、タイプサイズ：別冊7-16、後編12.4-24 表第8頁
2. トラクターシート：鋼板プレス工業、N4350
3. ()内は座席及びステアリングホイール等を反転移動し、フレームを伸ばした状態。

3. 主要材料

主 フ レ ム : STKR41, SS41, SPHC
装 着 フ ラ ケ ッ ト : SS41, SPHC
組 立・装 着 ボ ル ト : S43C
主 な 装 備
シートベルト（2点式）

II 検査成績

1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、フレームの後方左側、前方右側、側方右側に対して実施。所要吸収エネルギーと圧縮力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は1305kg。

所要吸収エネルギー：後部負荷：1.83 kJ {186 kgf・m} 前部負荷：1.15 kJ {118 kgf・m}
圧 縮 力：26.10 kN {2661 kgf}

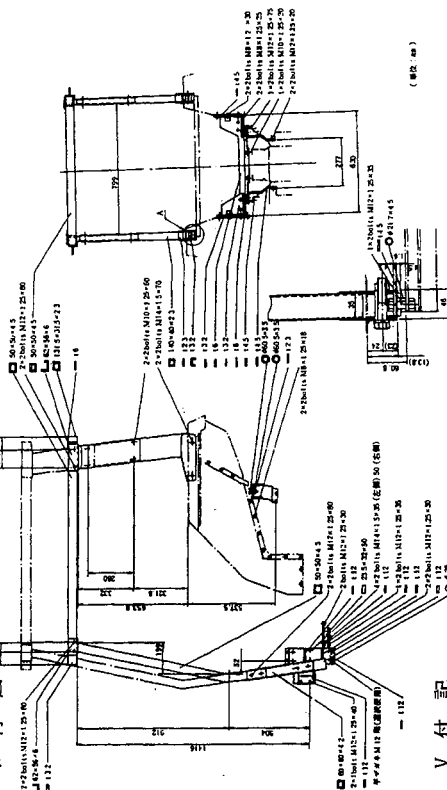
2) 試験後のフレームの永久変位※

後部（前方へ）：{ 右側-3.0(-3.0) cm
左側-2.0(-1.5) cm
側部（左前方へ）：{ 前側 4.5(8.0) cm
後側 13.5(12.0) cm
上部（下方へ）：{ 前部 右側 0(0) cm
左側 1.0(1.0) cm
後部 右側 1.0(0) cm
左側 1.5(2.0) cm

3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位の差※：10.0(9.5) cm
2) フレーム内の騒音（7.5 km/hに近い速度段における無負荷走行時、運転者の耳もと）※
90(90) dBA (クボタ L1-275D) 89 dBA (クボタ L1-26)

※ () 内は座席及びステアリングホイール等を反転移動し、フレームを伸ばした状態。

IV 付 図



V 付 記

本フレームは、既合格機（合格番号 86030）であり、装着トラクター1型式（クボタ L1-275D）の追加に伴って受検したものである。従って下記の試験成績を転用した。
強度試験、分解調査



農用トラクター（乗用型）用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

合格番号 88019 型式名 クボタ SF-28M

依頼者名 久保田鉄工業株式会社

住所 大阪府大阪市東区東津東1丁目2番47号

製造者名 依頼者に同じ

住所

1. 装着可能トラクター

1. 型式名 クボタ L1-315D クボタ L1-295D クボタ L1-R285

クボタ L1-285D クボタ L1-285 クボタ L1-R28

クボタ L1-28D クボタ L1-28

2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）

型式名	クボタ L1-315D	クボタ L1-285	クボタ L1-R285
種別	4輪駆動	2輪駆動	2輪駆動
質量（フレーム付き）kg	1390	1290	1290
軸距mm	1735	1735	1735
機関出力/回転数 kW[rpm]	22.4[3050]	2800	20.6[28]/2700

II 構造の概要

1. 構造及び装着方法

供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルネーによる組立構造の4柱式であり、取付金具を介してクランケース部、ライホイールハウジング部とクラッチハウジング部及び防振ゴム・取付金具とフェンダーを介してミッションケース部とブレーキケース部にボルトで装着。なお、装着可能：トラクターのうち座席及びステアリングホイール等を反転移動でできるものに対応するためフレーム上部を伸ばすことができる。

2. 主要寸法

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ	95.0(110.0)cm
フロントプレートから屋根部材（上面）までの高さ	136.0(163.5)cm
座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅	81.5(81.5)cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	—(—)cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離	—(—)cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離	—(—)cm
ステアリングホイールリムからフレームまでの最短距離	40.0(20.0)cm
戸口の幅	(上部) —(—)cm
	(中部) —(—)cm
	(下部) —(—)cm
戸口の高さ	(フロントプレートから) 131.0(58.5)cm
	(最高位ステップから) 151.0(78.5)cm
	(最低位ステップから) —(—)cm
フレーム装着時のトラクターの全高（フレーム上端まで）	199.0(227.5)cm
	(排気管上端まで) —(—)cm
フレームの全高	(フェンダーを含む) 114.0(114.0)cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	23.5(21.0)cm

※ 1 クボタ L1-315D、タイヤサイズ：前輪 8-16、後輪 13.6-24 装着時

2 トラクターシートは標準型式：難燃プレス工業、N43260

3 (内)は座席及びステアリングホイール等を反転移動し、フレームを伸ばした状態。

3. 主要材料

主フレーム：STKR41、SS41、SPHC

装着ブラケット：SS41、SPHC

組立・装着ボルト：S43C

主な装備

シートベルト（2点式）

III 検査成績

1. 強度試験

1) 水平荷重試験は、フレームの後方左側、前方右側、側方右側に対して実施。所要吸収エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は1350 kg。

所要吸収エネルギー：後部負荷：1.89 kJ {193 kgf・m} 前部負荷：1.18 kJ {120 kgf・m}

側部負荷：2.36 kJ {241 kgf・m}

圧壊力：27.00 kN {2753 kgf}

2) 試験後のフレームの永久変位率

後部（前方へ）：右側-2.5(-2.0)cm 前部（後方へ）：右側 3.5(2.0)cm

側部（左側方へ）：左側 3.0(-1.0)cm 上部（下方へ）：前部 右側-1.0(-1.0)cm

側部（左側方へ）：後部 4.5(8.5)cm 上部（下方へ）：前部 右側-1.0(-1.0)cm

後部 0 (-0.5)cm 左側 1.0(2.0)cm

側部（左側方へ）：後部 13.0(11.5)cm

側部（左側方へ）：後部 9.5(9.0)cm

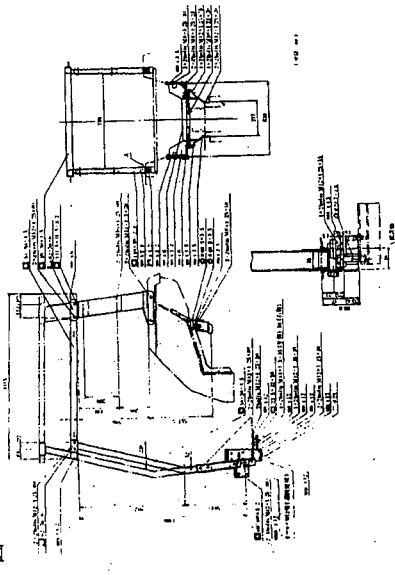
3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：9.5(9.0)cm

2. フレーム内の騒音（7.5 km/hに近い速度段における無負荷走行時、運転者の耳もと）※

93(92)dBA [クボタ L1-315D] 92 dBA [クボタ L1-285]

※ () 内は座席及びステアリングホイール等を反転移動し、フレームを伸ばした状態。

IV 付図



V 付記

本フレームは、既合格機（合格番号 86063）であり、装着トラクター2型式（クボタ L1-315D、クボタ L1-295D）の追加に伴って受検したものである。従って、下記の試験成績を転用した。

強度試験、分解調査



農用トラクター（乗用型）用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

合格番号 88028 型式名 クボタ SF325
依頼者名 久保田鉄工業株式会社
住所 大阪府浪速区難波東1丁目2番47号
製造者名 依頼者に同じ
住所



I 装着可能トラクター

1. 型式名
クボタ L11-325 D

2. 主要諸元
型式名 : クボタ L11-325 D
種類 : 4輪駆動
質量(フレーム付き) kg : 1360
軸距 mm : 1735
機関出力/回転数 kW(PS)/rpm : 23.5(32)/2700

II 構造の概要

1. 構造及び装着方法

供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり、取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

2. 主要寸法

座席基準点から屋根部材(下面)までの高さ	: 123.0 cm
フロントプレートから屋根部材(下面)までの高さ	: 162.5 cm
座席基準点上方90 cmの高さにおけるフレームの内幅	: 89.5 cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	: — cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離	: — cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離	: — cm
ステアリングホイールからフレームまでの最短距離	: — cm
戸口の幅	: — cm
戸口の幅	: — cm
戸口の幅	: — cm
戸口の幅	: — cm
戸口の幅	: — cm
戸口の幅	: — cm
戸口の幅	: — cm
戸口の幅	: — cm
戸口の幅	: — cm
フレーム装着時のトラクターの全高(フレーム上端まで)	: 230.5 cm
フレームの全高	: 102.0 cm
座席基準点上方90 cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	: 38.5 cm

※ 1. クボタ L11-325 D, タイヤサイズ: 前輪 8-16, 後輪 13.6-24 装着時
2. トラクターシートとの隙間形式: 鋼板プレス工業, N 92071

3. 主要材料

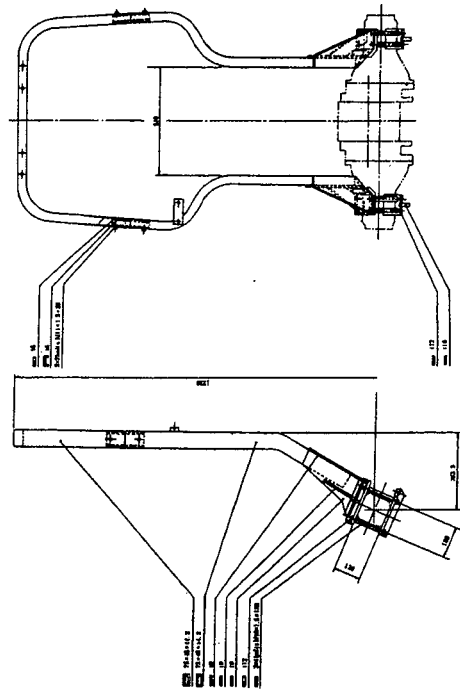
主フレーム: STKR41, SM50B
装着ブラケット: SM50B
組立・装着ボルト: S43C, SCM435
主な装備
シートベルト(2点式)

III 検査成績

1. 強度試験

- 1) 水平負荷試験は、フレームの後方左側、前方右側、側方右側に対して実施。所要吸収エネルギーと圧縮力の算出に用いたトラクター(フレーム付き)の質量は1400 kg。
所要吸収エネルギー: 後部負荷: 1.96 kJ (200 kgf・m) 前部負荷: 1.20 kJ (122 kgf・m)
側部負荷: 2.45 kJ (250 kgf・m)
圧縮力: 28.00 kN (2855 kgf)
- 2) 試験後のフレームの永久変位
後部(前方へ): { 右側 -1.0 cm 側部(左側方へ): 10.5 cm
左側 -1.0 cm
上部(下方へ): { 右側 -1.0 cm
左側 -1.0 cm
側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差: 12.0 cm
- 2) フレーム内の騒音 (7.5 km/hに近い速度域における無負荷走行時、運転者の耳もと) 93 dBA (クボタ L11-325 D)

IV 付図



V 付記

作業ごとの一般的な調整要領

作業内容		操作方法	操 作 調 整 箇 所			コントロールレバー
			オート感度 切換えスイッチ	オート耕深 調節ダイヤル	作業切換え スイッチ	
		F-5749	F-5747			
		作業切換えスイッチ	オート耕深調節ダイヤル	オート感度切換えスイッチ	コントロールレバー	
浅起し (5～8 cm)	オート 【MA仕様】					
	ポジション コントロール		—	—		
一般耕うん (8～15cm)	オート 【MA仕様】					
	ポジション コントロール		—	—		
深起し (15cm以上)	オート 【MA仕様】					
	ポジション コントロール		—	—		
代かき (10～12 cm)	一般 ほ場	オート 【MA仕様】				
	湿田 ほ場	オート 【MA仕様】				
	一般 湿田	ポジション コントロール		—	—	
畝立て		ポジション コントロール	—	—	—	

※主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。
土質など作業条件に合わせて適宜調整してください。

操 作 調 整 箇 所				
【RL仕様】 F-5611	【R仕様】 F-5791	 G-3279	 G-3285	 G-3275
後 2 輪 上 下 調 節		後 2 輪ハンドル	スナップピン	フラップカバー
後 2 輪を 外します	後 2 輪を 外します	—	●上方のスナップピン 上から 3 段目に セット 割りピン スナップ ピン	㊦の位置
㊦の位置	㊦の位置	希望耕深に なるよう調整		㊥又は㊦の位置
後 2 輪を 外します	後 2 輪を 外します	—		㊥の位置
㊦の位置 (必要に応じ て㊥の位置)	㊦の位置	希望耕深に なるよう調整		
後 2 輪を 外します	後 2 輪を 外します	—		●荒起し ㊦の位置 ●細土耕うん ㊥又は㊦の位置
㊦の位置	㊦の位置	希望耕深に なるよう調整		
後 2 輪を 外します	後 2 輪を 外します	—	●下方のスナップピン 接地圧条件に合 せてセット	㊥又は㊦の位置
㊦の位置	㊦の位置	希望耕深に なるよう調整		㊦の位置
後 2 輪を 外します	後 2 輪を 外します	希望耕深に なるよう調整	●カバーを上げス ナ ッ プ ピ ン で セット	フラップカバー を外します

■オートドラフトコントロールによる作業要領【L-325MA仕様】

作業内容	操作調整箇所		
	<p>オート耕深調節ダイヤル</p> <p>作業切換えスイッチ</p> <p>F-5845</p>	<p>作業切換えスイッチ</p> <p>F-5747</p>	<p>オート/ドラフト耕深調節ダイヤル</p>
浅起し			
一般耕うん			
深起し			

◆感度調整要領

ほ場状態	操作調整箇所	
	<p>F-3902</p> <p>トップリンクホルダの位置</p>	<p>オート感度切換えスイッチ</p> <p>F-5845</p> <p>オート感度切換えスイッチ</p>
やわらかいほ場	①又は②の位置	
一般のほ場	②又は③の位置	
かたいほ場	③の位置	

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後12年といたします。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

株式会社クボタ

本 社	社：大阪市浪速区数津東 1 丁目 2 番 47 号	〒556-91	電(06)	648-2111
東 京 本 支 店	社：東京都中央区日本橋室町 3 丁目 1 番 3 号	〒103	電(03)	3245-3111
北 海 道 支 店	社：札幌市中央区北 3 条西 3 丁目 1 番地 44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東 北 支 店	社：仙台市青葉区本町 2 丁目 15 番 11 号	〒980	電(022)	267-9000
中 部 支 店	社：名古屋市中村区名駅 3 丁目 22 番 8 号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九 州 支 店	社：福岡市博多区博多駅前 3 丁目 2 番 8 号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札 幌 支 店	店：札幌市西区手稲東 3 北 3 丁目 2 番地 2	〒063	電(011)	662-2121
仙 台 支 店	店：名取市田高字原 182 番地の 1	〒981-12	電(022)	384-5151
東 京 支 店	店：浦和市西堀 5 丁目 2 番 36 号	〒338	電(048)	862-1121
大 阪 支 店	店：大阪市浪速区数津東 1 丁目 2 番 47 号	〒556-91	電(06)	648-2111
岡 山 支 店	店：岡山市宍甘 275 番地	〒703	電(0862)	79-4511
福 岡 支 店	店：福岡市東区和白丘 2 丁目 2 番 76 号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺 製 造 所	所：堺市石津北町 64 番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇 都 宮 工 場	場：宇都宮市平出工業団地 22 番地 2	〒321	電(0286)	61-1111
筑 波 工 場	場：茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田 10 番地	〒300-22	電(029752)	5112
枚 方 製 造 所	所：枚方市中宮大池 1 丁目 1 番 1 号	〒573	電(0720)	40-1121
堺 部 品 セ ン タ ー	：堺市築港新町 3 丁 8 番	〒592	電(0722)	45-8601
宇 都 宮 部 品 セ ン タ ー	：宇都宮市平出工業団地 38-16	〒321	電(0286)	63-6336
北 海 道 部 品 セ ン タ ー	：北海道札幌郡広島町字大曲 186-37	〒061-12	電(011)	376-2335
筑 波 部 品 セ ン タ ー	：茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田 10 番地	〒300-22	電(029752)	2293
枚 方 部 品 セ ン タ ー	：枚方市中宮大池 1 丁目 1 番 1 号	〒573	電(0720)	40-1797
株式会社クボタアグリ東北				
秋 田 事 業 所	：秋田市寺内字大小路 207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙 台 事 業 所	：宮城県名取市田高字原 182-1	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東 京 事 業 所	：浦和市西堀 5-2-36	〒338	電(048)	862-1121
新 潟 事 業 所	：新潟市上所上 1-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金 沢 事 業 所	：石川県松任市下柏野町 956-1	〒924	電(0762)	75-1121
名 古 屋 事 業 所	：愛知県一宮市観音町 1-1	〒491	電(0586)	24-5111
大 阪 事 業 所	：大阪市浪速区数津東 1-2-47	〒556-91	電(06)	648-2111
株式会社クボタアグリ中四国				
米 子 事 業 所	：米子市米原 570	〒683	電(0859)	33-5011
岡 山 事 業 所	：岡山市宍甘 275	〒703	電(0862)	79-4511
高 松 事 業 所	：香川県綾歌郡国分寺町国分字向 647-3	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福 岡 事 業 所	：福岡市東区和白丘 2-2-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊 本 事 業 所	：熊本県下益城郡富合町大字廻江 846-1	〒861-41	電(096)	357-6181